

# 原子力発電所の環境放射能測定結果

(令和5年度 第1四半期)

東京電力ホールディングス株式会社

福島第一廃炉推進カンパニー

福島第一原子力発電所

福島第二原子力発電所

# 目 次

第1	測定結果の概要	1
第2	測定項目	11
第3	測定方法	15
第4	測定結果	19
1.	空間放射線	19
2.	環境試料	21
第5	原子力発電所周辺環境放射能測定値一覧表	26
	福島第一原子力発電所	
1.	空間放射線	26
2.	環境試料	28
	福島第二原子力発電所	
1.	空間放射線	31
2.	環境試料	33
	添付資料	
	放射性廃棄物管理状況及び試料採取時の付帯データ	36
	福島第一原子力発電所	
	放射性廃棄物管理状況	37
	試料採取時の付帯データ	40
	福島第二原子力発電所	
	放射性廃棄物管理状況	43
	試料採取時の付帯データ	45
	空間線量率等の変動グラフ	48
	〈参考〉地下水バイパス及びサブドレン他浄化設備の処理済水の評価，排水毎の運用目標値	71
	〈参考〉福島第一原子力発電所敷地境界近傍ダストモニタ指示値	76

この報告書は，令和5年10月11日に開催された「環境モニタリング評価部会」において，令和5年度第1四半期の測定結果について報告し，検討されたものを取りまとめたものです。

## 第1 測定結果の概要

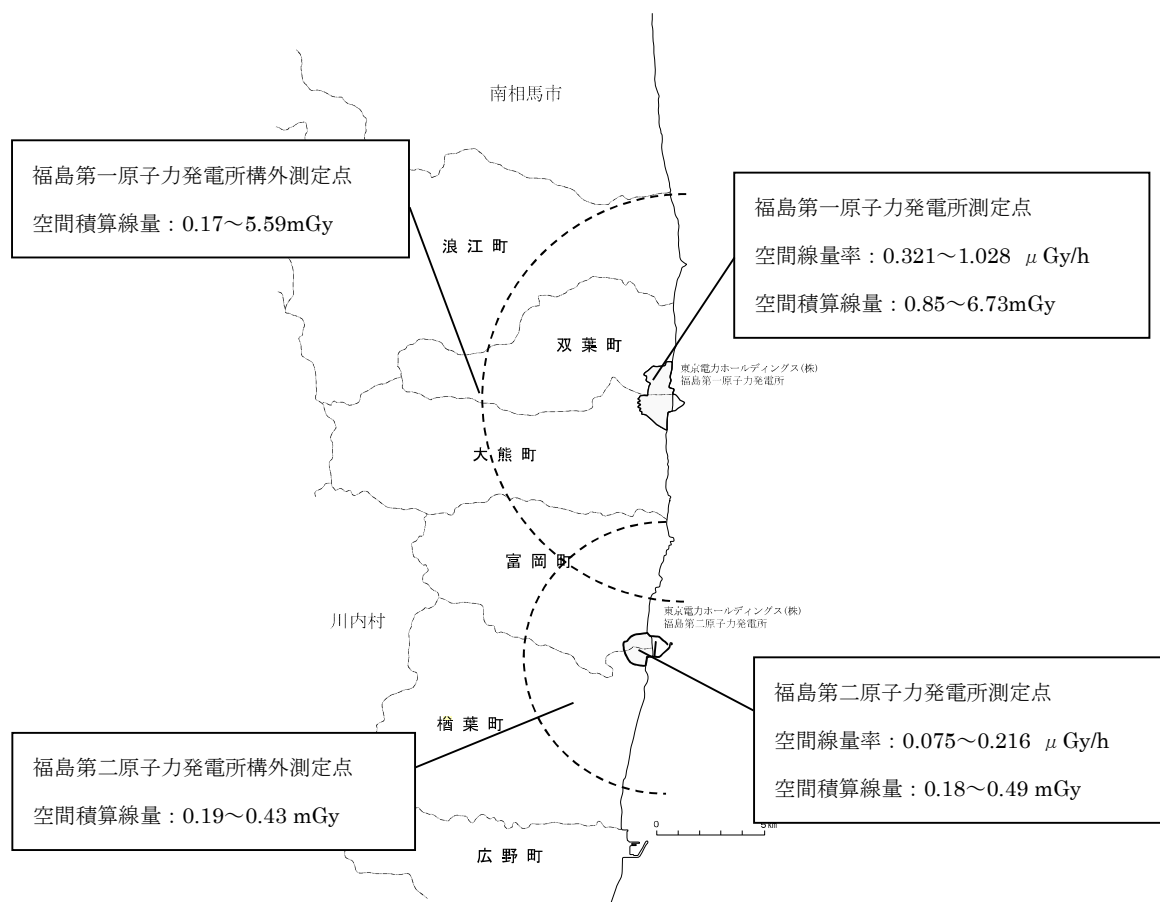
東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所及び福島第二原子力発電所が、令和5年度第1四半期(4月～6月)に実施した原子力発電所周辺の環境放射能測定結果は以下に示すとおりであり、福島第一原子力発電所の事故による影響を受けた空間線量率については事故前の測定値の範囲を上回り、環境試料については一部を除いて事故前の測定値の範囲を上回っておりますが、年月の経過とともに減少する傾向にありました。

### 1 空間放射線

○空間線量率については、福島第一原子力発電所及び福島第二原子力発電所ともに、今期の測定値(月間平均値  $0.075\sim 1.028\ \mu\text{Gy/h}$ )は、事故前の測定値の範囲(月間平均値  $0.031\sim 0.049\ \mu\text{Gy/h}$ )を上回っていますが、概ね前四半期と同程度の値となりました。

○空間積算線量(90日換算値)については、福島第一原子力発電所及び福島第二原子力発電所ともに、今期の測定値( $0.17\sim 6.73\text{mGy}$ )は、事故前の測定値の範囲( $0.10\sim 0.16\text{mGy}$ )を上回っていますが、年月の経過とともに減少する傾向にありました。

※今期の空間線量率及び空間積算線量の範囲



## 2 環境試料の核種濃度

- 大気浮遊じん，土壤，海水，海底土について，福島第一原子力発電所で15試料，福島第二原子力発電所で15試料について，核種濃度の調査を実施しました。

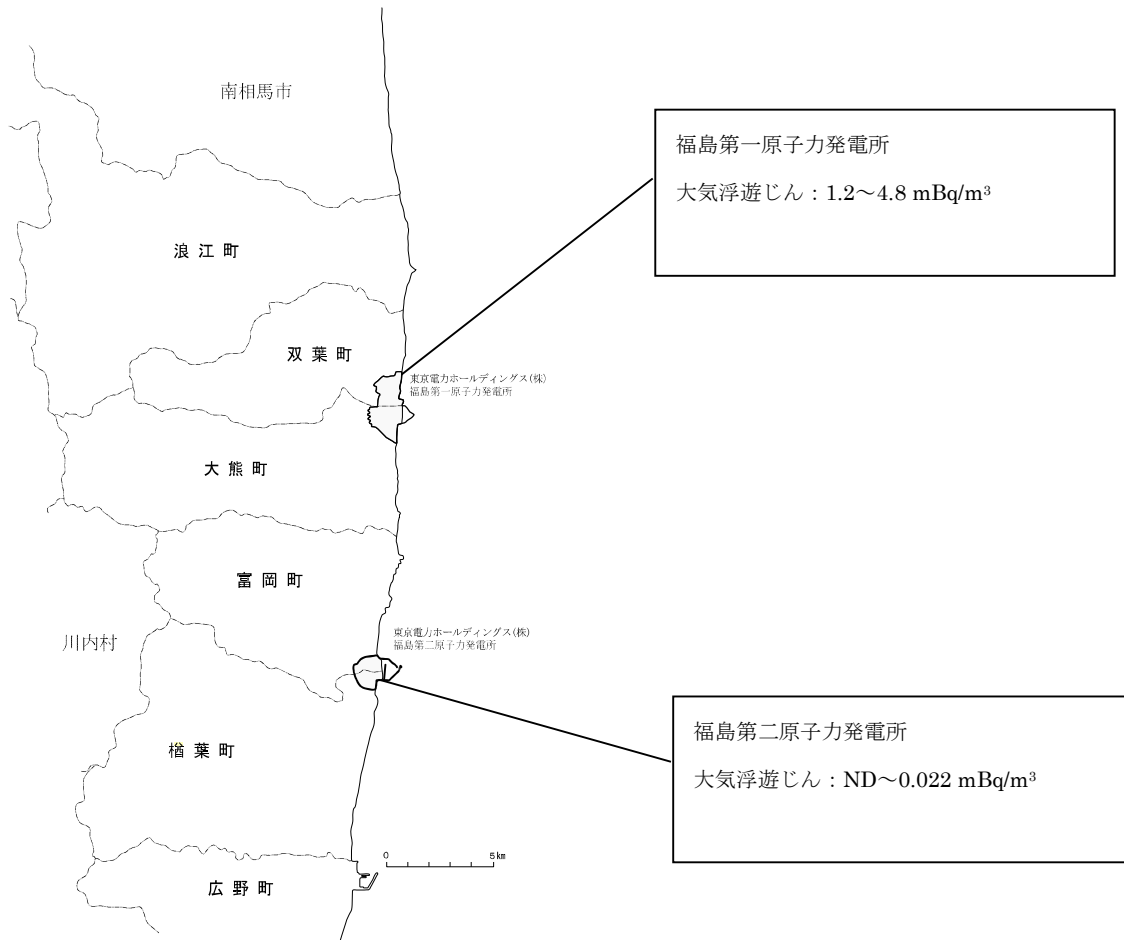
福島第一原子力発電所については，すべての試料からセシウム-137が検出され，海水の一部を除くすべての試料からセシウム-134が検出されましたが，事故直後と比較すると低下しており，前四半期と比較すると概ね横ばい傾向にあります。

福島第二原子力発電所については，大気浮遊じんの一部を除く試料から，セシウム-137が検出され，土壤の一部及び海底土の試料からセシウム-134が検出されましたが，事故直後と比較すると低下しており，前四半期と比較すると概ね横ばい傾向にあります。

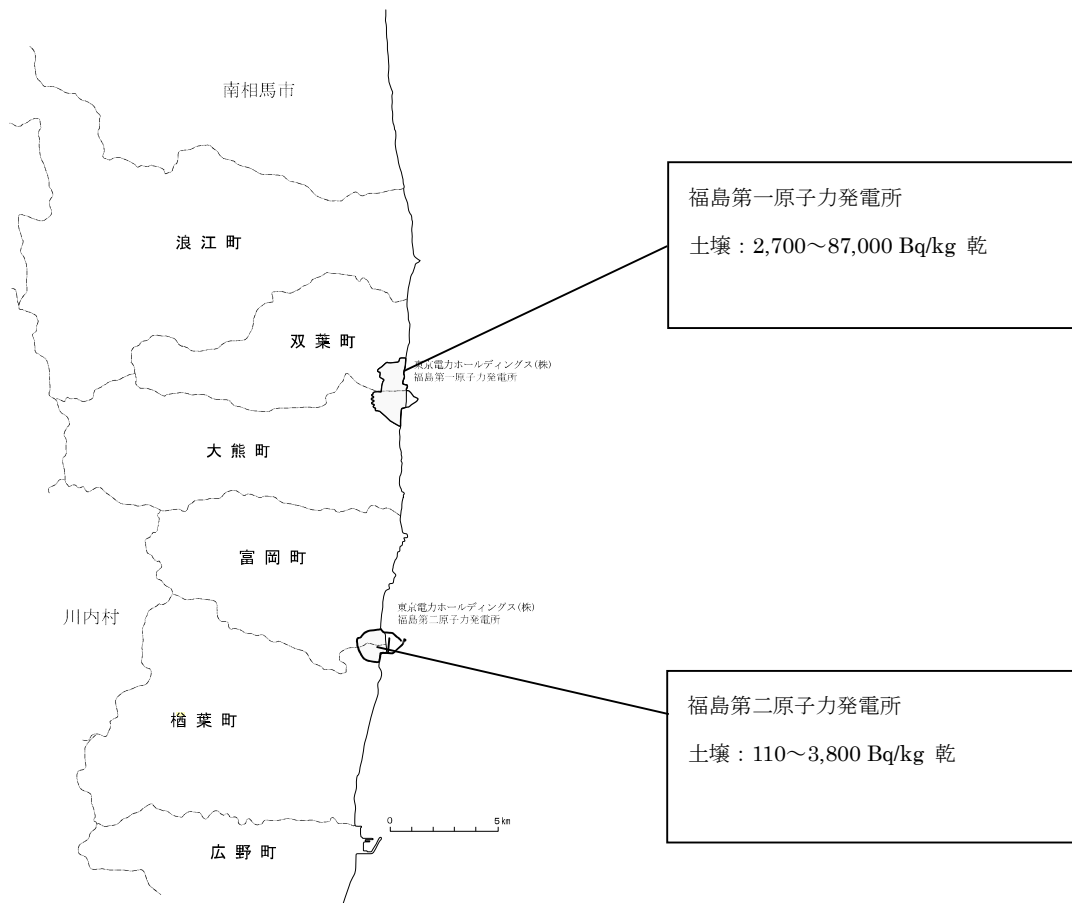
- 海水について，福島第一原子力発電所の3試料及び福島第二原子力発電所の3試料でトリチウムの調査を実施しました。

福島第一原子力発電所及び福島第二原子力発電所のすべての試料から，トリチウムは検出されませんでした。

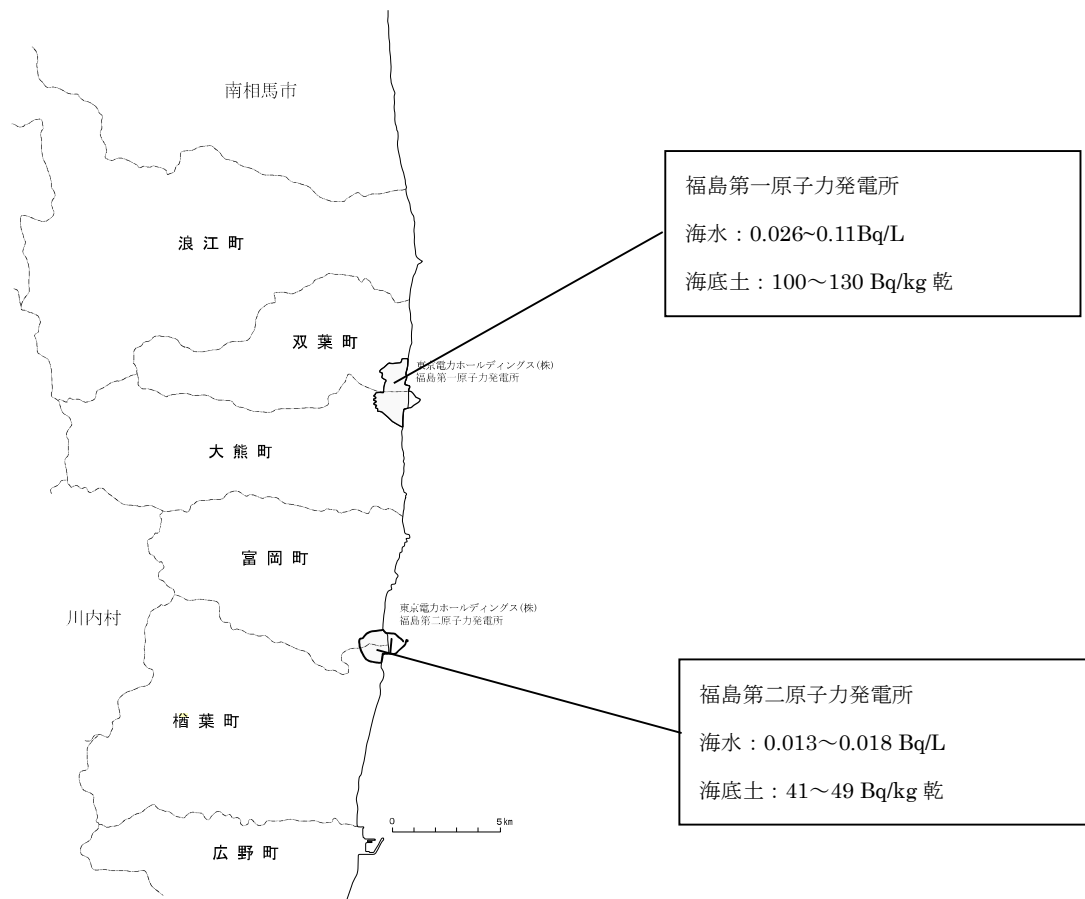
### ※今期の大気浮遊じんのセシウム-137の範囲



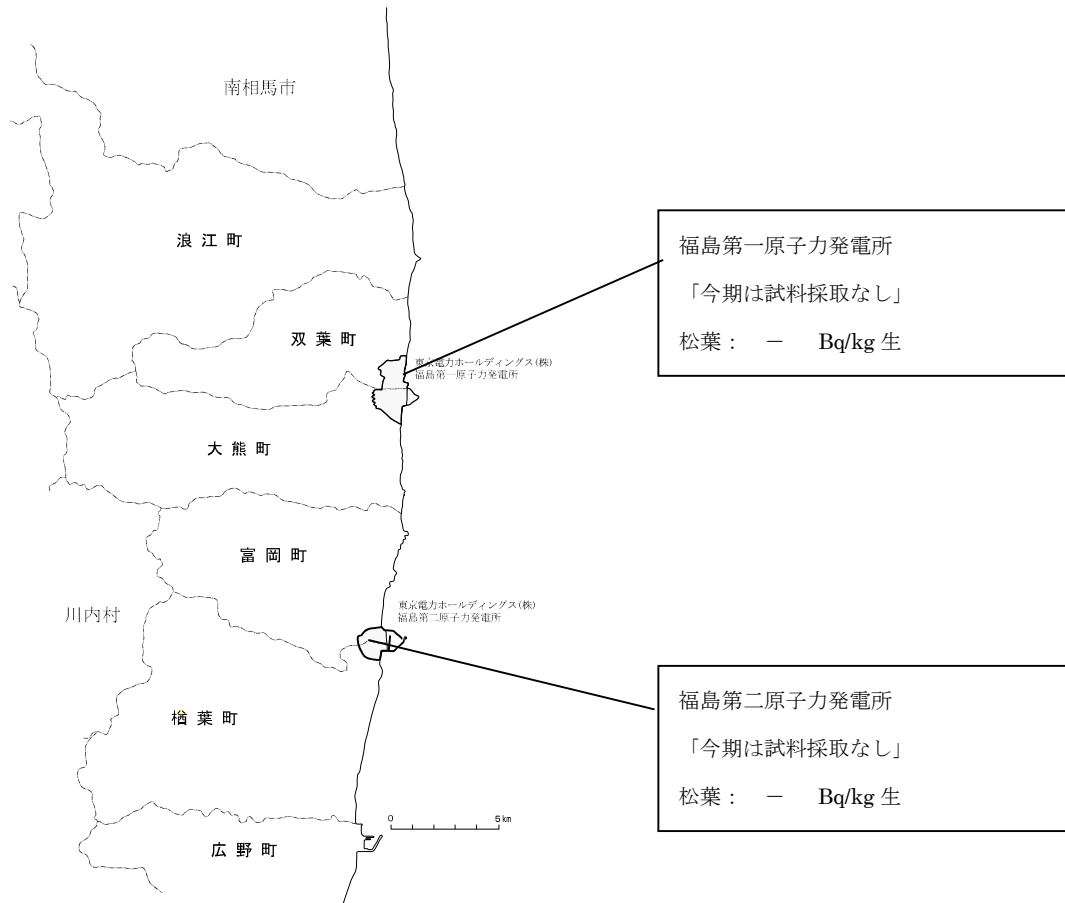
※ 今期の土壌のセシウム-137 の範囲



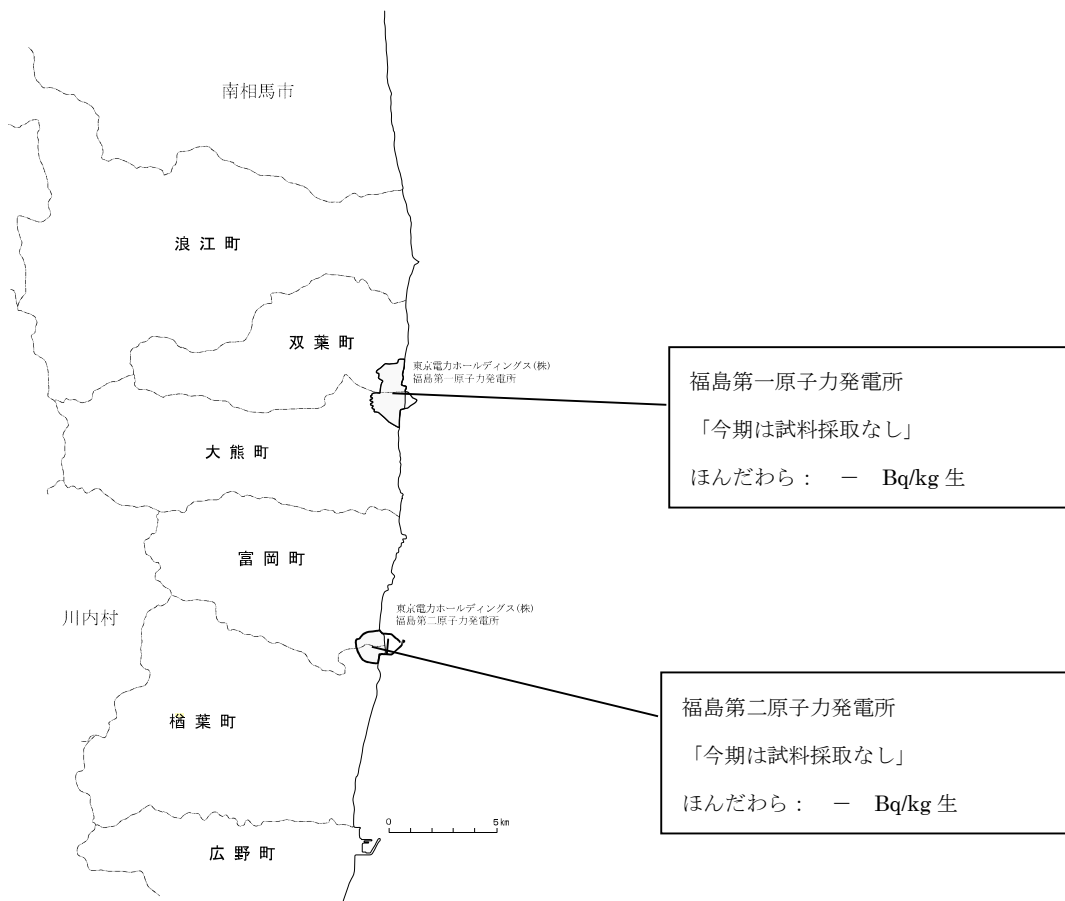
※今期の海水及び海底土のセシウム-137 の範囲



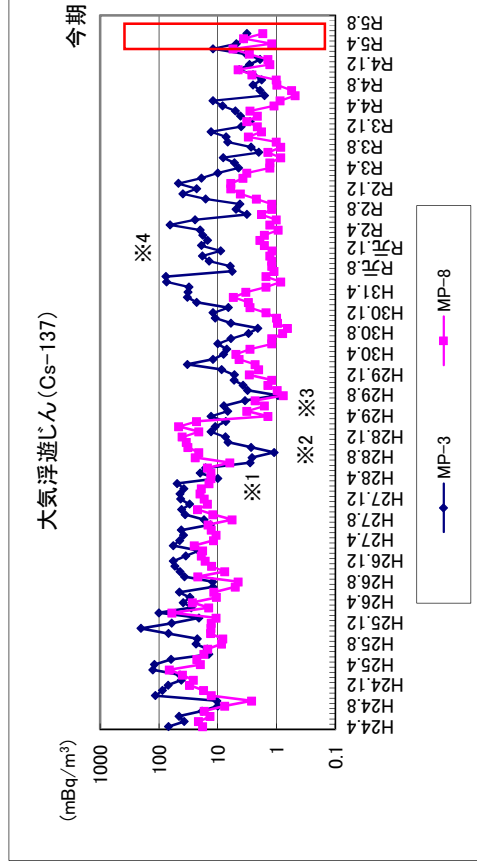
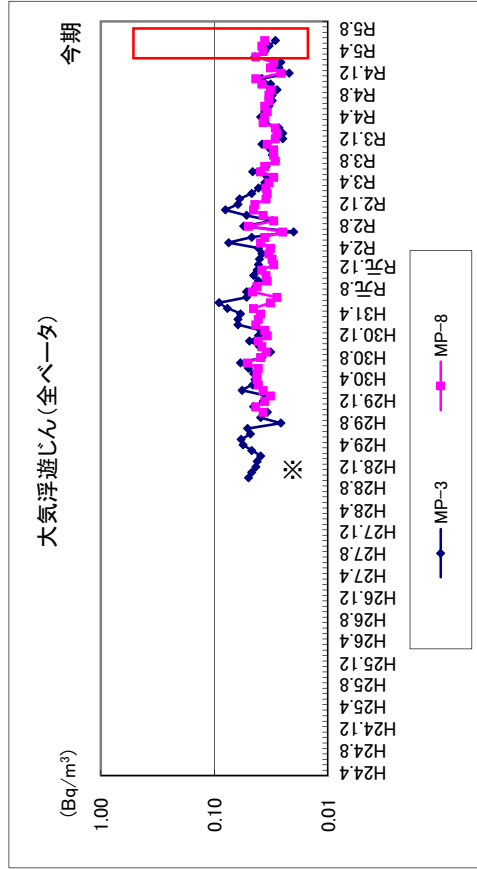
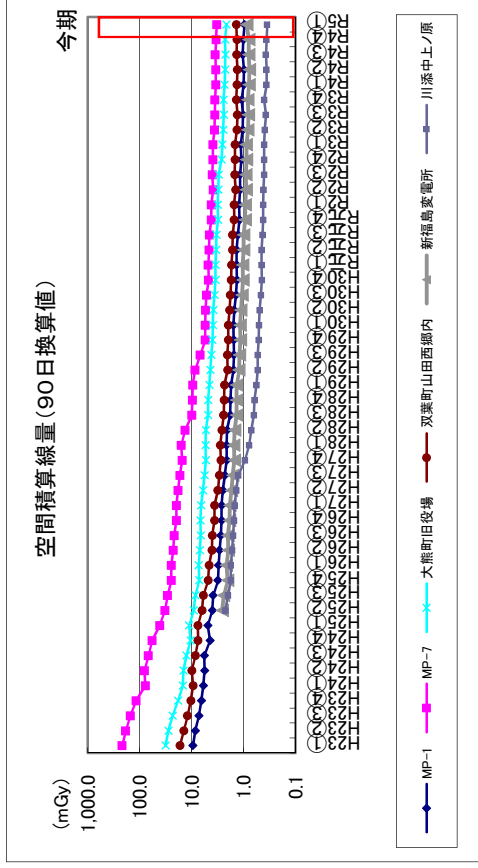
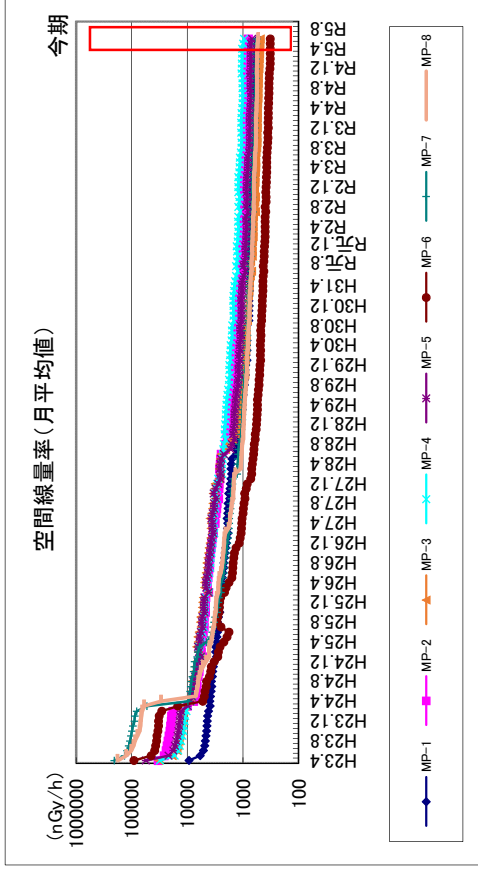
※今期の松葉のセシウム-137 の範囲



※今期のほんだわらのセシウム-137 の範囲



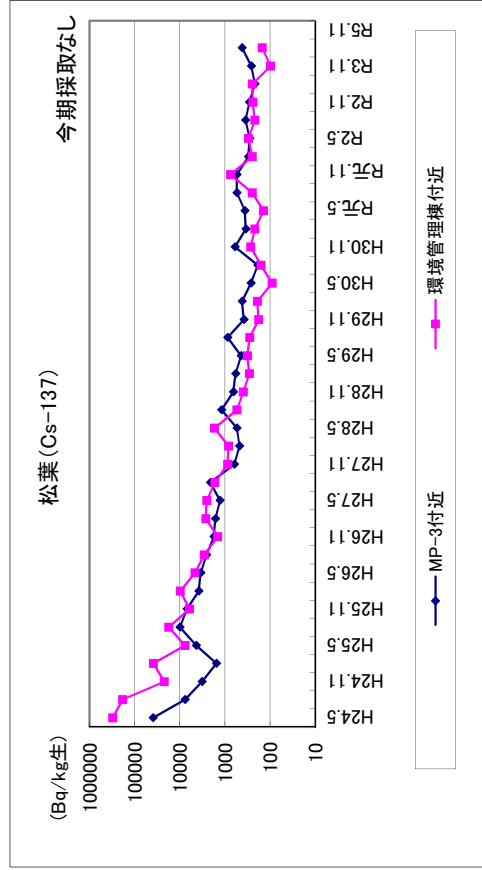
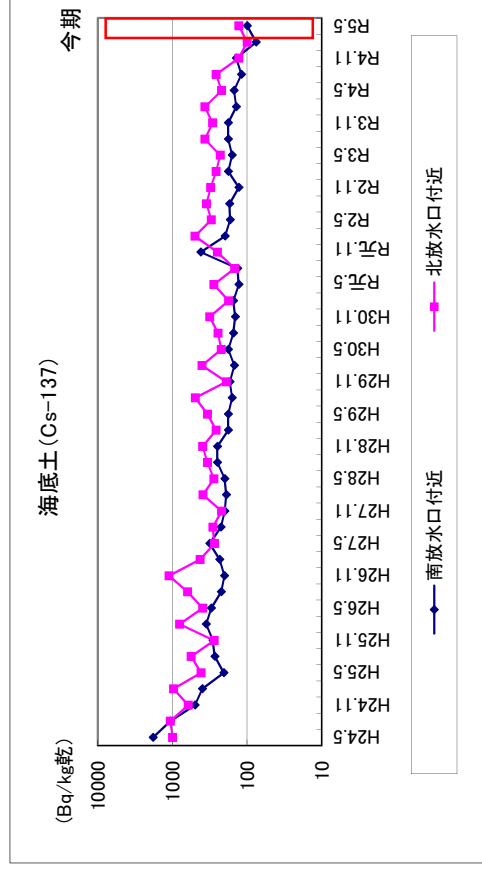
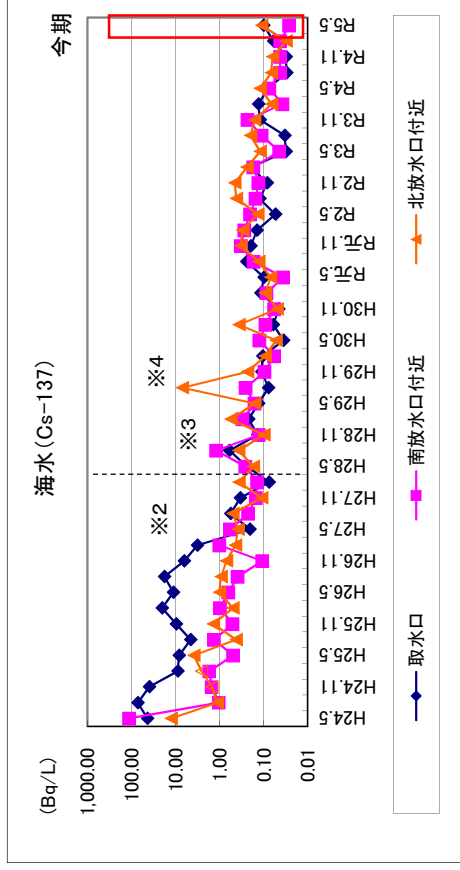
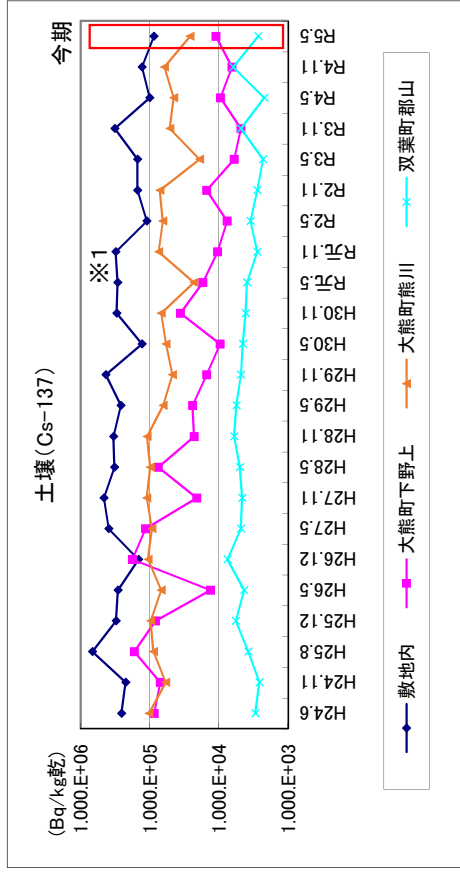
# 福島第一原子力発電所 環境モニタリングトレンドグラフ(1/3)



※MP-3は H28年10月より、MP-8はH29年10月より運用開始した。

- ※1: MP-3で機器本体の除染及び検出器並びに吸入配管等の取り替えによる低下(H28年3月完了)
  - ※2: 降雨により地表面からの大気浮遊じんの拡散が抑制されたことによる低下
  - ※3: MP-8で機器本体の除染及び検出器並びに吸入配管等の影響による周辺土壌の舞い上がりによる上昇
  - ※4: MP-3については中間貯蔵施設関連作業等の影響による周辺土壌の舞い上がりによる上昇
- 注: 機器本体や配管の除染・取り替えまでの期間は、事故時に付着した放射性物質が徐々に剥離し、検出部で計数された影響で大気浮遊じん濃度が高く推移したものと推測した。

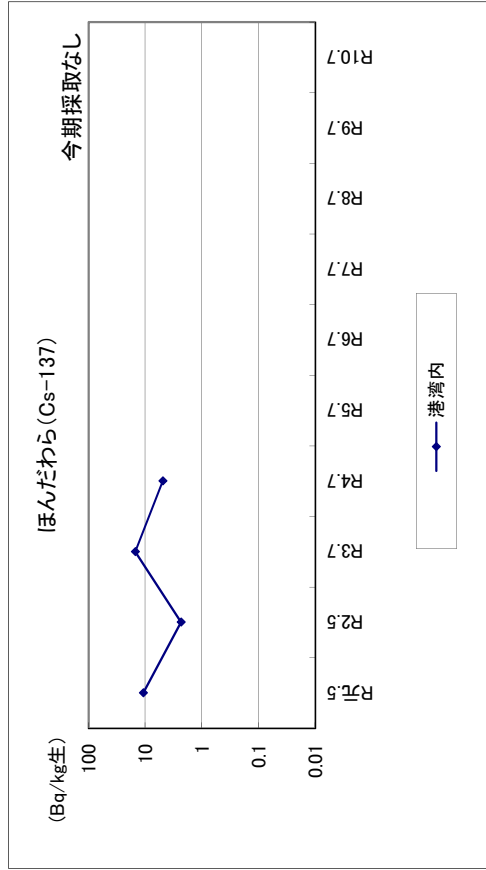
# 福島第一原子力発電所 環境モニタリングトレンドグラフ(2/3)



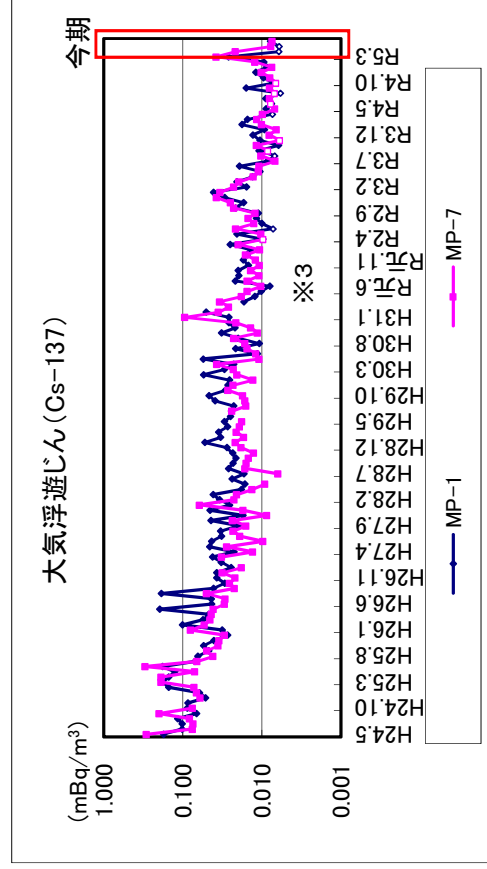
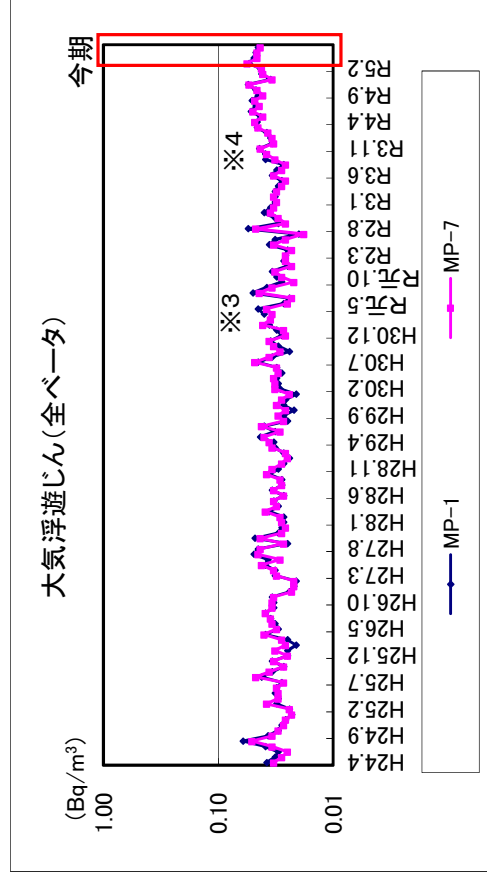
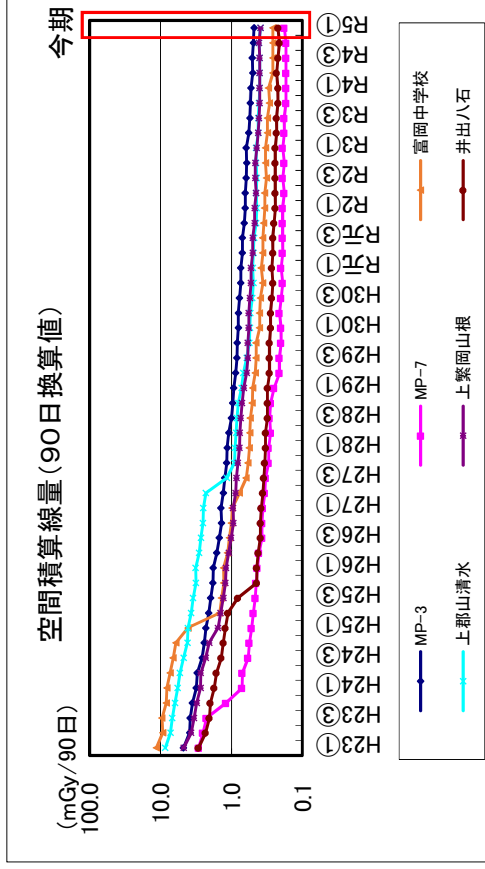
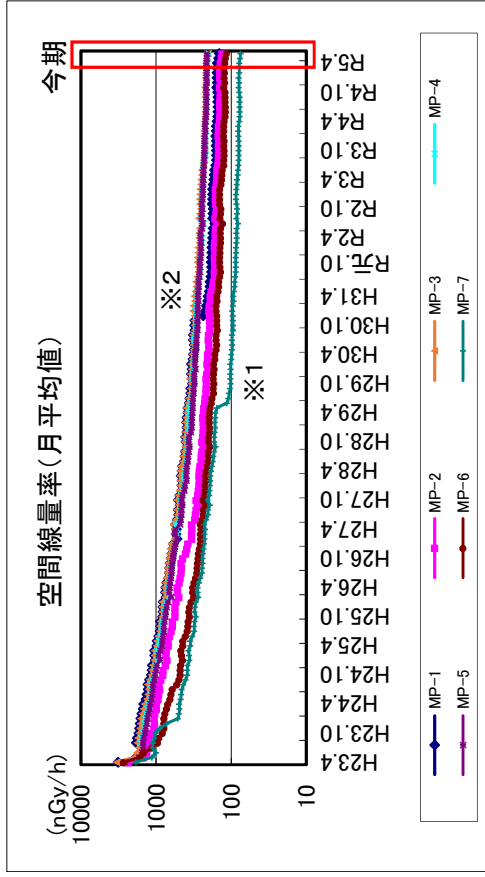
- ・白抜きのプロットは検出限界未満であるため、検出限界値をプロットしている。
- ・海水については、事故後は緊急時の簡易法で分析しており検出限界値が高かったが、平成28年4月(点線)から分析方法を従来の方法に戻し、検出下限値が低下。
- ※1: 熊川、郡山地点は国の中間貯蔵施設対象区域となったことにより採取箇所変更 (R元年第1 四半期より)
- ※2: 取水口・採取地点変更 (港湾中央→港湾口 : H27.5)
- ※3: 海水については、前回値より上昇が見られますが、試料採取日の前日までの降雨に伴う影響と考えます。(H28.9)
- ※4: 海水については、前回値より上昇が見られますが、試料採取日の当日の降雨に伴う影響と考えます。(H29.8)



# 福島第一原子力発電所 環境モニタリングトレンドグラフ(3/3)



# 福島第二原子力発電所 環境モニタリングトレンドグラフ(1/3)



・白抜きのプロットは検出下限値未満であるため、検出下限値をプロットしている。

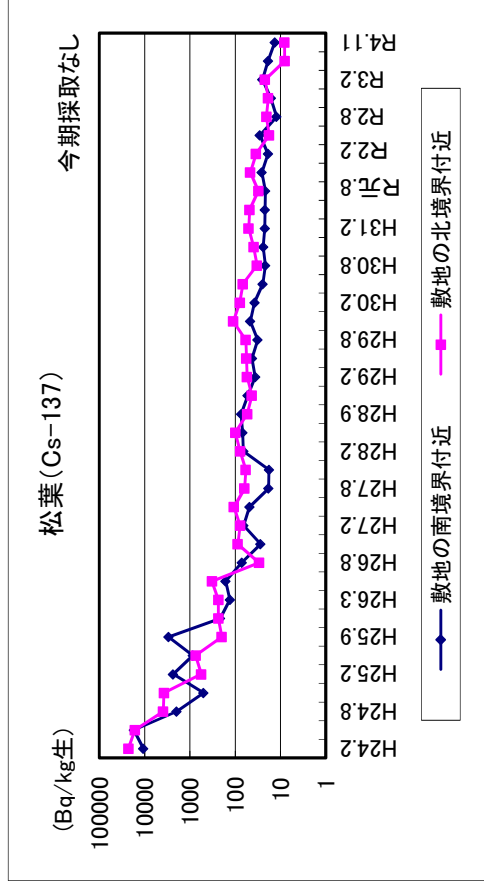
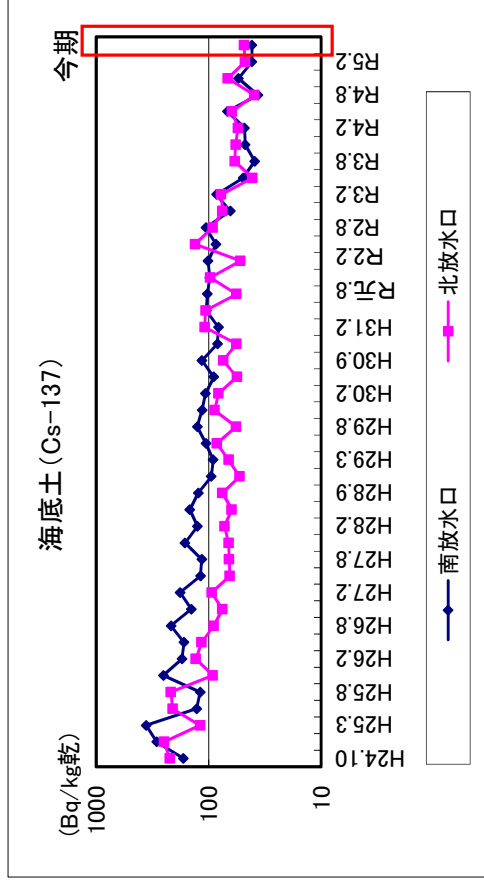
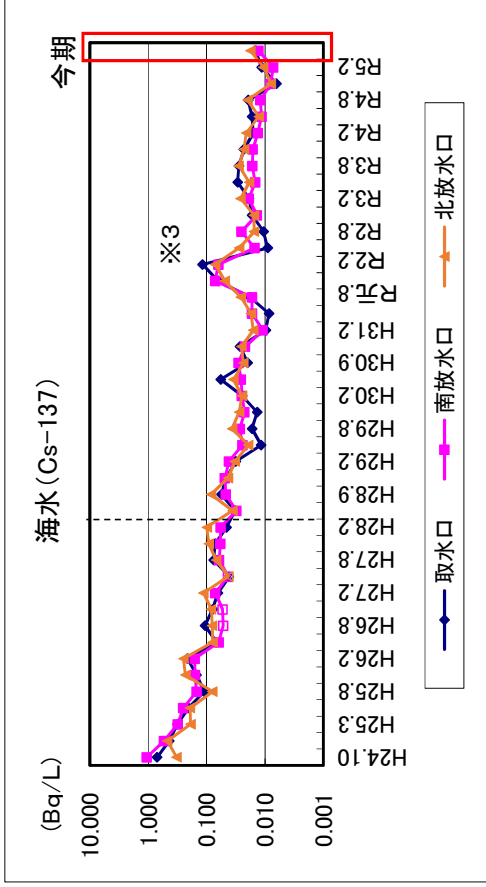
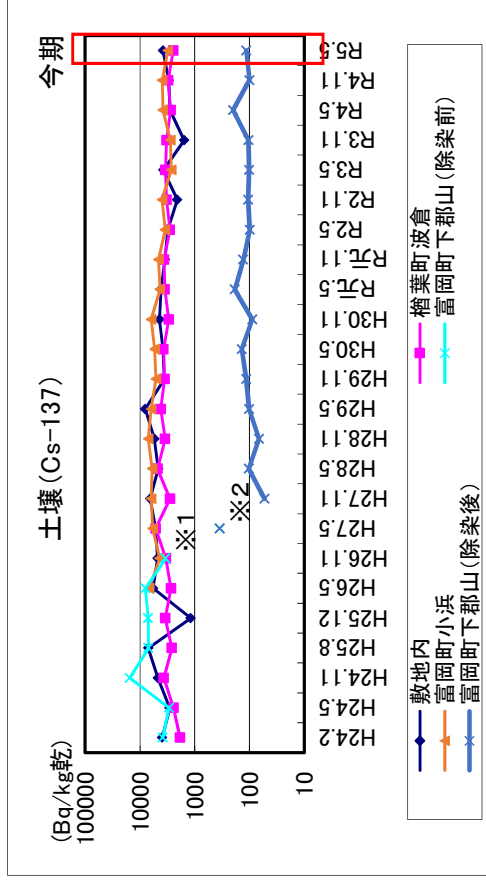
※1: MP-7へのアクセス道路及び法面の造成工事による減少。

※2: MP-1近傍への大気浮遊じん採取用の局舎設置工事に伴う、伐採・掘削等による減少。

※3: 局舎移送工事に伴う欠測。

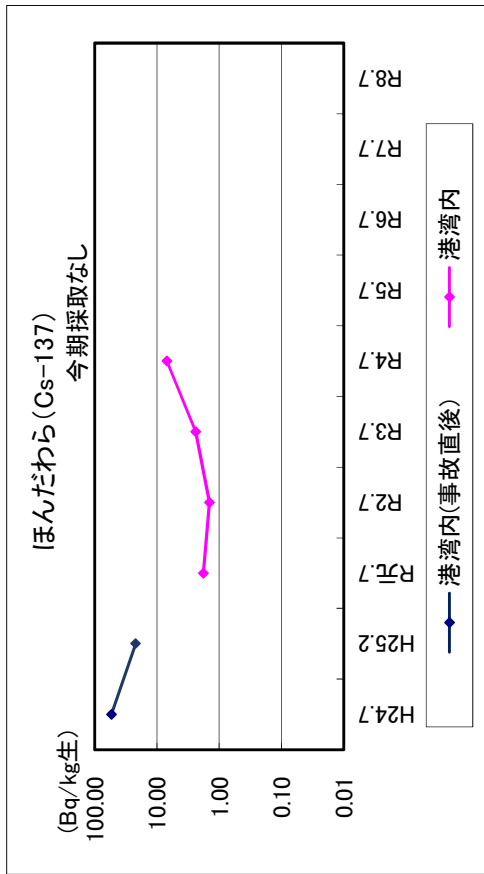
※4: 令和3年9月にダストモニタ更新に伴う校正線源変更を行ったことにより、以降は機器効率の違いにより、従来の測定結果より高い値となっている。

# 福島第二原子力発電所 環境モニタリングトレンドグラフ(2/3)



・白抜きのプロットは検出下限値未満であるため、検出下限値をプロットしている。  
 ・海水については、事故後は緊急時の簡易法で分析しており検出限界値が高かったが、平成28年4月(点線)から分析方法を従来の方法に戻し、検出下限値が低下。  
 ※1: 富岡町下郡山地点の除染作業に伴う、表土剥ぎ取りによる減少。(参考値)  
 ※2: 富岡町下郡山地点の表土剥ぎ取り後の盛土による減少。  
 ※3: 採取前の降雨に伴う、河川からの流入量増加による指示値の変動。

# 福島第二原子力発電所 環境モニタリングトレンドグラフ(3/3)



## 第 2 測 定 項 目

### 福 島 第 一 原 子 力 発 電 所 測 定 分

(令和5年4月～令和5年6月)

1 測定項目

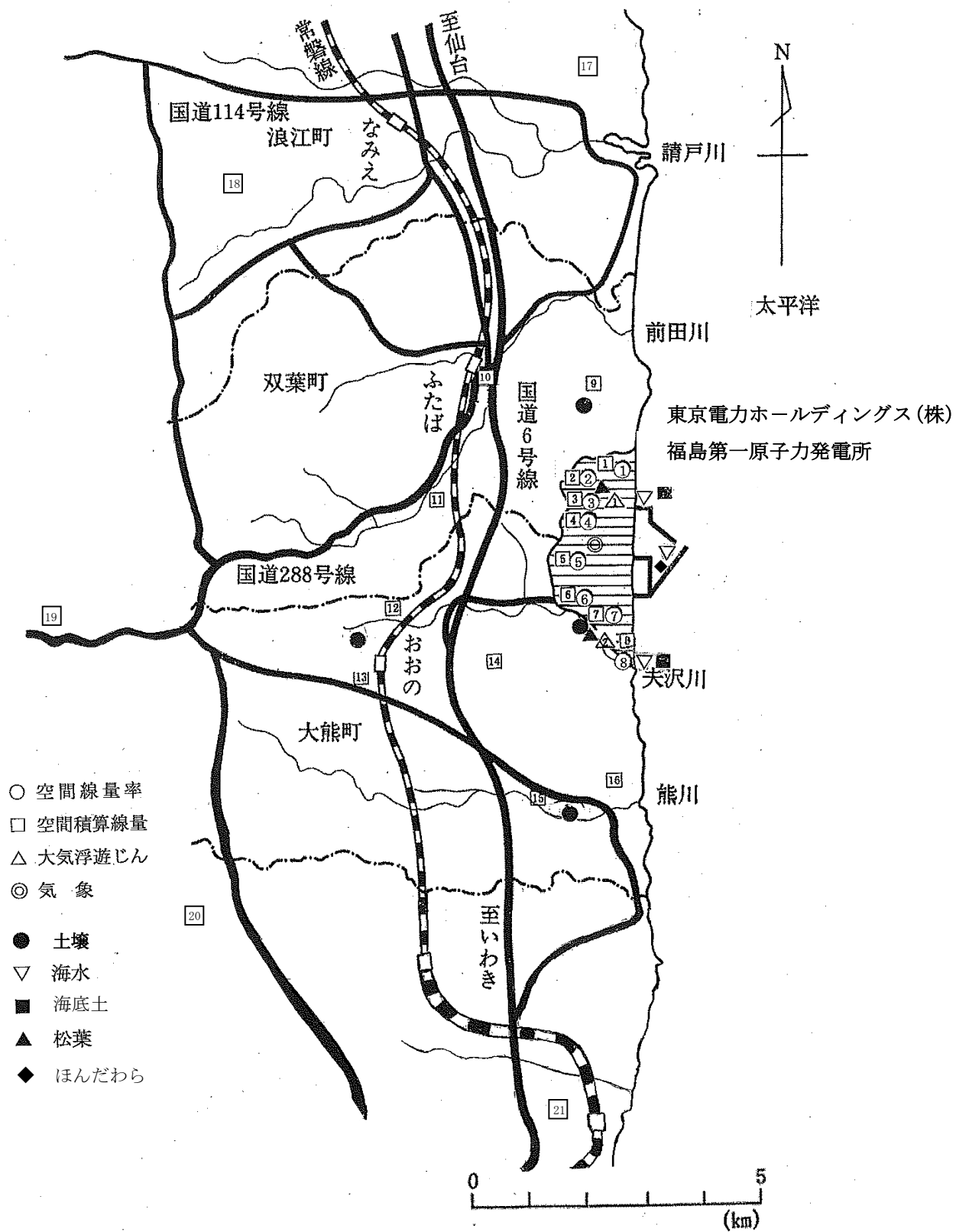
(1) 空間放射線

項 目	地点数	測 定 頻 度	実施機関
空 間 線 量 率	8	連 続	東京電力ホールディングス(株) 福島第一廃炉推進カンパニー 福島第一原子力発電所
空 間 積 算 線 量	21	3カ月積算	

(2) 環境試料

区 分	試 料 名	地点数	採取頻度	採取回数 (今期)	測 定 試 料 数							実施機関	
					γ	<sup>3</sup> H	<sup>90</sup> Sr	<sup>238</sup> Pu	<sup>239+240</sup> Pu	<sup>241</sup> Am	<sup>244</sup> Cm		
大 気 浮 遊 じ ん	大 気 浮 遊 じ ん	2	毎月	3	6								東京電力ホールディングス(株) 福島第一廃炉推進カンパニー 福島第一原子力発電所
土 壤	土 壤	4	年2回	1	4		4	4	4	4	4		
海 水	海 水	3	年4回	1	3	3	3						
海 底 土	海 底 土	2	年4回	1	2		2						

# 福島第一原子力発電所 環境モニタリング地点図



福島第二原子力発電所測定分  
(令和5年4月～令和5年6月)

1. 測定項目

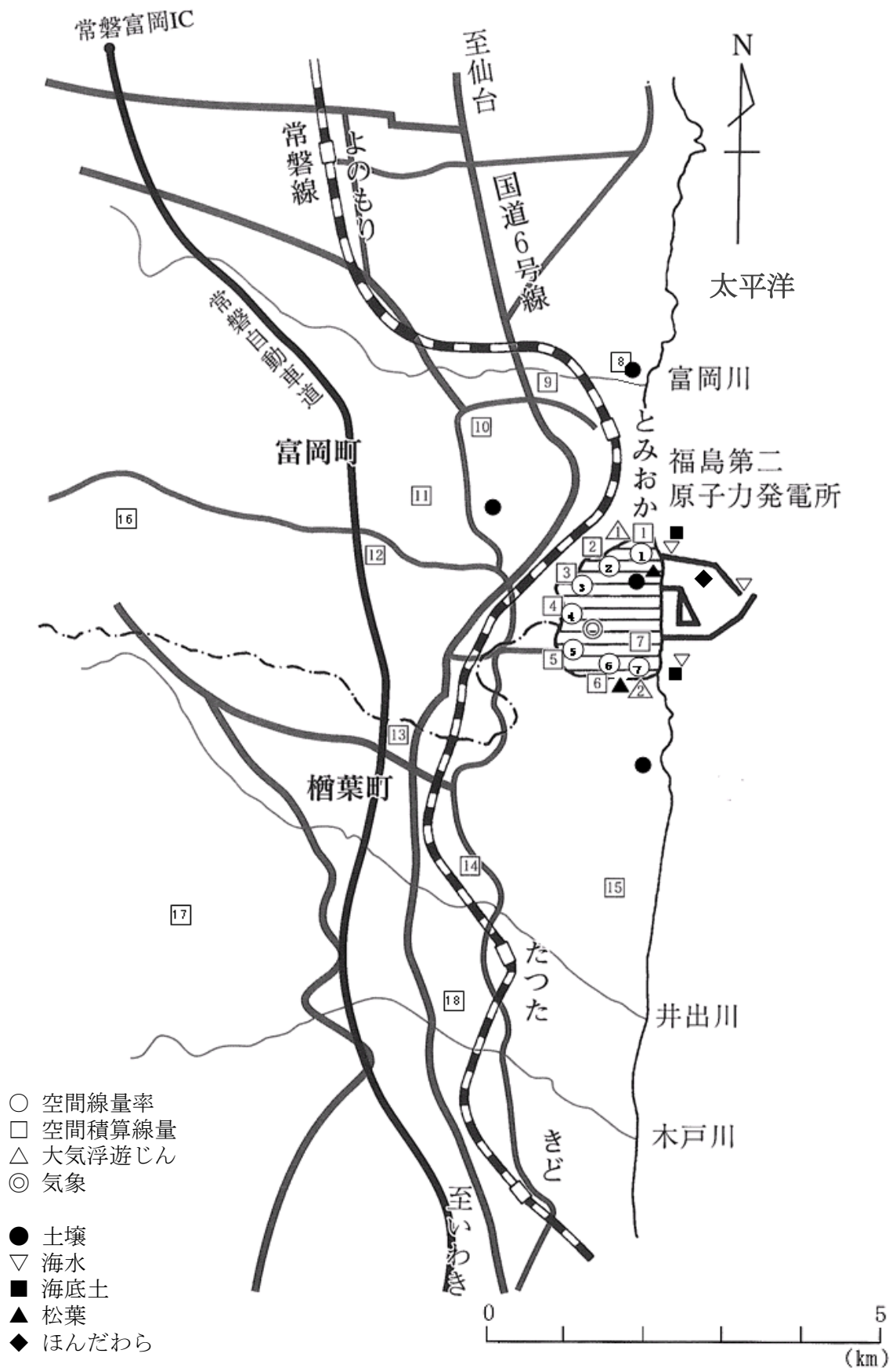
(1) 空間放射線

項目	地点数	測定頻度	実施機関
空間線量率	7	連続	東京電力ホールディングス(株) 福島第二原子力発電所
空間積算線量	18	3カ月積算	

(2) 環境試料

区分	試料名	地点数	採取頻度	採取回数 (今期)	測定試料数							実施機関	
					$\gamma$	$^3\text{H}$	$^{90}\text{Sr}$	$^{238}\text{Pu}$	$^{239+240}\text{Pu}$	$^{241}\text{Am}$	$^{244}\text{Cm}$		
大気浮遊じん	大気浮遊じん	2	毎月	3	6								東京電力ホールディングス (株) 福島第二 原子力発電所
土壌	土壌	4	年2回	1	4		4	4	4	4	4		
海水	海水	3	年4回	1	3	3	3						
海底土	海底土	2	年4回	1	2		2						

福島第二原子力発電所 環境モニタリング地点図





### 第 3 測 定 方 法

福島第一原子力発電所測定方法

測定項目		測定装置	測定方法
空間放射線	空間線量率	モニタリングポスト	検出器：アルゴンガス封入式球形電離箱 (富士電機, 高純度アルゴンガス8気圧140) 測定位置：地表上約1.6m 校正線源：Ra-226
	空間積算線量	蛍光ガラス線量計	測定法：文部科学省編「蛍光ガラス線量計を用いた環境γ線量測定法」 (平成14年制定) 検出器：蛍光ガラス線量計, 旭テクノグラス SC-1 測定器：旭テクノグラス FGD-202 測定位置：地表上約1m 校正線源：Cs-137
環境	大気浮遊全アルファ及び全放射能	ダストモニタ	測定法：6時間連続集じん, 6時間放置後全アルファ及び全ベータ放射能を同時測定 集じん法：ろ紙ステップ式, 使用ろ紙：HE-40T 吸引量：約90m <sup>3</sup> /6時間 検出器：ZnS(Ag)シンチレータとプラスチックシンチレータのほり合わせ検出器 (Aloka ADC-121R2) 採取位置：地表上約3m 校正線源：U <sub>3</sub> O <sub>8</sub> 、Am-241
	核種濃度	Ge半導体検出装置	測定法：原子力規制庁編「ゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線スペクトロメトリー」(令和2年改訂) 大気浮遊じんは1カ月の集じんろ紙をU8容器に入れ測定。 土壌・海底土は乾燥後に測定。 松葉(指標植物)は生試料により測定。 海水は, リンモリブデン酸アンモニウム法及び二酸化マンガン共沈法で処理後測定。 ほんだわら(指標海洋生物)は乾燥試料により測定。 測定器：Ge半導体検出器 (ORTEC GEM35-76-LB-A-S型) 波高分析器 (SEIKO EG&G MCA-7シリーズ(4096ch))
試料	トリチウム濃度	ローバックグラウンド液体シンチレーション検出装置	測定法：文部科学省編「トリチウム分析法」(平成14年改訂) 海水のトリチウムは蒸留後測定。 測定器：ローバックグラウンド液体シンチレーション検出装置 (Aloka LSC-LB7型)
	ストロンチウム-90濃度	ローバックグラウンドガスフロー計数装置	測定法：文部科学省編「放射性ストロンチウム分析法」のうちイオン交換法(平成15年改訂) 測定器：ローバックグラウンドガスフロー計数装置 (Aloka LBC-4202B型) 校正線源：Sr-90
	プルトニウム-238 プルトニウム-239+240濃度	シリコン半導体検出器	測定法：文部科学省編「放射性プルトニウム分析法」のうちイオン交換法(平成2年改訂) 測定器：ORTEC Alpha Duo 第三者機関(株)化研にて分析
	アメリカシウム-241 キュリウム-244濃度	シリコン半導体検出器	測定法：文部科学省編「放射性アメリカシウム分析法」のうちイオン交換法(平成2年改訂) 測定器：ORTEC Alpha Duo 第三者機関(株)化研にて分析

福島第二原子力発電所測定方法

測定項目		測定装置	測定方法
空間放射線	空間線量率	モニタリングポスト	検出器：2"φ×2"NaI (Tl) シンチレーション検出器 (富士電機, 温度補償・エネルギー補償回路付) 測定位置：地表上約1.6m 校正線源：Cs-137及びRa-226
	空間積算線量	蛍光ガラス線量計	測定法：文部科学省編「蛍光ガラス線量計を用いた環境γ線量測定法」(平成14年制定) 検出器：蛍光ガラス線量計, 旭テクノグラス SC-1 測定器：旭テクノグラス FGD-202 測定位置：地表上約1m 校正線源：Cs-137
環境試料	大気浮遊じん及び全放射	ダストモニタ	測定法：6時間連続集じん, 6時間放置後全アルファ及び全ベータ放射能を同時測定 集じん法：ろ紙ステップ式, 使用ろ紙：HE-40T 吸引量：約90m <sup>3</sup> /6時間 検出器：プラスチックシンチレーターにZnS (Ag) を吹き付け塗布した検出器 (HITACHI ADC-7221) 採取位置：地表上約3m 校正線源：Am-241及びC1-36
	核種濃度	Ge半導体検出装置	測定法：原子力規制庁編「ゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線スペクトロメトリー」(令和2年改訂) 大気浮遊じんは1カ月の集じんろ紙をU8容器に入れ測定。 土壌・海底土は乾燥後に測定。 松葉(指標植物)は生試料により測定。 海水は, リンモリブデン酸アンモニウム法及び二酸化マンガンを共沈法で処理後測定。 ほんだわら(指標海洋生物)は乾燥試料により測定。 測定器：Ge半導体検出器 (ORTEC GEM35-76-LB-A-S型) 波高分析器 (SEIKO EG&G MCA-7シリーズ(4096ch))
	トリウム濃度	ローバックグラウンド液体シンチレーション検出装置	測定法：文部科学省編「トリウム分析法」(平成14年改訂) 海水のトリウムは蒸留後測定。 測定器：ローバックグラウンド液体シンチレーション検出装置 (Aloka LSC-LB7型)
	ストロンチウム-90濃度	ローバックグラウンドガスフロー計数装置	測定法：文部科学省編「放射性ストロンチウム分析法」のうちイオン交換法(平成15年改訂) 測定器：ローバックグラウンドガスフロー計数装置 (Aloka LBC-4202B型) 校正線源：Sr-90
	プルトニウム-238 プルトニウム-239+240濃度	シリコン半導体検出器	測定法：文部科学省編「放射性プルトニウム分析法」のうちイオン交換法(平成2年改訂) 測定器：ORTEC Alpha Duo 第三者機関((株)化研)にて分析
アメリカシウム-241 キュリウム-244濃度	シリコン半導体検出器	測定法：文部科学省編「放射性アメリカシウム分析法」のうちイオン交換法(平成2年改訂) 測定器：ORTEC Alpha Duo 第三者機関((株)化研)にて分析	

**環境試料放射能測定方法詳細一覧表**  
**(Cs-134、Cs-137・ストロンチウム-90・**  
**プルトニウム-238、239+240・アメリシウム-241・キュリウム-244)**

項目	試料名 核種	大気浮遊じん		土壌				
		Cs-134、Cs-137	Cs-134、Cs-137	Sr-90	Pu-238	Pu-239+240	Am-241	Cm-244
試料採取	採取方法	ダストモニタによる連続採取 ・採取位置:地表上約3m		採取は採取器などを用い、裸未耕土の表層深さ(0mmから50mm)から一地点あたり5~6箇所より、採取する。				
	採取容器等	ろ紙(HE-40T)		採土器				
	採取量	11,000m <sup>3</sup> 程度		福島第一:1.0kg程度 福島第二:3kg程度				
	現場での前処理 (酸などの薬品添加を実施しているか)	なし		なし				
	採取器具のコンタミ防止 (試料採取器具を適切に使用しているか)	試料毎に分けて採取している。		福島第一 採土器を地点毎に用意し、使用している。  福島第二 採土器は共用している。なお、採取の都度、洗浄を行っている。				
前処理	方法	1ヶ月分の集じんろ紙の集じん箇所を打ち抜き型を用いて打ち抜き、U8容器に収納する。	105℃に調整した乾燥機で乾燥し放冷し、インクリメント縮分方法により縮分した試料を用いてイオン交換法。	105℃に調整した乾燥機で乾燥し放冷し、インクリメント縮分方法により縮分した試料を用いてイオン交換法。	105℃に調整した乾燥機で乾燥し放冷し、インクリメント縮分方法により縮分した試料を用いてイオン交換法。	105℃に調整した乾燥機で乾燥し放冷し、インクリメント縮分方法により縮分した試料を用いてイオン交換法。	105℃に調整した乾燥機で乾燥し放冷し、インクリメント縮分方法により縮分した試料を用いてイオン交換法。	105℃に調整した乾燥機で乾燥し放冷し、インクリメント縮分方法により縮分した試料を用いてイオン交換法。
	分取、縮分の代表性 (高濃度試料分析の際に、試料を分取して測定している場合)	50φミリの円の中心から47φミリの円を打ち抜き、88.36%を採取する。ろ紙には均一に採取されている。						
	前処理でのコンタミ防止とその確認法	・打ち抜きに使用する器具は、地点ごとに分けて使用している。 ・U8容器は、新品を使用しラッピングしている。 ・定期的に、施設の汚染確認を行い、問題ないことを確認している。		・試料毎に、U8容器は新品を使用しラッピングしている。 ・定期的に、施設の汚染確認を行い、問題ないことを確認している。		・分取、縮分については、地点ごと機材を使い分けを実施しコンタミ防止している。 ・使用する機材について確実な洗浄を行っている。 ・電着板については、新品の物を使用している。		・分取、縮分については、地点ごと機材を使い分けを実施しコンタミ防止している。 ・使用する機材について確実な洗浄を行っている。 ・電着板については、新品の物を使用している。
測定	測定装置	Ge半導体検出装置	Ge半導体検出装置	ローバックグラウンドガスフロー計数装置	シリコン半導体検出器			
	測定試料状態	生	乾土	鉄共沈物	イオン交換分離溶液 (電着用試料)	イオン交換分離溶液 (電着用試料)	イオン交換分離溶液 (電着用試料)	イオン交換分離溶液 (電着用試料)
	測定容器	U8容器	U8容器	ステンレス皿(25mmφ)	電着板 ステンレス鋼製(35mmφ)	電着板 ステンレス鋼製(35mmφ)	電着板 ステンレス鋼製(35mmφ)	電着板 ステンレス鋼製(35mmφ)
	供試料量	測定吸気量:約90m <sup>2</sup> /6h (ろ紙枚数:約124枚)	約100g	100g	約50g			
	測定時間	80,000秒	福島第一 (敷地内)1,000秒 (その他)3,600秒 福島第二 3,600秒	3,600秒	80,000秒			
	測定下限値	福島第一 Cs-134:0.0062~0.013mBq/m <sup>3</sup> Cs-137:0.0060~0.013mBq/m <sup>3</sup> 福島第二 Cs-134:0.0052~0.0076mBq/m <sup>3</sup> Cs-137:0.0053~0.0077mBq/m <sup>3</sup>	福島第一 Cs-134:39~110Bq/kg乾 Cs-137:40~110Bq/kg乾 福島第二 Cs-134:2.8~7.0Bq/kg乾 Cs-137:2.8~7.8Bq/kg乾	福島第一 0.19~0.20Bq/kg乾 福島第二 0.19~0.21Bq/kg乾	福島第一 0.011~0.014Bq/kg乾 福島第二 0.011~0.014Bq/kg乾	福島第一 0.011~0.013Bq/kg乾 福島第二 0.011~0.013Bq/kg乾	福島第一 0.011~0.013Bq/kg乾 福島第二 0.011~0.014Bq/kg乾	福島第一 0.012~0.013Bq/kg乾 福島第二 0.009~0.017Bq/kg乾
	測定におけるコンタミ防止とその確認法	定期的にGe半導体検出器においてBG測定を行い、汚染のないことを確認している。		定期的にGe半導体検出器においてBG測定を行い、汚染のないことを確認している。	試料毎に新品のステンレス皿を使用し、検出器の汚染については、測定時にBG測定を行っている。	試料毎に新品の電着板を使用している。また、検出器の汚染については、BG測定を行っている。	試料毎に新品の電着板を使用している。また、検出器の汚染については、BG測定を行っている。	試料毎に新品の電着板を使用している。また、検出器の汚染については、BG測定を行っている。
校正	使用線源	Co-58.60,Mn-54, Ba-133,Cs-137	Co-58.60,Mn-54, Ba-133,Cs-137	Sr-90	Pu-242	Pu-242	Am-243	Am-243
	線源校正頻度	(納入時)体積線源で幾何効率校正。コイン線源で計数効率校正。(半年毎)コイン線源で計数効率校正。		(納入時)メーカーにて効率校正。(1年毎)メーカー点検時に密封線源にて効率確認。	1回/年エネルギー校正を実施している。	1回/年エネルギー校正を実施している。	1回/年エネルギー校正を実施している。	1回/年エネルギー校正を実施している。
	BG測定頻度	1回/月 200,000秒	福島第一 1回/月 50,000秒 福島第二 1回/月 200,000秒	測定の都度	本業務開始前 及び1回/月	本業務開始前 及び1回/月	本業務開始前 及び1回/月	本業務開始前 及び1回/月
備考	【福島第一】 平成29年9月より測定時間変更 (3600秒→80000秒)	【福島第一・福島第二】 平成26年度より乾燥機での前処理を再開	【福島第一・福島第二】 平成25年度より測定を再開	【福島第一・福島第二】 平成26年度より測定を開始				

項目	試料名 核種	海水			海底土		松葉	ほんだわら
		Cs-134, Cs-137	H-3	Sr-90	Cs-134, Cs-137	Sr-90	Cs-134, Cs-137	Cs-134, Cs-137
試料採取	採取方法	採取地点で表面水をポリ容器に汲み取り攪拌し、20Lキュービテナー容器に分取する。	表面水をポリ容器に汲み取り攪拌し、2Lポリ容器に分取する。	表面水をポリ容器に汲み取り攪拌し、20Lキュービテナー容器に分取する。	採取地点で波打ち際の海砂をスコップ等により、ビニール袋に採取する。	採取地点で波打ち際の海砂をスコップ等により、ビニール袋に採取する。	採取地点付近にある樹木より2年葉を採取する。	採取地点付近にあるほんだわらを採取する。 (種類:ほんだわら又はまめだわら)
	採取容器等	キュービテナー	ポリビン	キュービテナー	ビニール袋	ビニール袋	ビニール袋	ビニール袋
	採取量	40L	2L	40L	1kg程度	1kg程度	0.1kg程度	2kg程度
	現場での前処理 (酸などの薬品添加を実施しているか)	海水1Lに対し1mLの濃塩酸を添加	なし	海水1Lに対し1mLの濃塩酸を添加	なし	なし	なし	なし
	採取器具のコンタミ防止 (試料採取器具を適切に使用しているか)	採取容器については、採取地点毎に新品の容器を使用し、試料水にて共洗いを実施している。	採取容器については、採取地点毎に新品の容器を使用し、試料水にて共洗いを実施している。	採取容器については、採取地点毎に新品の容器を使用し、試料水にて共洗いを実施している。	福島第一探泥器は地点毎に用意し、使用している。 福島第二探泥器は共用している。なお、採取の都度、洗浄を行っている。	福島第一探泥器は地点毎に用意し、使用している。 福島第二探泥器は共用している。なお、採取の都度、洗浄を行っている。	採取地点毎に新品の袋に採取している。	新品の袋に採取している。
前処理	方法	リンモリブデン酸アンモニウム法及び二酸化マンガンを共沈法	減圧蒸留法	イオン交換法	105℃に調整した乾燥機で乾燥し放冷し、インクリメント縮分方法により縮分する。	105℃に調整した乾燥機で乾燥し放冷し、インクリメント縮分方法により縮分した試料を用いてイオン交換法。	はさみを使用し、細かく切断しU8容器に取納する。 (灰化せず生状態で測定)	・ほんだわらを水洗いし、虫やゴミ等を除去する。 ・洗濯ネットに入れ、洗濯機で脱水する。
	分取、縮分の代表性 (高濃度試料分析の際に、試料を分取して測定している場合)	20Lキュービテナー2本から15Lずつ分取。	1Lポリビンより上澄水100mLを分取。	20Lキュービテナー2本全量使用。	1地点当たり数箇所から採取した試料を混合し、さらに、その試料から均等に分取している。(インクリメント縮分法)	1地点当たり数箇所から採取した試料を混合し、さらに、その試料から均等に分取している。(インクリメント縮分法)	採取した約100gの松葉から、U8容器に40gを分取している。	・脱水後、ほんだわらをステンレスバットに500g相当を入れ105℃で一晩乾燥する。 ・乾燥ほんだわらをミキサーで粉砕しU8容器に充填する。 【試料は複数の単位から少量ずつ分種し、はさみで切る。その後十分混合してから定量を各容器充填する。】
	前処理でのコンタミ防止とその確認法	・試料毎に、U8容器は新品を使用しラッピングしている。 ・定期的に、施設の汚染確認を行い、問題ないことを確認している。	・試料の処理前に、使用する器具の洗浄と乾燥を実施している。 ・定期的に、施設の汚染確認を行い、問題ないことを確認している。	・試料毎に、ステンレス皿は新品を使用している。 ・定期的に、施設の汚染確認を行い、問題ないことを確認している。	・試料毎に、U8容器は新品を使用しラッピングしている。 ・定期的に、施設の汚染確認を行い、問題ないことを確認している。	・試料毎に、ステンレス皿は新品を使用している。 ・定期的に、施設の汚染確認を行い、問題ないことを確認している。	・試料毎に、U8容器は新品を使用しラッピングしている。 ・定期的に、施設の汚染確認を行い、問題ないことを確認している。	・U8容器は、新品を使用しラッピングしている。 ・定期的に、施設の汚染確認を行い、問題ないことを確認している。
測定	測定装置	Ge半導体検出装置	ローバックグラウンド液体シンチレーション検出装置	ローバックグラウンドガスフロー計数装置	Ge半導体検出装置	ローバックグラウンドガスフロー計数装置	Ge半導体検出装置	Ge半導体検出装置
	測定試料状態	リンモリブデン酸アンモニウムと二酸化マンガンの混合物	液体シンチレーション混合物	鉄共沈物	乾土	鉄共沈物	生	乾燥物
	測定容器	U8容器	100mLバイアル	ステンレス皿(25mmφ)	U8容器	ステンレス皿(25mmφ)	U8容器	U8容器
	供試料量	約30L	50mL	40L	約100g	100g	約40g	約500g
	測定時間	80,000秒	30,000秒	3,600秒	80,000秒	3,600秒	10,000秒	80,000秒
	測定下限値	福島第一 Cs-134:0.0013~0.0017Bq/L Cs-137:0.0012~0.0016Bq/L 福島第二 Cs-134:0.0013~0.0016Bq/L Cs-137:0.0012~0.0016Bq/L	福島第一 0.29~0.37Bq/L 福島第二 0.29~0.35Bq/L	福島第一 0.00042~0.00049Bq/L 福島第二 0.00049~0.00050Bq/L	福島第一 Cs-134:0.50~0.72Bq/kg乾 Cs-137:0.54~0.79Bq/kg乾 福島第二 Cs-134:0.58~0.74Bq/kg乾 Cs-137:0.58~0.68Bq/kg乾	福島第一 0.18Bq/kg乾 福島第二 0.19Bq/kg乾	福島第一 Cs-134:4.2~5.8Bq/kg生 Cs-137:5.5~6.2Bq/kg生 福島第二 Cs-134:3.5~3.7Bq/kg生 Cs-137:3.3~4.1Bq/kg生	福島第一 Cs-134:0.12Bq/kg生 Cs-137:0.19Bq/kg生 福島第二 Cs-134:0.19Bq/kg生 Cs-137:0.18Bq/kg生
	測定におけるコンタミ防止とその確認法	定期的にGe半導体検出器においてBG測定を行い、汚染のないことを確認している。	試料毎に新品のバイアル瓶を使用し、検出器の汚染については、測定時にBG測定を行っている。	試料毎に新品のステンレス皿を使用し、検出器の汚染については、測定時にBG測定を行っている。	定期的にGe半導体検出器においてBG測定を行い、汚染のないことを確認している。	試料毎に新品のステンレス皿を使用し、検出器の汚染については、測定時にBG測定を行っている。	定期的にGe半導体検出器においてBG測定を行い、汚染のないことを確認している。	定期的にGe半導体検出器においてBG測定を行い、汚染のないことを確認している。
校正	使用線源	Co-58,60,Mn-54, Ba-133,Cs-137	H-3	Sr-90	Co-58,60,Mn-54, Ba-133,Cs-137	Sr-90	Co-58,60,Mn-54, Ba-133,Cs-137	Co-58,60,Mn-54, Ba-133,Cs-137
	線源校正頻度	(納入時)体積線源で幾何効率校正。コイン線源で計数効率校正。 (半年毎)コイン線源で計数効率校正。	(納入時)メーカーにて効率校正。 (1年毎)メーカー一点検時に密封線源にて効率確認。	(納入時)メーカーにて効率校正。 (1年毎)メーカー一点検時に密封線源にて効率確認。	(納入時)体積線源で幾何効率校正。コイン線源で計数効率校正。 (半年毎)コイン線源で計数効率校正。	(納入時)メーカーにて効率校正。 (1年毎)メーカー一点検時に密封線源にて効率確認。	(納入時)体積線源で幾何効率校正。コイン線源で計数効率校正。 (半年毎)コイン線源で計数効率校正。	(納入時)体積線源で幾何効率校正。コイン線源で計数効率校正。 (半年毎)コイン線源で計数効率校正。
	BG測定頻度	1回/月 200,000秒	測定の都度	測定の都度	1回/月 200,000秒	測定の都度	福島第一 1回/月 50,000秒 福島第二 1回/月 200,000秒	1回/月 200,000秒
備考	【福島第一、福島第二】 平成28年第1四半期より前処理を再開(マリネリーリンモリブデン酸アンモニウム法及び二酸化マンガンを共沈法)	-	【福島第一、福島第二】 平成25年度より測定を再開	【福島第一、福島第二】 平成26年度より乾燥機での前処理を再開及び測定時間変更(3600秒→8000秒)	【福島第一、福島第二】 平成25年度より測定を再開	【福島第一、福島第二】 平成29年第1四半期より測定時間変更(3600秒→10000秒)	【福島第二】 平成28年第3四半期より測定時間変更(3600秒→10000秒)	令和元年度より測定を再開

## 第 4 測 定 結 果

### 1. 空間放射線

#### (1) 空間線量率

東京電力ホールディングス（株）福島第一原子力発電所敷地境界 8 地点、福島第二原子力発電所敷地境界 7 地点で電離箱検出器または NaI シンチレーション検出器により空間線量率を常時測定しました。

各地点の測定結果は以下のとおりです。

詳細な測定値は、福島第一26ページ、福島第二31ページを参照

#### ア. 月間平均値

各測定地点における月間平均値は、全ての地点において福島第一原子力発電所の事故（以下「事故」という。）の影響により、依然として事故前の月間平均値を上回っています。また、降雨等の影響による線量率の変動が見られますが、概ね前四半期と同程度の値となっています。

空間線量率の月間平均値

(単位：nGy/h)

機関名	測定地点数	月間平均値			過去の月間平均値			
		4 月	5 月	6 月	R2～	H26～	事故直後	事故前
福島第一原子力発電所	*1 8	323 ～ 1,028	323 ～ 992	321 ～ 955	320 ～ 1,219	397 ～ 4,893	1,785 ～ 204,134	31 ～ 45
		事故直後の最大値と比較すると今期最大値は約1/199に減少						
福島第二原子力発電所	7	78 ～ 216	76 ～ 212	75 ～ 209	77 ～ 268	85 ～ 767	274 ～ 13,695	37 ～ 49
		事故直後の最大値と比較すると今期最大値は約1/63に減少						

(注) 1. 「過去の測定値の範囲」は、  
R2～：令和2年度から前四半期まで。  
H26～：平成26年度から令和元年度まで。  
事故直後：事故後（平成23年3月11日）から平成25年度まで。  
事故前：平成13年9月から事故前（平成23年3月10日）まで。

\* 1. 福島第一原子力発電所 MP-7, 8については、高線量率の環境下にあることから、新たな放出によって上空を通過する放射性物質を検知しやすくするため、検出器廻りに遮へいを設置し、地表面等からの放射線の影響を抑えています。

#### イ. 1時間値の変動状況

各測定地点における1時間値は、降雨等の影響による変動があるものの発電所からの放射性物質の放出などに由来する変動はありませんでした。

また、1時間値は、従来降雨により線量率の上昇があると考えられますが、事故以降の線量の高い点においては、降雨によって地表からの放射線が遮へいされることによる線量低下の方が大きいため、一時的に線量率が低下し、その後の地表面の乾燥に伴って降雨前の線量レベルにまで回復する変動が見られます。

なお、線量率の下がってきた地点においては、従来通りに降雨による線量率の上昇が見られます。

空間線量率の最大値（1時間値）

(単位：nGy/h)

機関名	測定地点数	各地点の最大値の範囲			過去の最大値			
		4 月	5 月	6 月	R2～	H26～	事故直後	事故前
福島第一原子力発電所	*1 8	331 ～ 1,065	331 ～ 1,055	330 ～ 1,013	1,274	5,084	327,467	188
		事故直後の最大値と比較すると今期最大値は約1/307に減少						
福島第二原子力発電所	7	88 ～ 228	91 ～ 225	91 ～ 221	284	795	182,000	162
		事故直後の最大値と比較すると今期最大値は約1/798に減少						

\* 1. 福島第一原子力発電所 MP-7, 8については、高線量率の環境下にあることから、新たな放出によって上空を通過する放射性物質を検知しやすくするため、検出器廻りに遮へいを設置し、地表面等からの放射線の影響を抑えています。

## (2) 空間積算線量

今期間は、令和5年4月6日から令和5年7月6日までの91日間で、福島第一原子力発電所21地点、福島第二原子力発電所18地点で蛍光ガラス線量計（RPLD）により空気中の放射線量を測定しました。90日換算値は、全ての地点において事故前の最大値を上回る値が観測されました。

なお、事故以降は、年月の経過とともに減少傾向にありました。

詳細な測定値は、福島第一27ページ、福島第二32ページを参照

単位：(mGy/90日)

機関名	測定地点数	積算線量 (令和5年4月6日～ 令和5年7月6日)	過去の測定値			
			R2～	H26～	事故直後	事故前
福島第一 原子力発電所	21	0.17 ～ 6.73	0.16 ～ 8.06	0.23 ～ 35.00	0.42 ～ 312.25	0.10 ～ 0.16
		事故直後の最大値と比較すると 今期最大値は約1/46に減少				
福島第二 原子力発電所	18	0.18 ～ 0.49	0.17 ～ 0.64	0.19 ～ 3.24	0.44 ～ 12.15	0.11 ～ 0.15
		事故直後の最大値と比較すると 今期最大値は約1/25に減少				

(注) 1. 「過去の測定値」は、

R2～：令和2年度から前四半期まで。

H26～：平成26年度から令和元年度まで。

事故直後：事故後（平成22年度第4四半期）から平成25年度まで。

事故前：平成15年度第1四半期から事故前の平成22年度第3四半期まで。

## 2. 環境試料

### (1) 大気浮遊じん

福島第一原子力発電所のダストモニタ（2地点）については、機器本体及びダスト吸入配管等の取り替えが完了し、MP 3地点は平成28年10月から全アルファ放射能及び全ベータ放射能の連続測定を開始し、MP 8地点については、平成29年10月から全アルファ放射能及び全ベータ放射能の連続測定を開始しました。

福島第二原子力発電所のダストモニタ（2地点）は、平成24年度より、大気浮遊じんの全アルファ放射能及び全ベータ放射能の連続測定を開始しました。MP 1地点については、平成31年2月～4月に局舎移設を行い、2地点とも令和3年9月にダストモニタの更新を行いました。

各地点の測定値は、以下のとおりです。

詳細な測定値は、福島第一28ページ、福島第二33ページを参照

#### ア. 月間平均値

福島第一原子力発電所の月間平均値は、いずれも事故前の月間平均値と同等であり、事故の影響による測定値の変動は見られませんでした。

福島第二原子力発電所の月間平均値は、いずれも事故前の月間平均値と同等であり、事故の影響による測定値の変動は見られませんでした。

大気浮遊じんの全アルファ放射能及び全ベータ放射能の月間平均値

(単位：Bq/m<sup>3</sup>)

機関名	項目	測定地点数	月間平均値			過去の月間平均値			
			4月	5月	6月	R2～	H26～	事故直後	事故前
福島第一原子力発電所	全アルファ放射能	2	0.013～0.016	0.012～0.013	0.011～0.012	0.005～0.025	0.006～0.027	※	0.014～0.022
	全ベータ放射能	2	0.036～0.037	0.033～0.038	0.029～0.036	0.020～0.080	0.026～0.091	※	0.028～0.039
福島第二原子力発電所	全アルファ放射能	2	0.010	0.01	0.009～0.010	0.006～0.031	0.008～0.029	0.008～0.035	0.005～0.030
	全ベータ放射能	2	0.046～0.049	0.046～0.047	0.043～0.045	0.018～0.056	0.021～0.049	0.021～0.061	0.019～0.058

(注) 「過去の測定値の範囲」は、

R2～：令和2年度から前四半期まで。

H26～：平成26年度から令和元年度まで。(尚、福島第一原子力発電所は平成28年度第三四半期から)

事故直後：事故後(平成23年3月11日)から平成25年度まで。

事故前：平成13年から事故前(平成23年3月10日)まで。

※は測定値なし(機器周辺の空間線量が高い事及び機器本体及び吸入配管の取り替えを実施し、MP 3地点は平成28年10月、MP 8地点は平成29年10月から運用開始したため)

#### イ. 変動状況

福島第一原子力発電所において最大値は、事故前の最大値と同程度でした。また、全アルファ・全ベータ放射能に相関が見られることから、変動の要因は自然放射能の影響とされます。

ただし、一部の相関逸脱箇所については、周辺土壌の一時的な舞い上がりの影響とされます。

福島第二原子力発電所の最大値は、事故前の最大値と同程度でした。また、全アルファ・全ベータ放射能に良い相関が見られることから、変動の要因は自然放射能の影響とされます。

大気浮遊じんの全アルファ放射能及び全ベータ放射能の最大値

(単位：Bq/m<sup>3</sup>)

機関名	項目	測定地点数	最大値			過去の最大値			
			4月	5月	6月	R2～	H26～	事故直後	事故前
福島第一原子力発電所	全アルファ放射能	2	0.071～0.11	0.055～0.072	0.066～0.070	0.17	0.17	※	0.17
	全ベータ放射能	2	0.14～0.18	0.12～0.18	0.12～0.13	0.47	0.65	※	0.24
福島第二原子力発電所	全アルファ放射能	2	0.035～0.041	0.049～0.051	0.038～0.042	0.15	0.15	0.14	0.20
	全ベータ放射能	2	0.13～0.14	0.17～0.18	0.14	0.28	0.22	0.23	0.29

※は測定値なし(機器周辺の空間線量が高い事及び機器本体及び吸入配管の取り替えを実施し、MP 3地点は平成28年10月、MP 8地点は平成29年10月から運用開始したため)

(2) 環境試料の核種濃度

福島第一原子力発電所が今期間に測定した環境試料は、大気浮遊じんが2地点6試料、土壌が4地点4試料、海水が3地点3試料、海底土が2地点2試料の4品目で合計15試料でした。

福島第二原子力発電所が今期間に測定した環境試料は、大気浮遊じんが2地点6試料、土壌が4地点4試料、海水が3地点3試料、海底土が2地点2試料の4品目で合計15試料でした。

詳細な測定値は、福島第一29～30ページ、福島第二34～35ページを参照

ア. 福島第一原子力発電所測定分

福島第一原子力発電所測定分の環境試料のうち、大気浮遊じん、土壌、海水、海底土の4品目合計15試料からセシウム-137が検出され、海水の一部を除く4品目13試料からセシウム-134が検出されました。

すべての試料において測定値の変動はありますが、令和2年以降の測定値の範囲内となっております。

なお、海水のトリチウムについてはすべての試料から検出されませんでした。

「福島第一原子力発電所測定分」 環境試料中のガンマ線放出核種濃度

試料名	地点数	ガンマ線放出核種	測定値	過去の測定値			
				R2～	H26～	事故直後	事故前
大気浮遊じん (mBq/m <sup>3</sup> )	2	Cs-134	0.028 ～ 0.11	0.012 ～ 3.4	0.060 ～ 18	1.7 ～ 88	ND
		Cs-137	1.2 ～ 4.8	0.48 ～ 65	0.65 ～ 76	2.6 ～ 200	ND
土 壌 (Bq/kg 乾)	4	Cs-134	43 ～ 2,000	61 ～ 12,000	180 ～ 110,000	1,400 ～ 330,000	ND
		Cs-137	2,700 ～ 87,000	2,200 ～ 320,000	2,800 ～ 460,000	2,600 ～ 680,000	2.4 ～ 28
海 水 (Bq/L)	3	Cs-134	ND ～ 0.002	ND ～ 0.022	ND ～ 6.0	ND ～ 76	ND
		Cs-137	0.026 ～ 0.11	0.030 ～ 0.45	0.036 ～ 18	ND ～ 110	ND ～ 0.003
海 底 土 (Bq/kg 乾)	2	Cs-134	1.9 ～ 2.7	1.5 ～ 18	9.9 ～ 350	110 ～ 1,200	ND
		Cs-137	100 ～ 130	76 ～ 370	130 ～ 1,100	210 ～ 1,800	ND ～ 1.2

- (注) 1. 「過去の測定値の範囲」は、  
R2～：令和2年度から前四半期まで。  
H26～：平成26年度から令和元年度まで。  
事故直後：事故後（平成23年3月11日）から平成25年度まで。  
事故前：平成13年から事故前（平成23年3月10日）まで。
2. NDは検出限界未満。  
「ND～(数値)」とあるのは、検出限界未満の試料と検出限界を超えて検出された試料とがあることを示し、検出された試料の中での最大値を右側に表記しました。

「福島第一原子力発電所測定分」 環境試料中のベータ線放出核種濃度

試料名	地点数	ベータ線放出核種	測定値	過去の測定値			
				R2～	H26～	事故直後	事故前
海 水 (Bq/L)	3	H-3	ND	ND ～ 2.2	ND ～ 340	ND ～ 180	ND ～ 0.67



「福島第一原子力発電所測定分」 環境試料中のストロンチウム濃度

試料名	試料数	核種	測定値	過去の測定値			
				R2～	H26～	事故直後	事故前
土 ( Bq/kg 乾 ) 壤	4	S r - 90	3.0 ～ 26	2.3 ～ 70	2.9 ～ 210	4.1 ～ 160	0.77 ～ 2.1
海 ( Bq/L ) 水	3	S r - 90	0.002 ～ 0.003	ND ～ 0.002	ND ～ 21	0.005 ～ 21	0.001 ～ 0.003
海 ( Bq/kg 乾 ) 底土	2	S r - 90	1.2 ～ 3.0	ND ～ 9.6	0.29 ～ 9.1	19 ～ 22	ND ～ 0.17

- (注) 1. 「過去の測定値の範囲」は、  
R2～：令和2年度から前四半期まで。  
H26～：平成26年度から令和元年度まで。  
事故直後：事故後（平成23年3月11日）から平成25年度まで。  
事故前：平成13年から事故前（平成23年3月10日）まで。
2. NDは検出限界未満。  
「ND～(数値)」とあるのは、検出限界未満の試料と検出限界を超えて検出された試料とがあることを示し、検出された試料の中での最大値を右側に表記しました。

イ. 福島第二原子力発電所測定分

福島第二原子力発電所測定分の環境試料のうち、大気浮遊じんの一部及び土壌、海水、海底土の4品目合計13試料からセシウム-137が検出され、土壌の1品目3試料から、セシウム-134が検出されました。

すべての試料において測定値の変動はありますが、令和2年以降の測定値の範囲内となっています。

なお、海水のトリチウムについてはすべての試料から検出されませんでした。

「福島第二原子力発電所測定分」 環境試料中のガンマ線放出核種濃度

試料名	地点数	ガンマ線 放出核種	測定値	過去の測定値			
				R2～	H26～	事故直後	事故前
大気浮遊じん (mBq / m <sup>3</sup> )	2	Cs-134	ND	ND	ND ~ 0.070	ND ~ 0.75	ND
		Cs-137	ND ~ 0.022	ND ~ 0.041	ND ~ 0.20	ND ~ 1.1	ND
土 壌 (Bq/kg 乾)	4	Cs-134	ND ~ 80	ND ~ 190	5.1 ~ 2,800	490 ~ 9,000	ND
		Cs-137	110 ~ 3,800	99 ~ 3,900	53 ~ 7,900	900 ~ 15,000	1.1 ~ 15
海 水 (Bq/L)	3	Cs-134	ND	ND ~ 0.002	ND ~ 0.043	ND ~ 0.36	ND
		Cs-137	0.013 ~ 0.018	0.006 ~ 0.030	ND ~ 0.12	0.079 ~ 1.1	ND ~ 0.003
海 底 土 (Bq/kg 乾)	2	Cs-134	ND	0.73 ~ 7.6	3.6 ~ 74	41 ~ 200	ND
		Cs-137	41 ~ 49	37 ~ 130	52 ~ 220	92 ~ 360	ND ~ 1.5

- (注) 1. 「過去の測定値の範囲」は、  
R2～：令和2年度から前四半期まで。  
H26～：平成26年度から令和元年度まで。  
事故直後：事故後（平成23年3月11日）から平成25年度まで。  
事故前：平成13年から事故前（平成23年3月10日）まで。
2. NDは検出限界未満。  
「ND～(数値)」とあるのは、検出限界未満の試料と検出限界を超えて検出された試料とがあることを示し、検出された試料の中での最大値を右側に表記しました。

「福島第二原子力発電所測定分」 環境試料中のベータ線放出核種濃度

試料名	地点数	ベータ線 放出核種	測定値	過去の測定値			
				R2～	H26～	事故直後	事故前
海 水 (Bq/L)	3	H-3	ND	ND	ND	ND	ND ~ 0.77

「福島第二原子力発電所測定分」 環境試料中のストロンチウム濃度

試料名	試料数	核種	測定値	過去の測定値			
				R2～	H26～	事故直後	事故前
土 ( Bq/kg 乾 ) 壤	4	S r - 90	ND ~ 2.5	ND ~ 3.5	ND ~ 5.5	2.4 ~ 3.9	1.4 ~ 2.4
海 ( Bq/L ) 水	3	S r - 90	0.001 ~ 0.002	ND ~ 0.001	ND ~ 0.005	0.011 ~ 0.014	0.001 ~ 0.003
海 ( Bq/kg 乾 ) 底土	2	S r - 90	ND ~ 0.29	ND ~ 0.45	ND ~ 0.36	ND	ND ~ 0.16

- (注) 1. 「過去の測定値の範囲」は、  
R2～：令和2年度から前四半期まで。  
H26～：平成26年度から令和元年度まで。  
事故直後：事故後（平成23年3月11日）から平成25年度まで。  
事故前：平成13年から事故前（平成23年3月10日）まで。
2. NDは検出限界未満。  
「ND～(数値)」とあるのは、検出限界未満の試料と検出限界を超えて検出された試料とがあることを示し、検出された試料の中での最大値を右側に表記しました。

第5 原子力発電所周辺環境放射能測定値一覧表

福島第一原子力発電所

I. 空間放射線

(1) 空間線量率

単位：  
線量率：mGy/h  
測定時間：h

上段：平均値  
中段：(最大値)  
下段：(最小値)

測定年月 測定 No. 地点名	R5.4		5		6		7		8		9		10		11		12		R6.1		2		3		
	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	
1 M P - 1	564 (581) (535)	720	553 (575) (519)	744	529 (561) (492)	717																			
2 M P - 2	822 (848) (770)	720	809 (842) (751)	744	789 (831) (721)	718																			
3 M P - 3	496 (507) (476)	717	491 (507) (465)	740	483 (503) (465)	720																			
4 M P - 4	1,028 (1,065) (970)	720	992 (1,055) (936)	741	955 (1,013) (879)	720																			
5 M P - 5	725 (751) (677)	720	711 (749) (632)	741	688 (736) (595)	720																			
6 M P - 6	323 (331) (314)	720	323 (331) (312)	741	321 (330) (310)	720																			
7 M P - 7	578 (587) (558)	720	572 (588) (546)	741	563 (581) (535)	720																			
8 M P - 8	546 (554) (531)	720	539 (551) (524)	744	529 (546) (415)	717																			

注)・空間線量率の測定は高線量率モニタリングポストによる。

・欠測時には代替測定器にて測定し、指示値に異常がないことを確認している。

※点検に伴う欠測期間は下記の通り。

MP-1：令和5年6月7日 MP-2：令和5年6月12日 MP-3：令和5年4月13日、5月10日 MP-4：令和5年5月12日

MP-5：令和5年5月16日 MP-6：令和5年5月18日 MP-7：令和5年5月22日 MP-8：令和5年6月6日

・震災後MP-6、7、8については、高線量率の環境下にあることから、新たな放出によって上空を通過する放射性物質を検知しやすくするため、検出器廻りに遮へいを設置し、地表面等からの放射線の影響を抑えていた。

尚、MP-6については事務棟工事などにより周辺環境の線量率が低下したことから、平成25年7月に検出器廻りの遮へいを撤去している。

(2) 空間積算線量

(単位：mGy)

No.	測定地点名	測定期間	R5.4.6		R5.7.6		積算線量	測定日数
			積算線量	測定日数	積算線量	測定日数		
			測定項目					
1	M P - 1		0.97 ( 0.96 )	91				
2	M P - 2		1.53 ( 1.51 )	91				
3	M P - 3		1.02 ( 1.01 )	91				
4	M P - 4		1.08 ( 1.07 )	91				
5	M P - 5		1.24 ( 1.23 )	91				
6	M P - 6		0.86 ( 0.85 )	91				
7	M P - 7		3.31 ( 3.27 )	91				
8	M P - 8		6.80 ( 6.73 )	91				
9*	双葉郡山塚の腰		0.73 ( 0.72 )	91				
10	双葉町長塚		0.45 ( 0.45 )	91				
11	双葉町山田西郷内		1.40 ( 1.38 )	91				
12	大熊町夫沢中央台		2.95 ( 2.92 )	91				
13	大熊町旧役場		2.15 ( 2.13 )	91				
14**	大熊町小入野東大和久		4.53 ( 4.48 )	91				
15	大熊町熊川緑ヶ丘		5.65 ( 5.59 )	91				
16**	大熊町熊川久麻川		5.11 ( 5.05 )	91				
17**	浪江町棚塩安養院		0.17 ( 0.17 )	91				
18	浪江町川添中上ノ原		0.35 ( 0.35 )	91				
19	大熊町野上湯の神		0.87 ( 0.86 )	91				
20	富岡町新福島変電所		0.87 ( 0.86 )	91				
21**	富岡町富岡中学校		0.26 ( 0.26 )	91				

(注) 1. ( ) 内は、90日換算値。

※No9: 郡山堂ノ上から郡山塚ノ腰へ地点変更 (国の中間貯蔵施設設造成対象区域となったことによる変更; 平成28年度第3四半期より)  
 ※No14: 小入野東大和久およびNo16: 熊川久麻川地点については、国の中間貯蔵施設設造成対象区域となったことにより測定地点変更 (令和元年度第1四半期より)  
 ※No17: 北棚塩総合集会所から棚塩安養院へ地点変更 (建屋解体工事が実施されることによる変更; 令和3年度第1四半期より)  
 ※No21: 東京電力西原寮から富岡中学校へ地点変更 (建屋解体工事が実施されることによる変更; 令和4年度第4四半期より)

2. 環境試料  
(1) 大気浮遊じんの大アルファ及び全ベータ放射能

測定値: Bq/m<sup>3</sup> 上段: 平均値  
単位: 測定時間: h 下段: (最大値)

測定地点名	測定年月	R5.4		5		6		7		8		9		10		11		12		R6.1		2		3				
		測定項目	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間		
1 MP-3*		全アルファ放射能	0.016 (0.11)	715	0.013 (0.072)	744	0.012 (0.070)	720																				
		全ベータ放射能	0.036 (0.18)	715	0.033 (0.12)	744	0.029 (0.12)	720																				
2 MP-8*		全アルファ放射能	0.013 (0.071)	718	0.012 (0.055)	744	0.011 (0.066)	720																				
		全ベータ放射能	0.037 (0.14)	718	0.038 (0.18)	744	0.036 (0.13)	720																				

※ 福島第一原子力発電所のダストモニタ：MP-3については、平成28年10月より本運用開始。  
：MP-8については、平成29年10月より本運用開始。

・ 次測時には、可搬型連続ダストモニタにて測定し、指示値に異常がないことを確認している。

\*点検に伴う次測期間は下記の通り。

MP-3：令和5年4月12日・13日・27日・28日

MP-8：令和5年4月23日・24日、6月19日

(2) 大気浮遊じんの種類濃度

No.	採取地点名	採取時期	核種濃度 (mBq/m <sup>3</sup> )															
			<sup>51</sup> Cr	<sup>54</sup> Mn	<sup>58</sup> Co	<sup>59</sup> Fe	<sup>60</sup> Co	<sup>95</sup> Zr	<sup>95</sup> Nb	<sup>106</sup> Ru	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>144</sup> Ce					
1	MP-3	R5. 4. 1 ~	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		R5. 5. 1 ~	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		R5. 6. 1 ~	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
2	MP-8	R5. 4. 1 ~	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.028	1.2	ND	ND
		R5. 5. 1 ~	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.079	3.6	ND	ND
		R5. 6. 1 ~	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.037	1.7	ND	ND

(注) 1. 「ND」は検出限界未満である。





福島第二原子力発電所

1. 空間放射線

(1) 空間線量率

単位：線量率：nGy/h  
測定時間：h  
上段：平均値  
中段：(最大値)  
下段：(最小値)

測定年月 測定 地点名 No.	R5.4		5		6		7		8		9		10		11		12		R6.1		2		3	
	測定時間		測定時間		測定時間		測定時間		測定時間		測定時間		測定時間		測定時間		測定時間		測定時間		測定時間		測定時間	
	線量率	線量率	線量率	線量率	線量率	線量率	線量率	線量率	線量率	線量率	線量率	線量率	線量率	線量率	線量率	線量率	線量率	線量率	線量率	線量率	線量率	線量率	線量率	線量率
1	MP-1	153 (164) (144)	712	147 (159) (141)	744	144 (156) (137)	720																	
2	MP-2	137 (148) (131)	713	133 (146) (129)	744	131 (144) (125)	720																	
3	MP-3	216 (228) (206)	720	212 (225) (200)	737	207 (221) (192)	720																	
4	MP-4	212 (224) (201)	720	205 (221) (194)	737	199 (213) (187)	720																	
5	MP-5	213 (219) (207)	720	211 (221) (205)	738	209 (219) (201)	720																	
6	MP-6	121 (130) (114)	720	119 (134) (112)	738	115 (129) (109)	720																	
7	MP-7	78 (88) (74)	720	76 (91) (74)	738	75 (91) (72)	720																	

注) 欠測時には、可搬型モニタリングポストを設置し、指示値に異常がないことを確認している。

※点検に伴う欠測期間は下記の通り。

MP-1：令和5年4月25日

MP-3：令和5年5月10日

MP-5：令和5年5月16日

MP-7：令和5年5月18日

MP-2：令和5年4月27日

MP-4：令和5年5月11日

MP-6：令和5年5月17日

(2) 空間積算線量

(単位：mGy)

No.	測定項目 測定地点名	R5.4.6 ~ R5.7.6		~		~	
		積算線量	測定日数	積算線量	測定日数	積算線量	測定日数
1	M P - 1	0.45 (0.45)	91				
2	M P - 2	0.34 (0.34)	91				
3	M P - 3	0.49 (0.48)	91				
4	M P - 4	0.48 (0.47)	91				
5	M P - 5	0.50 (0.49)	91				
6	M P - 6	0.27 (0.27)	91				
7	M P - 7	0.18 (0.18)	91				
8	富岡町小こはま浜	0.37 (0.37)	91				
9	富岡町富岡中学校	0.26 (0.26)	91				
10	富岡町小浜中	0.31 (0.31)	91				
11	富岡町上郡山清水	0.40 (0.39)	91				
12	富岡町上郡山	0.44 (0.43)	91				
13	榎葉町上繁岡山根	0.39 (0.39)	91				
14	榎葉町井出浄光東	0.36 (0.36)	91				
15	榎葉町下繁岡一丁目	0.38 (0.38)	91				
16	富岡町上郡山岩井戸	0.39 (0.39)	91				
17	榎葉町井出八石	0.22 (0.22)	91				
18	榎葉町榎葉中学校	0.19 (0.19)	91				

注) ( ) 内は、90日換算値。

福島第二原子力発電所

測定値: Bq/m<sup>3</sup> 上段: 平均値  
 単位: 測定時間: h 下段: (最大値)

2. 環境試料  
 (1) 大気浮遊じんの中のアルファ及び全ベータ放射能

No.	測定年月	R5.4		5		6		7		8		9		10		11		12		R6.1		2		3			
		測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間		
1	MP-1	全アルファ放射能	0.010 (0.041)	720	0.010 (0.049)	744	0.010 (0.038)	678																			
		全ベータ放射能	0.049 (0.14)	720	0.047 (0.17)	744	0.045 (0.14)	678																			
		全アルファ放射能	0.010 (0.035)	720	0.010 (0.051)	744	0.009 (0.042)	678																			
		全ベータ放射能	0.046 (0.13)	720	0.046 (0.18)	744	0.043 (0.14)	678																			
2	MP-7																										

注) 欠測時には、モニタリングポスト指示値、スタックモニタ指示値に異常がないこと、及びプラントに放射性物質の放出に係る事象が発生していないことを確認している。

※点検に伴う欠測期間は下記の通り。

MP-1 : 令和5年6月13日, 14日

MP-7 : 令和5年6月20日, 21日

(2) 大気浮遊じん核種濃度

No.	採取地点名	採取時期	核種濃度 (mBq/m <sup>3</sup> )															
			<sup>51</sup> Cr	<sup>54</sup> Mn	<sup>58</sup> Co	<sup>59</sup> Fe	<sup>60</sup> Co	<sup>95</sup> Zr	<sup>95</sup> Nb	<sup>106</sup> Ru	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>144</sup> Ce					
1	MP-1	R5. 4. 1 ~ R5. 4. 30	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		R5. 5. 1 ~ R5. 5. 31	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		R5. 6. 1 ~ R5. 6. 30	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.008	ND	ND	ND
2	MP-7	R5. 4. 1 ~ R5. 4. 30	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.022	ND	ND	
		R5. 5. 1 ~ R5. 5. 31	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.008	ND	ND	
		R5. 6. 1 ~ R5. 6. 30	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.007	ND	ND	

注) 「ND」は検出限界未満である。

(3) 環境試料中の核種濃度

試料名	種類又は部位	採取及び採地	地点番号	採年月日	単位	核種													天然核種						
						<sup>51</sup> Cr	<sup>54</sup> Mn	<sup>58</sup> Co	<sup>59</sup> Fe	<sup>60</sup> Co	<sup>95</sup> Zr	<sup>95</sup> Nb	<sup>106</sup> Ru	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>144</sup> Ce	<sup>3</sup> H	<sup>131</sup> I		<sup>90</sup> Sr	<sup>238</sup> Pu	<sup>239+240</sup> Pu	<sup>241</sup> Am	<sup>244</sup> Cm	
土	壤表土	1	敷地内	R5. 5.10	Bq/kg乾	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	80	3,800	ND	/	/	1.1	分析中	分析中	分析中	分析中	40		
				R5. 5.10		ND	ND	ND	ND	ND	ND	58	2,500	ND	/	/	1.3	分析中	分析中	分析中	分析中	分析中	260		
				R5. 5.10		ND	ND	ND	ND	ND	ND	65	3,100	ND	/	/	2.5	分析中	分析中	分析中	分析中	分析中	分析中	410	
				R5. 5.10		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	110	ND	/	/	ND	ND	ND	分析中	分析中	分析中	分析中	分析中	820
海水	1	取排水口	東京電力ホールディングス株式会社福島第二原子力発電所	R5. 5.12	Bq/L	/	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.015	ND	ND	/	/	0.001	/	/	/	/		
						ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
						ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2	南放水口	R5. 5.12	Bq/L	/	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.013	ND	ND	/	/	0.001	/	/	/	/		
					ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
					ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
3	北放水口	R5. 5.12	Bq/L	/	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.018	ND	ND	/	/	0.002	/	/	/	/			
				ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND		
				ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
海底土	1	南放水口	東京電力ホールディングス株式会社福島第二原子力発電所	R5. 5.12	Bq/kg乾	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	41	ND	/	/	0.29	/	/	/	/	470		
						ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2	北放水口	R5. 5.12	Bq/kg乾		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	49	ND	/	/	ND	/	/	/	/	400		
						ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
松	葉	1	敷地の南境界付近		Bq/kg生																				
				2		敷地の北境界付近																			
ほんだわら	葉	1	敷地港内		Bq/kg生																				
				2		敷地港内																			

注) 1 「ND」は検出限界未満、「/」は対象外核種。  
 2 上記の他、人工放射性核種は検出されなかった。

添付資料

## 放射性廃棄物管理状況及び試料採取時の付帯データ

自 令和5年4月

至 令和5年6月

東京電力ホールディングス株式会社

福島第一廃炉推進カンパニー

福島第一原子力発電所

福島第二原子力発電所

福島第一原子力発電所

放射性廃棄物管理状況（令和5年度 第1四半期）

(1) 放射性気体廃棄物の放出量（1～4号機）

a. 1～4号機原子炉建屋及び1～3号機格納容器からの追加放出量

(単位：Bq)

	粒子状物質		備考	
	$^{134}\text{Cs}$	$^{137}\text{Cs}$		
1～4号機合計※1	1. $3 \times 10^7$	1. $1 \times 10^7$	「福島第一原子力発電所 特定原子力施設に係る実施計画」において、「1～4号機原子炉建屋及び1～3号機原子炉格納容器以外からの追加的放出は、極めて少ないと考えられる」と評価されていることから、1～4号機における気体廃棄物の放出量としては、1～4号機原子炉建屋及び1～3号機格納容器から放出される $^{134}\text{Cs}$ 及び $^{137}\text{Cs}$ を対象としている。 月1回以上の試料採取により得られた放射能濃度(Bq/cm <sup>3</sup> )に排気設備風量又は風量推定値(m <sup>3</sup> /h)を乗ずることによって放出率(Bq/h)を求め、その放出率に報告対象期間の時間(h)を乗ずることによって、追加放出量を求めている。	
内 訳	1号機	4. $3 \times 10^5$ ※2		3. $4 \times 10^5$
	2号機	2. $8 \times 10^6$ ※2		2. $3 \times 10^6$
	3号機	6. $7 \times 10^6$ ※2		5. $6 \times 10^6$
	4号機	3. $2 \times 10^6$ ※2		2. $5 \times 10^6$ ※3
放出管理の目標値 (年間)	4. $3 \times 10^{10}$	4. $3 \times 10^{10}$		

※1 四捨五入の関係より、「号機毎の合計値」と「1～4号機合計」が合わない場合がある。

※2 全て $^{134}\text{Cs}$ の検出下限値を用いて放出量を算出している。

※3 全て $^{137}\text{Cs}$ の検出下限値を用いて放出量を算出している。

(2) 放射性気体及び放射性液体廃棄物の放出量

a. 放射性気体廃棄物の放出量

		(単位：Bq)				
	全希ガス	$^{131}\text{I}$	$^{133}\text{I}$	全粒子状物質	$^3\text{H}$	備考
原子炉施設合計	検出されず	検出されず	検出されず	$8.2 \times 10^3$	$9.5 \times 10^9$	放射性気体廃棄物の放出放射能 (Bq) は、排気中の放射性物質の濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> ) に排気量 (m <sup>3</sup> ) を乗じて求めている。 なお、放射性物質が検出されない場合は、放出放射能 (Bq) の算出は実施せず”検出されず”と表示した。 検出されずとは、以下の濃度未満の場合をいう。 全希ガス： $2 \times 10^{-2}$ (Bq/cm <sup>3</sup> ) $^{131}\text{I}$ ： $7 \times 10^{-9}$ (Bq/cm <sup>3</sup> ) $^{133}\text{I}$ ： $7 \times 10^{-8}$ (Bq/cm <sup>3</sup> ) 全粒子状物質： $4 \times 10^{-9}$ (Bq/cm <sup>3</sup> ) $^3\text{H}$ ： $4 \times 10^{-5}$ (Bq/cm <sup>3</sup> ) ( $^{137}\text{Cs}$ で代表した)
5, 6号機共用排気筒	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	$7.9 \times 10^9$	
焼却炉建屋排気筒	—	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	
大型機器除染設備排気筒 <sup>※3</sup> 及び汚染拡大防止ハウス排気筒 <sup>※2</sup>	—	—	—	$7.9 \times 10^3$	—	
使用済燃料共用プール排気筒	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	$1.6 \times 10^9$	
増設焼却炉建屋排気筒	—	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	
油処理装置排気筒 <sup>※4</sup>	—	—	—	$3.0 \times 10^2$	検出されず	
分析・研究施設第1棟排気筒	—	—	—	検出されず	—	
固体廃棄物貯蔵庫第9棟排気筒	—	—	—	検出されず	—	
年間放出管理目標値 <sup>※1</sup>	$2.8 \times 10^{15}$	$1.4 \times 10^{11}$	—	—	—	

※1 特定原子力施設に係る実施計画値 (5, 6号機の合計値)。

※2 汚染拡大防止ハウス排気筒は排気設備停止中。

※3 大型機器除染設備排気筒から以下の期間で粒子状物質放出あり。

2023年5月8日から2023年5月16日において、平均で $3.4 \times 10^{-9}$  (Bq/cm<sup>3</sup>) で放出あり。

大型機器除染設備排気筒及び汚染拡大防止ハウス排気筒は、大型機器点検建屋排気筒の測定結果は検出されず、環境への影響はない。

※4 油処理装置排気筒から以下の期間で粒子状物質放出あり。

2023年5月17日から2023年5月24日において、平均で $2.9 \times 10^{-8}$  (Bq/cm<sup>3</sup>) で放出あり。

油処理装置は、運転期間が短いことから検出下限濃度を下げるため分析時間を延長し測定を実施した。そのため、天然核種等も検出され放出量に含まれている。



b. 放射性液体廃棄物の放出量

(単位：Bq)

	全核種 ( <sup>3</sup> Hを除く)	核 種 別						
		<sup>51</sup> Cr	<sup>54</sup> Mn	<sup>59</sup> Fe	<sup>58</sup> Co	<sup>60</sup> Co	<sup>131</sup> I	<sup>134</sup> Cs
原子炉施設合計	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
排水口	1号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
	2号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
	3号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
	4号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
	5号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
	6号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
別内訳								
年間放出管理目標値 <sup>※1</sup>	7.4×10 <sup>10</sup>							

(続き)

	全核種 ( <sup>3</sup> Hを除く)	核 種 別						備 考	
		<sup>89</sup> Sr	<sup>90</sup> Sr	アルファ線を放出する放射性物質	ベータ線を放出する放射性物質	<sup>3</sup> H			
原子炉施設合計	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	・1～4号機排水口は、閉塞済み。
排水口	1号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
	2号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
	3号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
	4号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
	5号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
	6号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
別内訳									
年間放出管理目標値 <sup>※1</sup>								7.4×10 <sup>12</sup> <sup>※2</sup>	

※1 5号機排水口および6号機排水口の放出管理目標値を示す。

なお、現在、実施計画においては1号機排水口～4号機排水口の放出管理目標値を設定していない。

※2 トリチウムについては、放出管理の年間基準値を記載。

試料採取時の付帯データ

(ア) 海水

採取地点名	採取年月日	気温(°C)	水温(°C)	pH	Cl <sup>-</sup> (%)
第一(発)取水口	R5. 5. 18	26. 3	16. 7	8. 2	19. 2
第一(発)南放水口	R5. 5. 18	26. 7	16. 7	8. 2	19. 0
第一(発)北放水口	R5. 5. 18	26. 5	22. 1	8. 1	19. 0

令和5年度月別降水データ表

福島第一原子力発電所			
月	日数 (d)	時間 (h)	降水量 (mm)
R5.4	6	42	54.0
5	13	72	113.0
6	14	97	217.5
7			
8			
9			
10			
11			
12			
R6.1			
2			
3			
合計	33	211	384.5

環境試料測定日

試料名	採取地点名	採取年月日	測定年月日	
			全α・β放射能	γ
大気浮遊じん	M P - 3	R5. 4. 1 ～ R5. 4. 30	連続	R5. 5. 16
		R5. 5. 1 ～ R5. 5. 31	連続	R5. 6. 13
		R5. 6. 1 ～ R5. 6. 30	連続	R5. 7. 24
	M P - 8	R5. 4. 1 ～ R5. 4. 30	連続	R5. 5. 22
		R5. 5. 1 ～ R5. 5. 31	連続	R5. 6. 13
		R5. 6. 1 ～ R5. 6. 30	連続	R5. 7. 24

(注) 「/」は測定対象外。

試料名	採取地点名	採取年月日	測定年月日						
			γ	<sup>3</sup> H	<sup>90</sup> Sr	<sup>238</sup> Pu	<sup>239+240</sup> Pu	<sup>241</sup> Am	<sup>244</sup> Cm
土壌	敷地	R5. 5. 16	R5. 5. 25	/	R5. 7. 16	分析中	分析中	分析中	分析中
	大熊町 <small>の</small> 下野上 <small>がみ</small>	R5. 5. 16	R5. 5. 25	/	R5. 7. 16	分析中	分析中	分析中	分析中
	大熊町 <small>の</small> 熊川 <small>がむ</small>	R5. 5. 16	R5. 5. 25	/	R5. 7. 16	分析中	分析中	分析中	分析中
	双葉町 <small>の</small> 郡山 <small>がま</small>	R5. 5. 16	R5. 5. 25	/	R5. 7. 16	分析中	分析中	分析中	分析中
海水	取水口	R5. 5. 18	R5. 6. 26	R5. 5. 27	R5. 7. 18	/	/	/	/
	南放水口	R5. 5. 18	R5. 6. 26	R5. 5. 28	R5. 7. 18	/	/	/	/
	北放水口	R5. 5. 18	R5. 6. 20	R5. 5. 27	R5. 7. 18	/	/	/	/
	南放水口	R5. 5. 18	R5. 5. 30	R5. 7. 1	R5. 7. 1	/	/	/	/
海底土	北放水口	R5. 5. 18	R5. 5. 31	R5. 7. 1	R5. 7. 1	/	/	/	/

(注) 「/」は測定対象外。

福島第二原子力発電所

放射性廃棄物管理状況(令和5年度, 第1四半期)

放射性気体廃棄物の放出量

(単位:Bq)

	全希ガス	<sup>131</sup> I	<sup>133</sup> I	全粒子状物質	<sup>3</sup> H	備考
原子炉施設合計	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	1.8×10 <sup>10</sup>	放射性気体廃棄物の放出放射能(Bq)は, 排気中の放射性物質の濃度(Bq/cm <sup>3</sup> )に排気量(m <sup>3</sup> )を乗じて求め ている。  なお, 放射性物質が検出されない場合は, 放出放射能(Bq)の算出は実施せず”検出されず”と表示した。  検出されずとは, 以下の濃度未満の場合をいう。 全希ガス: 2×10 <sup>-2</sup> (Bq/cm <sup>3</sup> ) <sup>131</sup> I: 7×10 <sup>-9</sup> (Bq/cm <sup>3</sup> ) <sup>133</sup> I: 7×10 <sup>-8</sup> (Bq/cm <sup>3</sup> ) 全粒子状物質: 4×10 <sup>-9</sup> (Bq/cm <sup>3</sup> ) <sup>3</sup> H: 4×10 <sup>-5</sup> (Bq/cm <sup>3</sup> ) ( <sup>60</sup> Coで代表した)
1号機排気筒	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	3.5×10 <sup>9</sup>	
2号機排気筒	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	4.0×10 <sup>9</sup>	
3号機排気筒	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	4.4×10 <sup>9</sup>	
4号機排気筒	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	5.9×10 <sup>9</sup>	
排気筒 別内訳						
廃棄物処理建屋 換気系排気筒	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	
サイトバンカ建屋排気口	——	——	——	検出されず	——	
焼却設備排気筒	——	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	
年間放出管理目標値	——	——	——	——	——	

2. 放射性液体廃棄物の放出量(第1四半期)

(単位: Bq)

	全核種 ( <sup>3</sup> Hを除く)	核種別									
		<sup>51</sup> Cr	<sup>54</sup> Mn	<sup>59</sup> Fe	<sup>58</sup> Co	<sup>60</sup> Co	<sup>131</sup> I	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs		
原子炉施設合計	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
排水口 別内訳	1号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
	2号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
	3号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
	4号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
年間放出管理目標値 ※1	1.2 × 10 <sup>9</sup>										

(続き)

	核種別			<sup>3</sup> H	備考
	<sup>89</sup> Sr	<sup>90</sup> Sr	アルファ線を放出する放射線物質		
原子炉施設合計	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放射性液体廃棄物の放出放射線量(Bq)は、排水中の放射性物質の濃度(Bq/cm <sup>3</sup> )に排水量(m <sup>3</sup> )を乗じて求めている。
排水口 別内訳	1号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
	2号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
	3号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
	4号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
年間放出管理目標値 ※1				1.4 × 10 <sup>11</sup> ※2	

※1 放出管理目標値は「発電用軽水型原子炉施設周辺の線量目標値に関する指針(原子力委員会決定)」に定められた公衆の線量目標値(50 μSv/年)を下回るように設定した年間の放出放射線量である。

※2 トリチウムについては、放出管理の年間基準値を記載。

試料採取時の付帯データ

(ア) 海水

採取地点名	採取年月日	気温(°C)	水温(°C)	pH	Cl <sup>-</sup> (%)
第二(発)取水口	R5. 5.12	14.9	16.6	8.2	19.0
第二(発)南放水口	R5. 5.12	18.4	16.7	8.2	18.8
第二(発)北放水口	R5. 5.12	19.0	16.0	8.2	18.6

令和5年度月別降水データ表

月	日数(d)	時間(h)	降水量(mm)
R5.4	6	45	83.5
5	13	78	122.5
6	13	98	235.5
7			
8			
9			
10			
11			
12			
R6.1			
2			
3			
合計	32	221	441.5



環境試料測定日

試料名	採取地点名	採取年月日	測定年月日	
			全放射能	$\gamma$
大気浮遊じん	M P - 1	R5. 4. 1 ~R5. 4. 30	連続	R5. 5. 23
		R5. 5. 1 ~R5. 5. 31	連続	R5. 6. 14
		R5. 6. 1 ~R5. 6. 30	連続	R5. 7. 25
	M P - 7	R5. 4. 1 ~R5. 4. 30	連続	R5. 5. 17
		R5. 5. 1 ~R5. 5. 31	連続	R5. 6. 14
		R5. 6. 1 ~R5. 6. 30	連続	R5. 7. 17

試料名	採取地点名	採取年月日	測定年月日								
			$\gamma$	$^3\text{H}$	$^{90}\text{Sr}$	$^{238}\text{Pu}$	$^{239+240}\text{Pu}$	$^{241}\text{Am}$	$^{244}\text{Cm}$		
土	発電所敷地内	R5. 5. 10	R5. 5. 25	/	R5. 7. 15	分析中	分析中	分析中	分析中	分析中	分析中
		榎葉町波倉 <small>なみくら</small>	R5. 5. 24	/	R5. 7. 15	分析中	分析中	分析中	分析中	分析中	分析中
	富岡町小浜 <small>こはま</small>	R5. 5. 10	R5. 5. 25	/	R5. 7. 15	分析中	分析中	分析中	分析中	分析中	分析中
		富岡町下郡山 <small>しもおりやま</small>	R5. 5. 10	R5. 5. 24	/	R5. 7. 15	分析中	分析中	分析中	分析中	分析中
海	取水口	R5. 5. 12	R5. 6. 15	R5. 5. 31	R5. 7. 16	/	/	/	/	/	/
		南放水口	R5. 5. 12	R5. 6. 19	R5. 6. 14	R5. 7. 16	/	/	/	/	/
	北放水口	R5. 5. 12	R5. 6. 15	R5. 5. 31	R5. 7. 16	/	/	/	/	/	/
		南放水口	R5. 5. 12	R5. 5. 31	R5. 7. 1	R5. 7. 1	/	/	/	/	/
北放水口	R5. 5. 12	R5. 5. 25	R5. 7. 1	R5. 7. 1	/	/	/	/	/	/	

(注) 「/」は測定対象外。

# 令和5年度 第1四半期 空間線量率等の変動グラフ

東京電力ホールディングス株式会社

福島第一廃炉推進カンパニー

福島第一原子力発電所

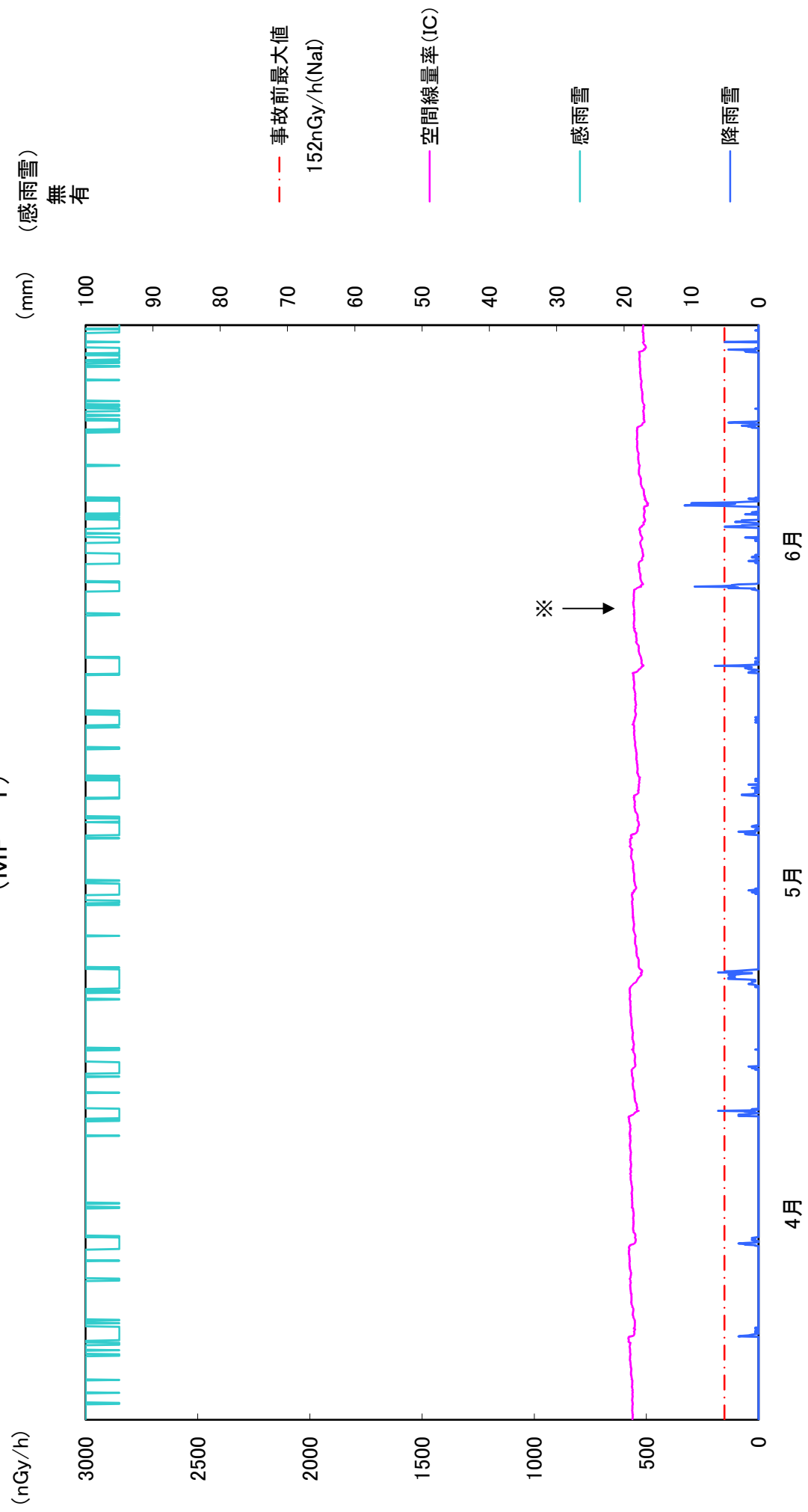
福島第二原子力発電所

## 目次

空間線量率		大気浮遊じん（推移）	
1	福島第一原子力発電所 MP-1	1	福島第一原子力発電所 MP-3
2	福島第一原子力発電所 MP-2	2	福島第一原子力発電所 MP-8
3	福島第一原子力発電所 MP-3	3	福島第二原子力発電所 MP-1
4	福島第一原子力発電所 MP-4	4	福島第二原子力発電所 MP-7
5	福島第一原子力発電所 MP-5		
6	福島第一原子力発電所 MP-6	大気浮遊じん（相関図）	
7	福島第一原子力発電所 MP-7	1	福島第一原子力発電所 MP-3
8	福島第一原子力発電所 MP-8	2	福島第一原子力発電所 MP-8
9	福島第二原子力発電所 MP-1	3	福島第二原子力発電所 MP-1
10	福島第二原子力発電所 MP-2	4	福島第二原子力発電所 MP-7
11	福島第二原子力発電所 MP-3		
12	福島第二原子力発電所 MP-4		
13	福島第二原子力発電所 MP-5		
14	福島第二原子力発電所 MP-6		
15	福島第二原子力発電所 MP-7		

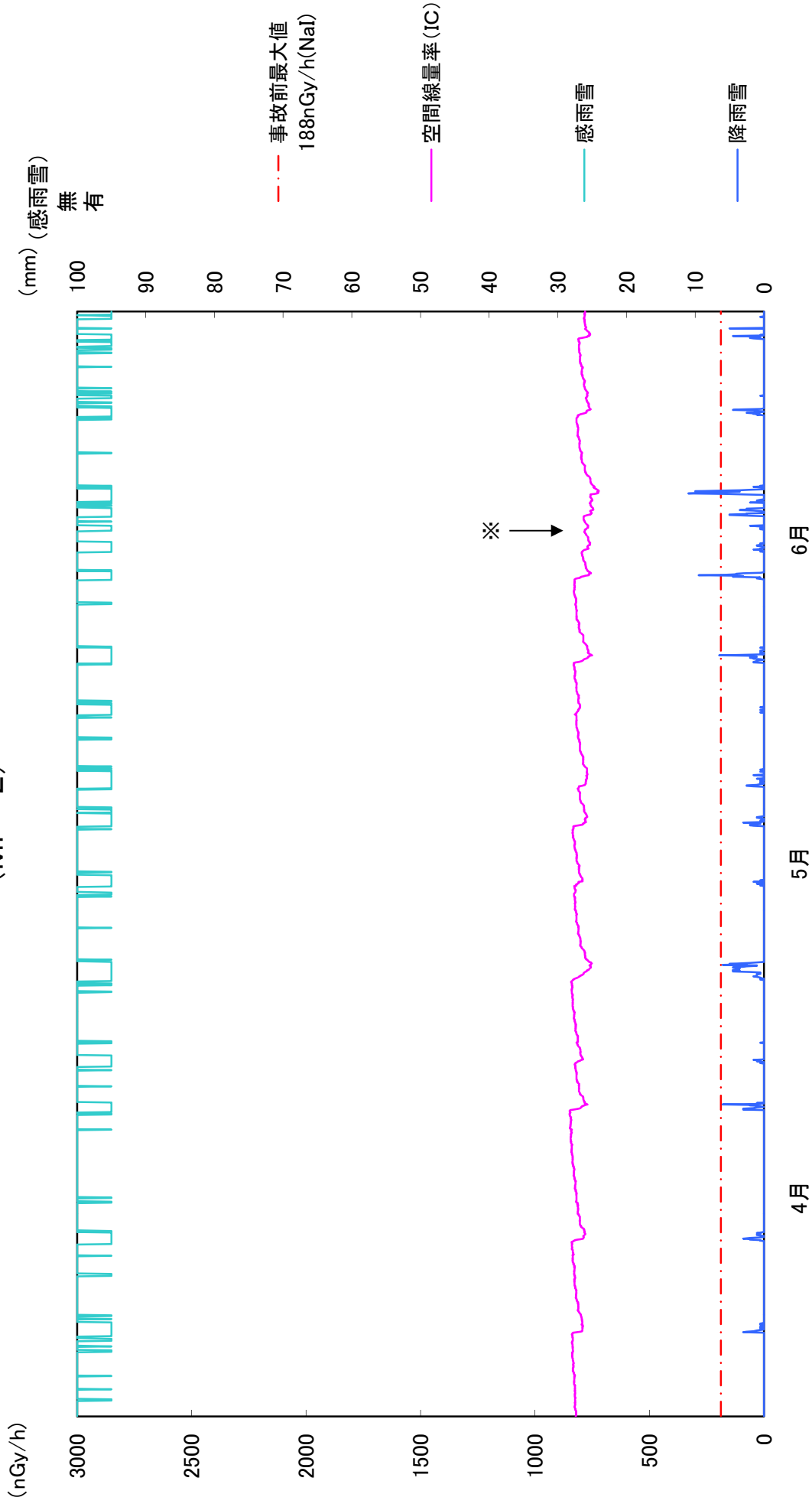
# 空間線量率の変動グラフ (MP-1)

福島第一原子力発電所



※点検及び定期保守作業に伴う欠測:6月7日  
欠測時には、代替測定器にて測定し、指示値に異常がないことを確認している。  
周辺環境線量率のバックグラウンドが事故の影響で上昇したことにより、測定を電離箱式検出器(IC)にて行っている。

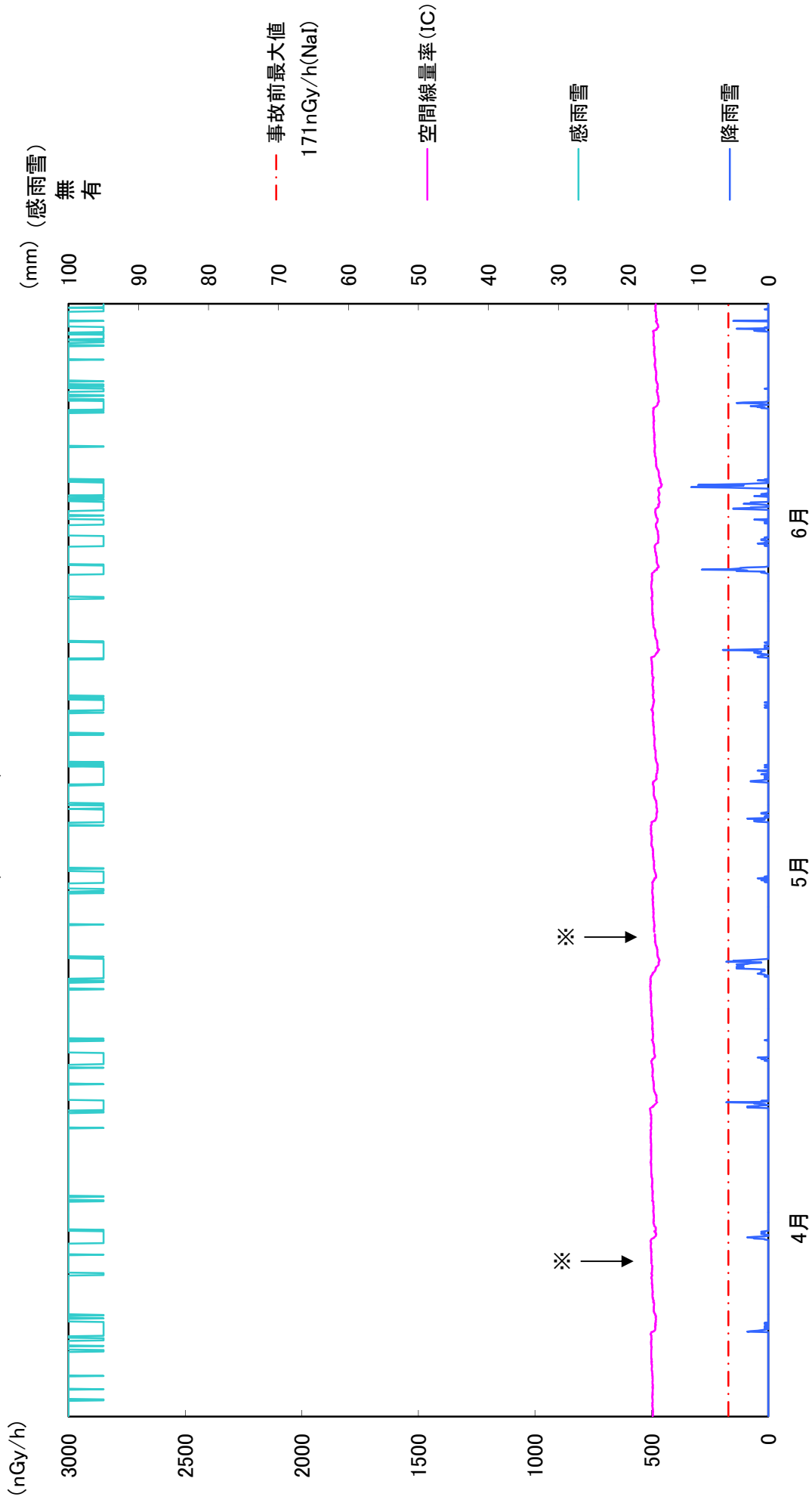
空間線量率の変動グラフ  
(MP-2)



※点検及び定期保守作業に伴う欠測:6月12日  
欠測時には、代替測定器にて測定し、指示値に異常がないことを確認している。  
周辺環境線量率のバックグラウンドが事故の影響で上昇したことにより、測定を電離箱式検出器(IC)にて行っている。

# 空間線量率の変動グラフ (MP-3)

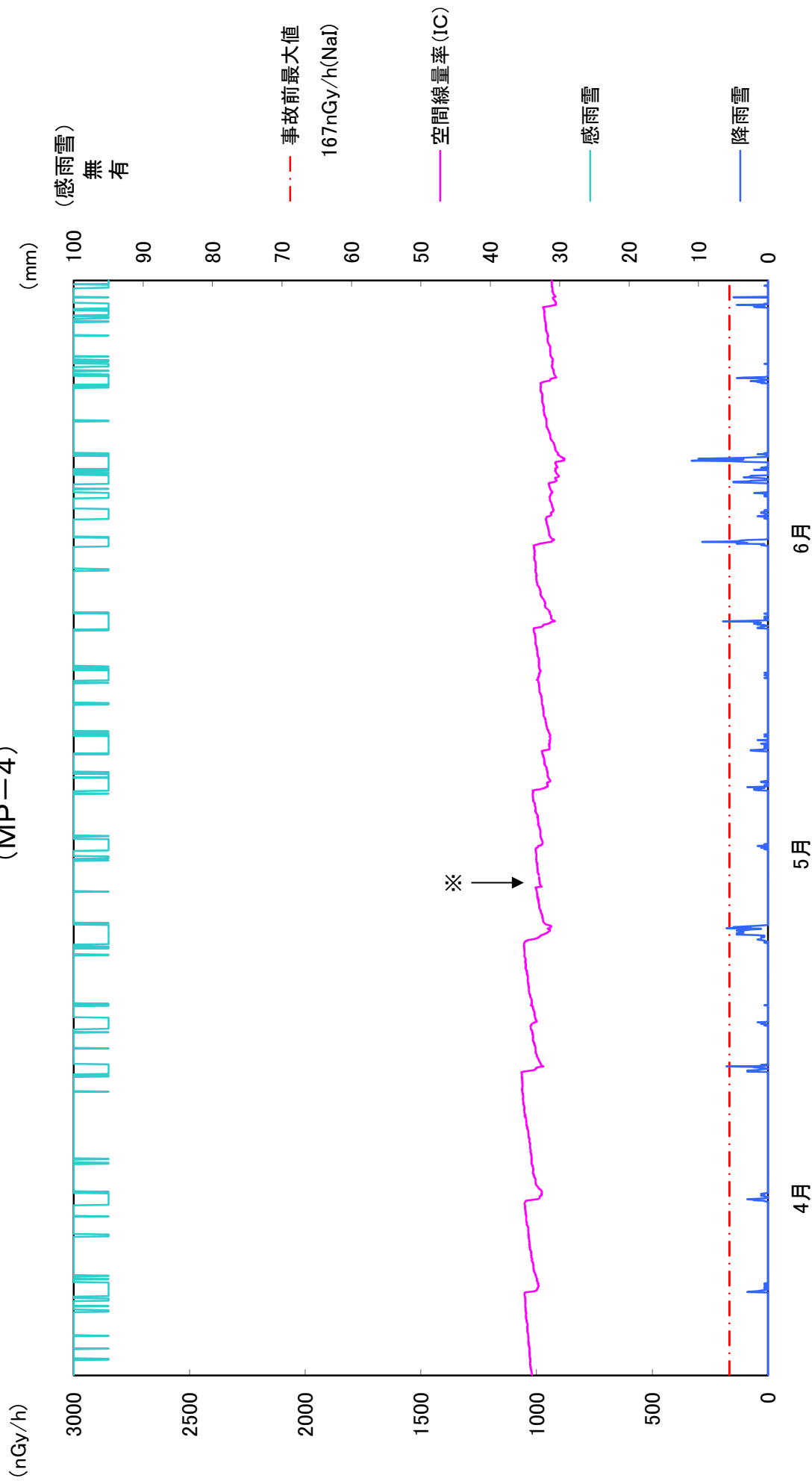
福島第一原子力発電所



※点検及び定期保守作業に伴う欠測: 4月13日, 5月10日  
 欠測時には, 代替測定器にて測定し, 指示値に異常がないことを確認している。  
 周辺環境線量率のバックグラウンドが事故の影響で上昇したことにより, 測定を電離箱式検出器(IC)にて行っている。

空間線量率の変動グラフ

(MP-4)



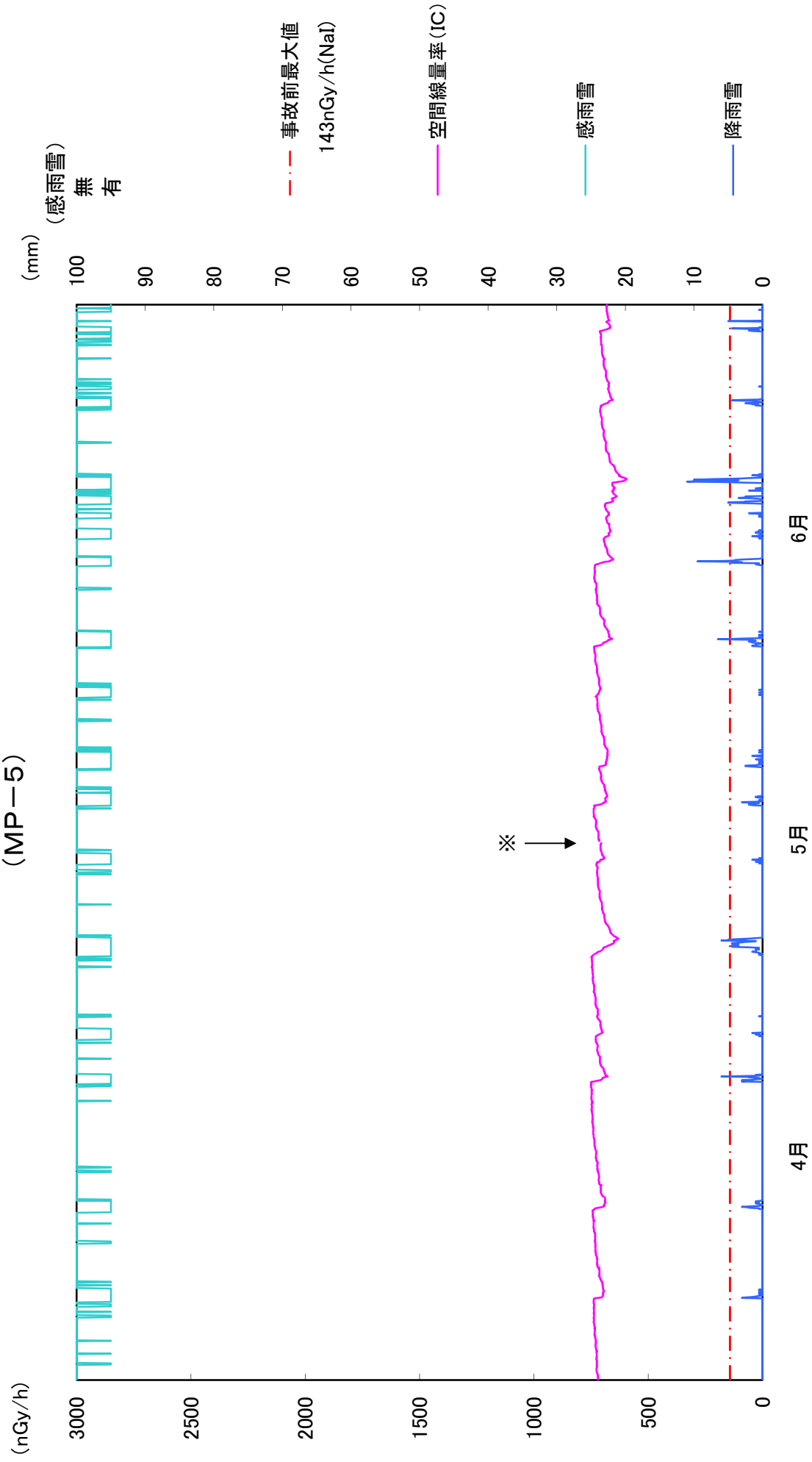
※点検及び定期保守作業に伴う欠測：5月12日

欠測時には、代替測定器にて測定し、指示値に異常がないことを確認している。

周辺環境線量率のバックグラウンドが事故の影響で上昇したことにより、測定を電離箱式検出器(IC)にて行っている。

# 空間線量率の変動グラフ

福島第一原子力発電所

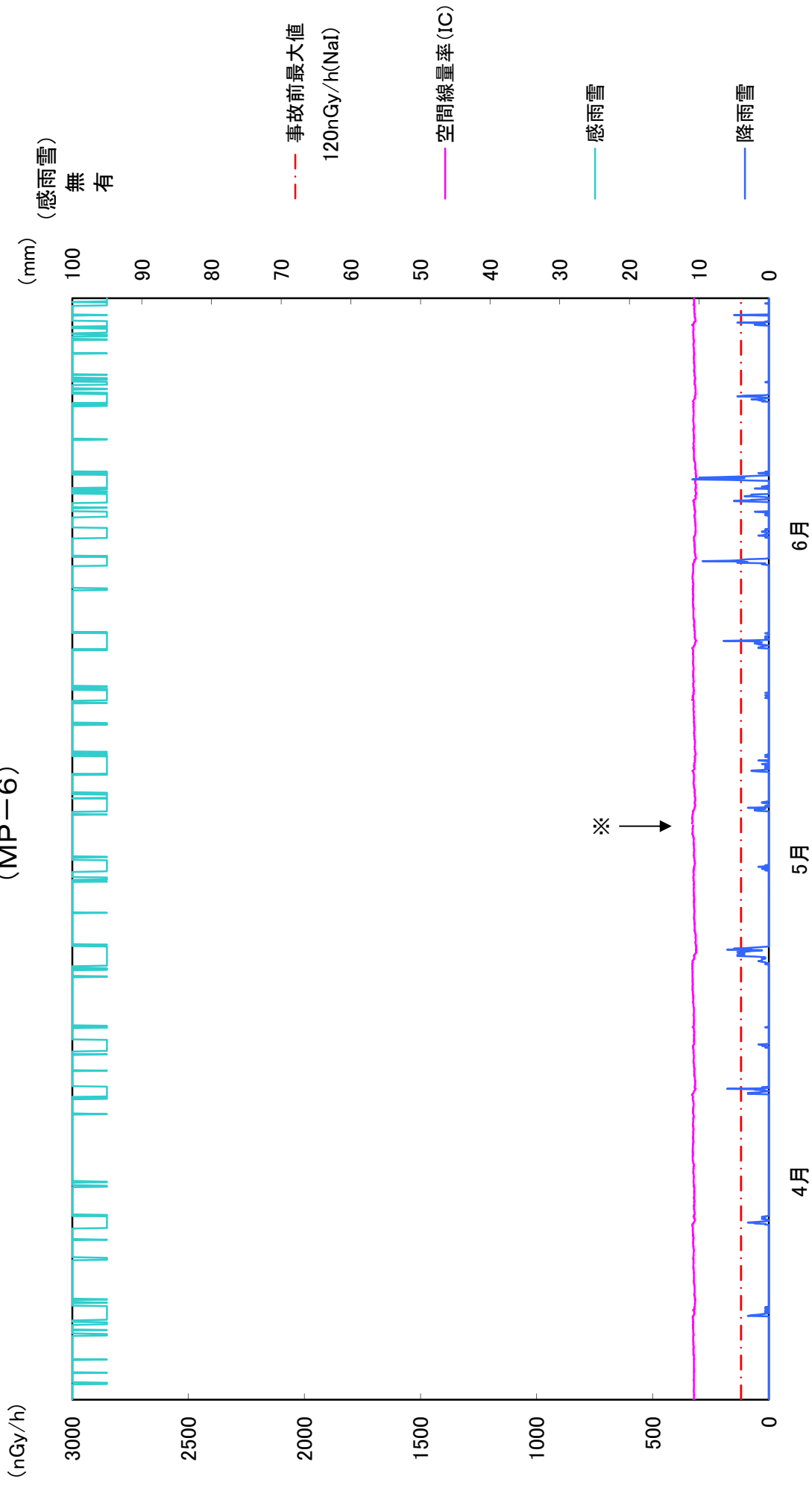


※点検及び定期保守作業に伴う欠測:5月16日  
 欠測時には、代替測定器にて測定し、指示値に異常がないことを確認している。  
 周辺環境線量率のバックグラウンドが事故の影響で上昇したことにより、測定を電離箱式検出器(IC)にて行っている。



# 空間線量率の変動グラフ (MP-6)

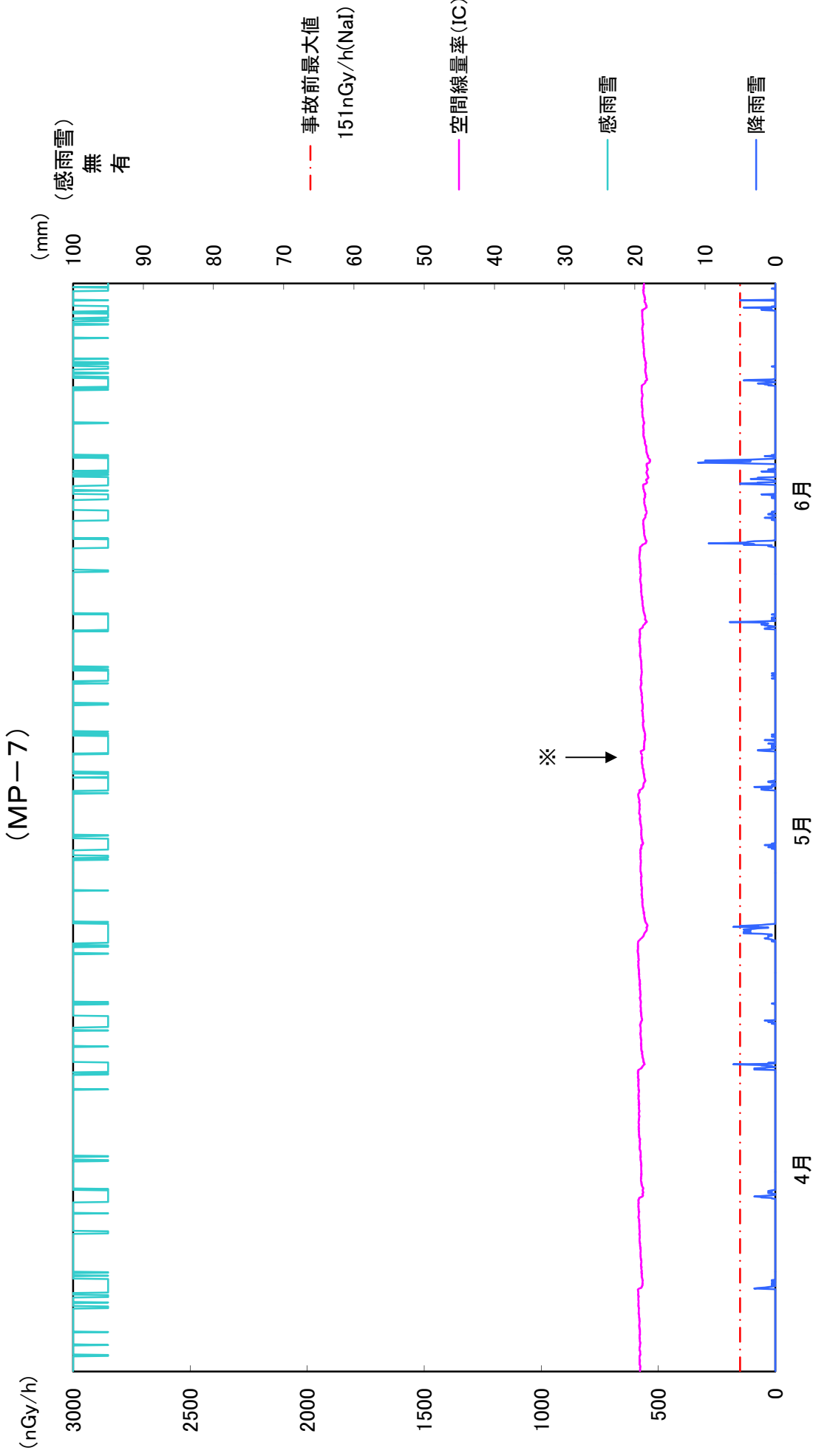
福島第一原子力発電所



※点検及び定期保守作業に伴う欠測:5月18日  
 欠測時には、代替測定器にて測定し、指示値に異常がないことを確認している。  
 周辺環境線量率のバックグラウンドが事故の影響で上昇したことにより、測定を電離箱式検出器(IC)にて行っている。

# 空間線量率の変動グラフ

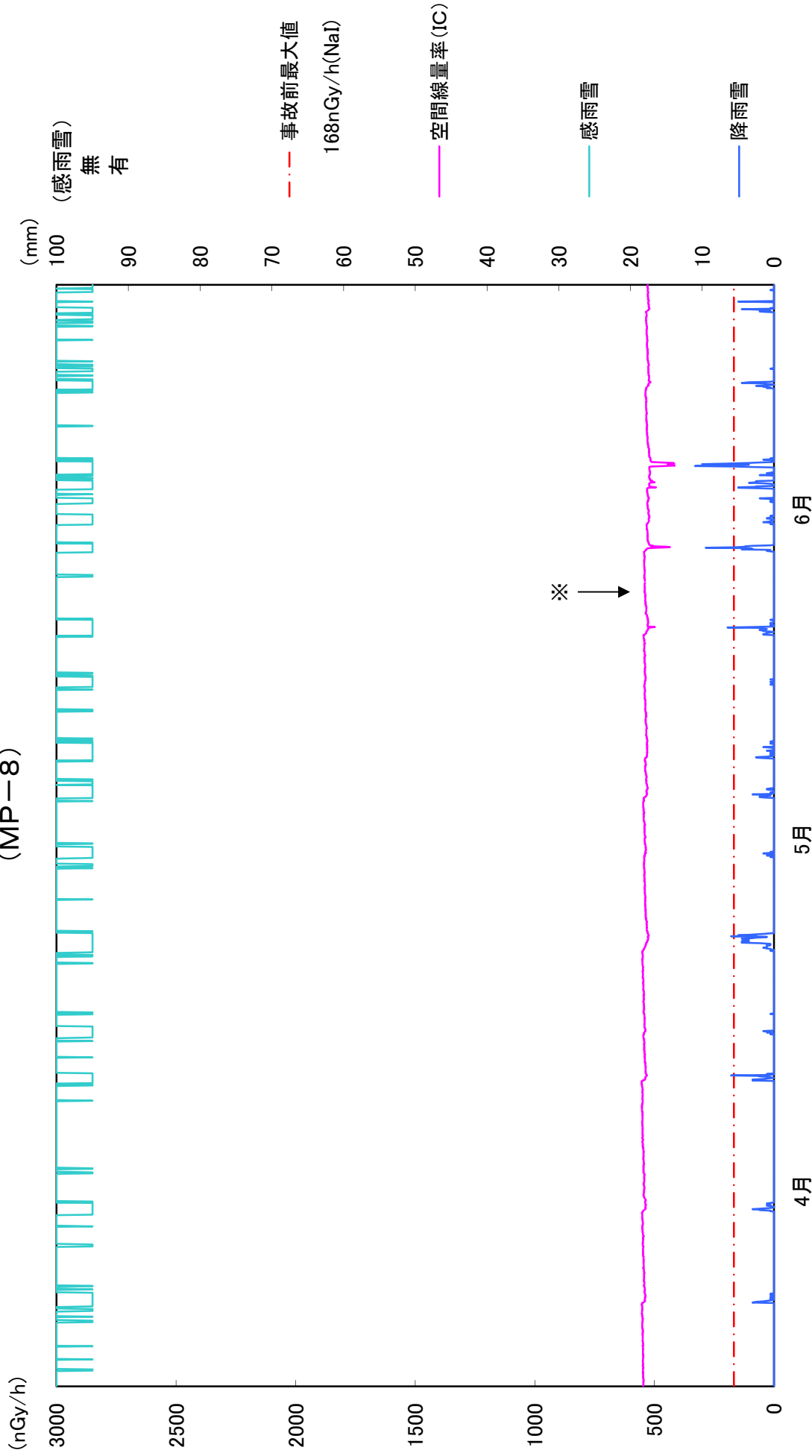
福島第一原子力発電所



※点検及び定期保守作業に伴う欠測：5月22日  
 欠測時には、代替測定器にて測定し、指示値に異常がないことを確認している。  
 MP-7、8については、高線量率の環境下にあることから、新たな放出によって上空を通過する放射性物質を検知しやすくなるため、  
 検出器廻りに遮へいを設置し、地表面等からの放射線の影響を抑えている。  
 周辺環境線量率のバックグラウンドが事故の影響で上昇したことにより、測定を電離箱式検出器(IC)にて行っている。

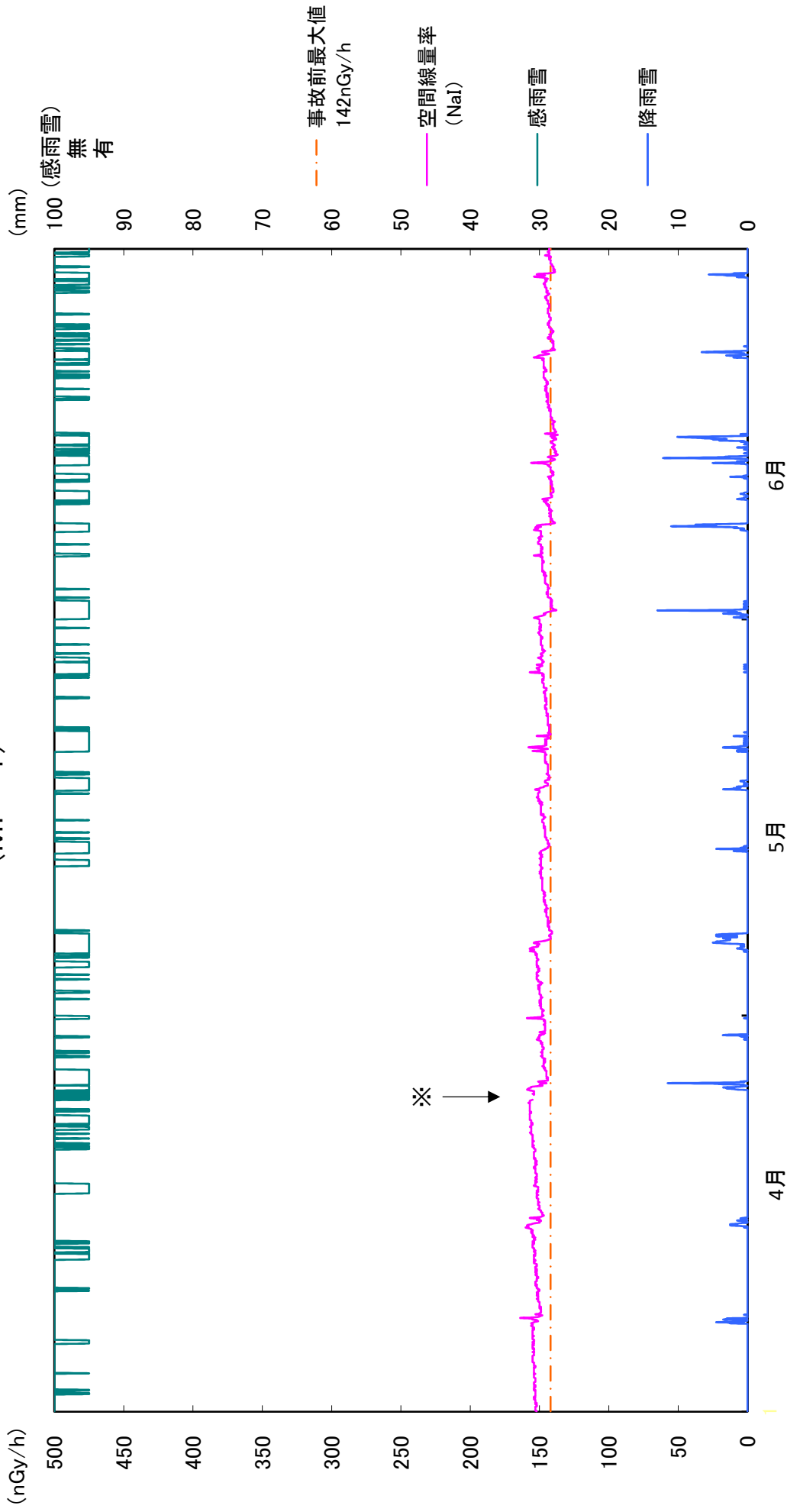
# 空間線量率の変動グラフ (MP-8)

福島第一原子力発電所



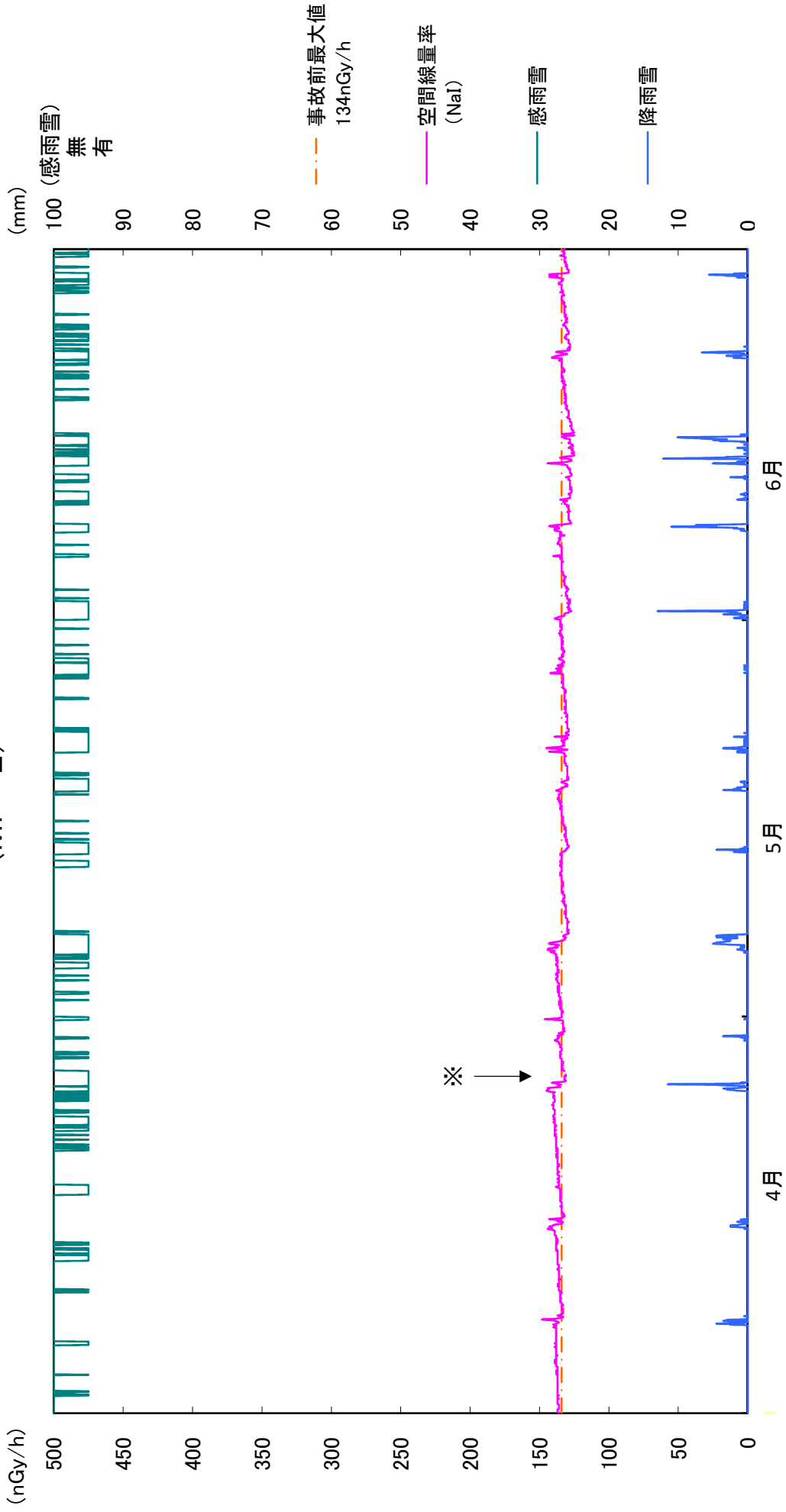
※点検及び定期保守作業に伴う欠測:6月6日  
 欠測時には、代替測定器にて測定し、指示値に異常がないことを確認している。  
 MP-7, 8については、高線量率の環境下にあることから、新たな放出によって上空を通過する放射性物質を検知しやすくするため、  
 検出器廻りに遮へいを設置し、地表面等からの放射線の影響を抑えている。  
 周辺環境線量率のバックグラウンドが事故の影響で上昇したことにより、測定を電離箱式検出器(IC)にて行っている。

空間線量率の変動グラフ  
(MP-1)



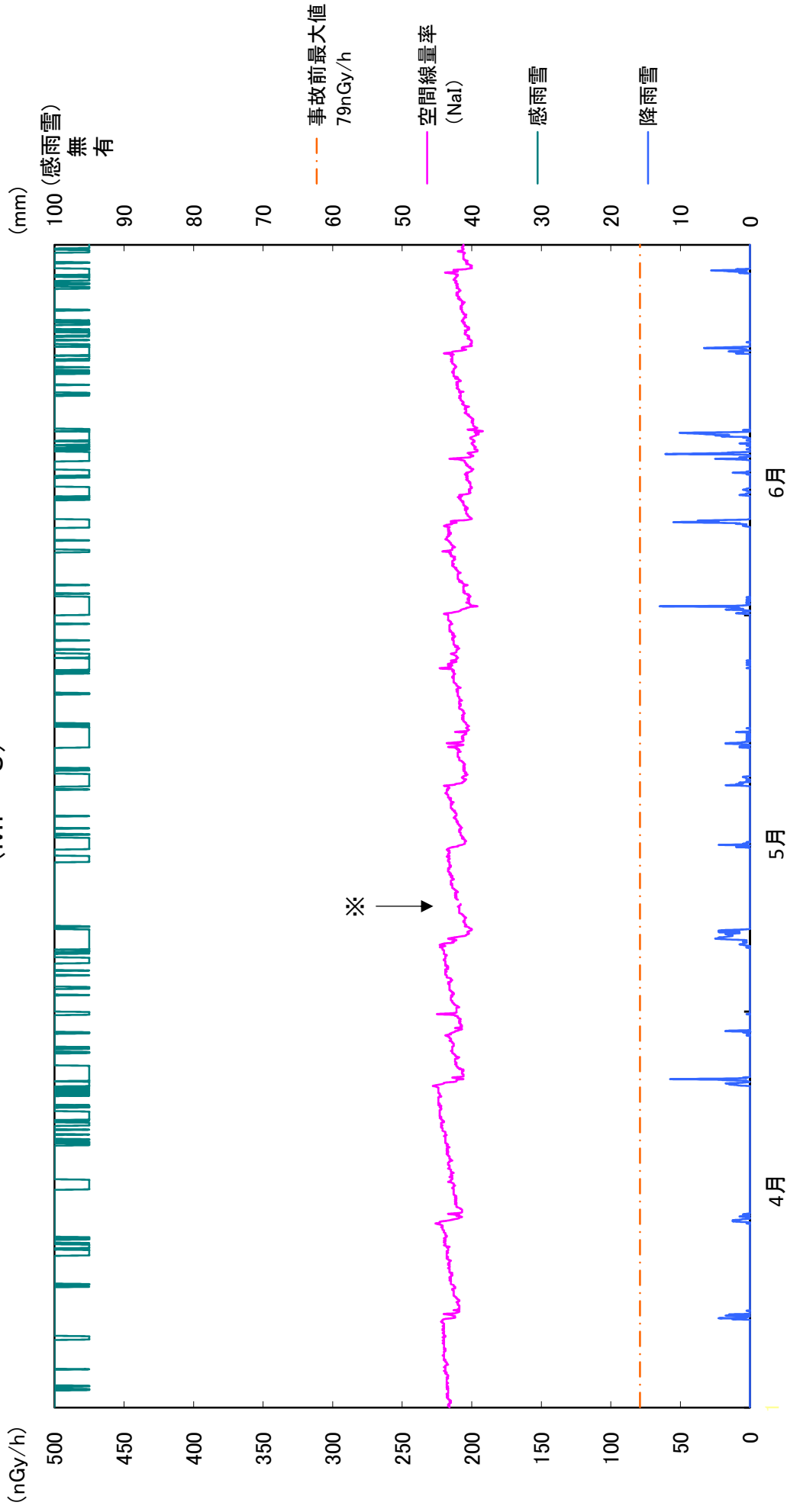
※点検に伴う欠測:4月25日  
欠測時には、可搬型モニタリングポストを設置し、指示値に異常がないことを確認している。

空間線量率の変動グラフ  
(MP-2)



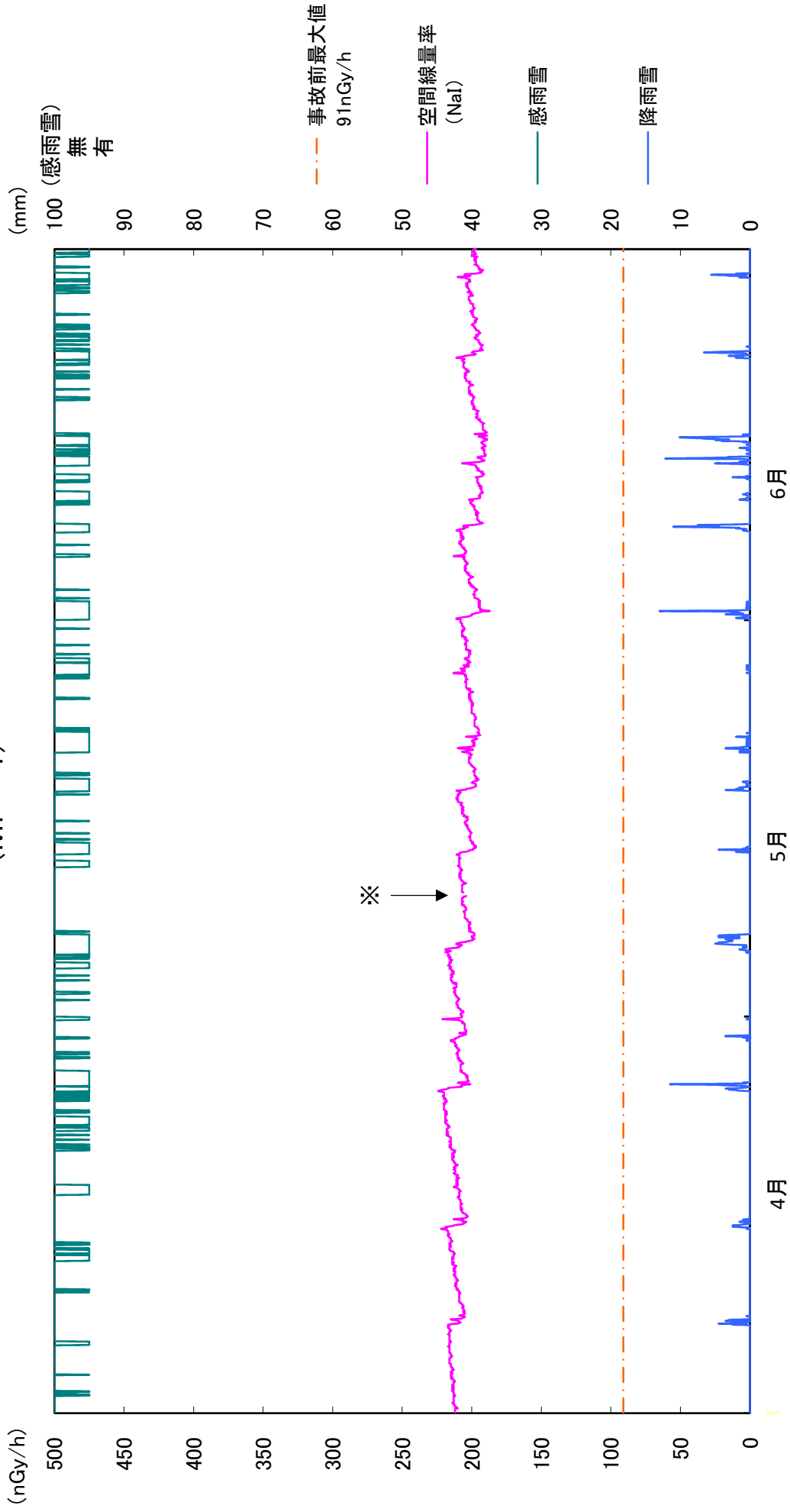
※点検に伴う欠測:4月27日  
欠測時には、可搬型モニタリングポストを設置し、指示値に異常がないことを確認している。

空間線量率の変動グラフ  
(MP-3)



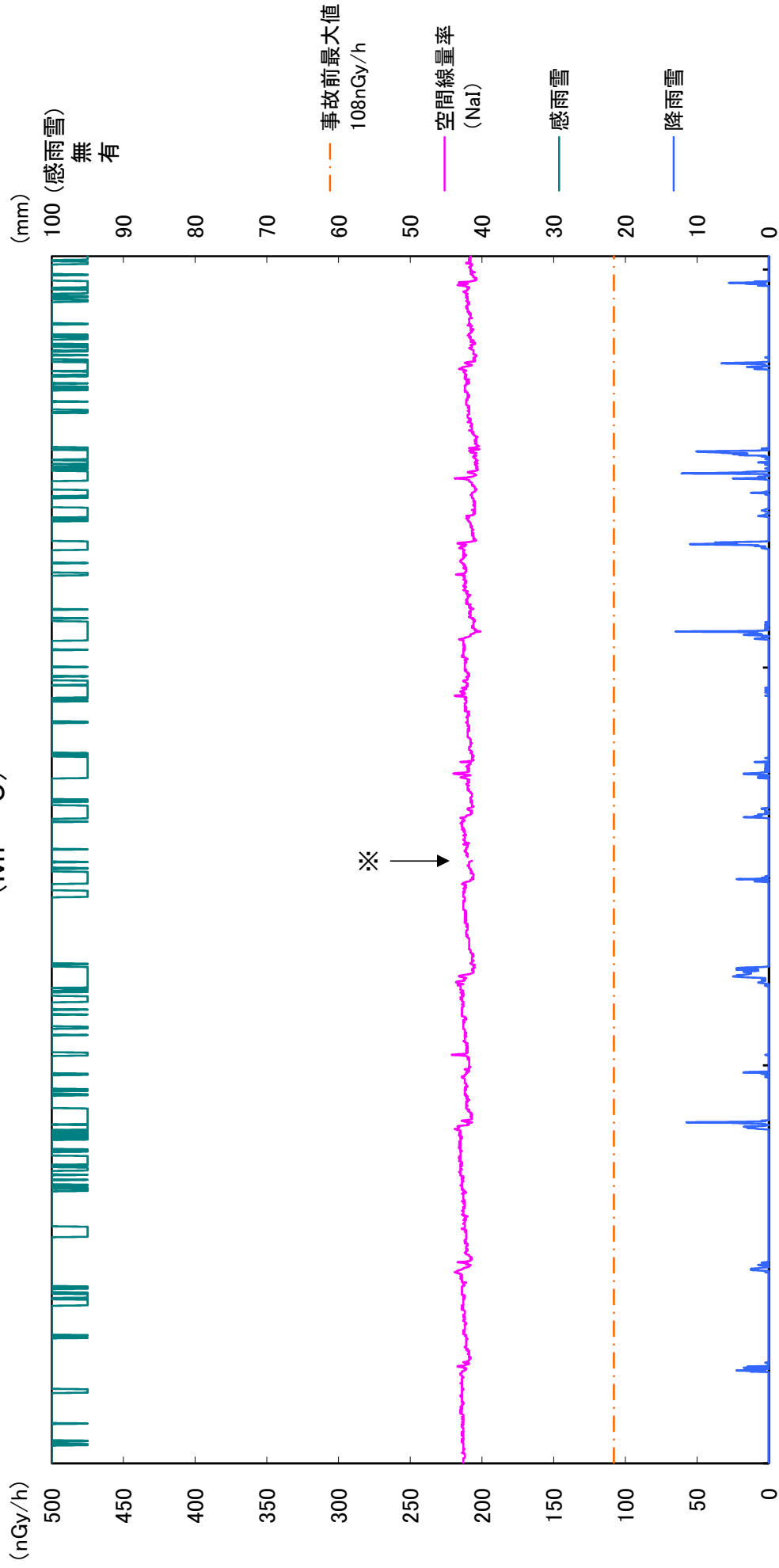
※点検に伴う欠測:5月10日  
欠測時には、可搬型モニタリングポストを設置し、指示値に異常がないことを確認している。

空間線量率の変動グラフ  
(MP-4)



※点検に伴う欠測:5月11日  
欠測時には、可搬型モニタリングポストを設置し、指示値に異常がないことを確認している。

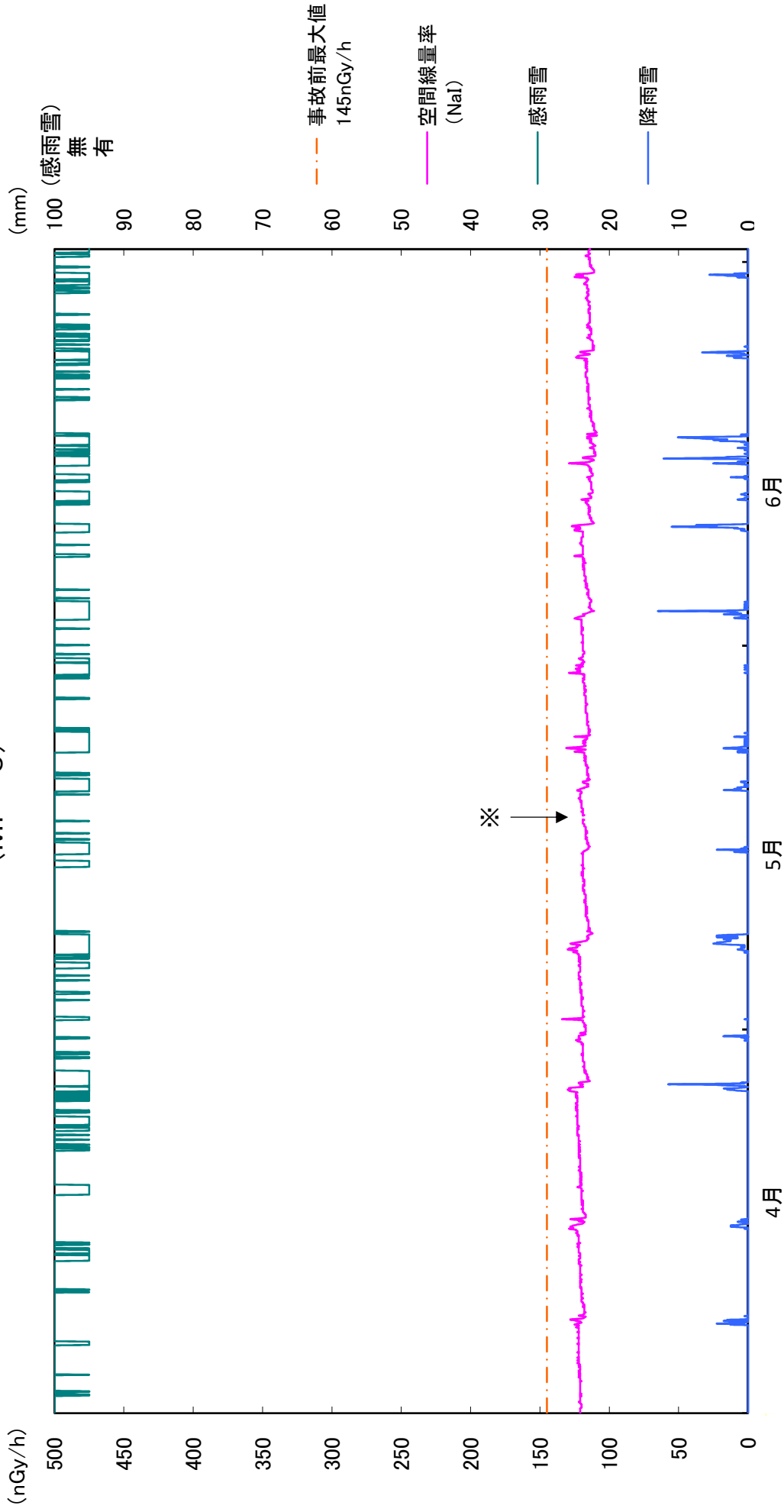
空間線量率の変動グラフ  
(MP-5)



※点検に伴う欠測:5月16日  
欠測時には、可搬型モニタリングポストを設置し、指示値に異常がないことを確認している。

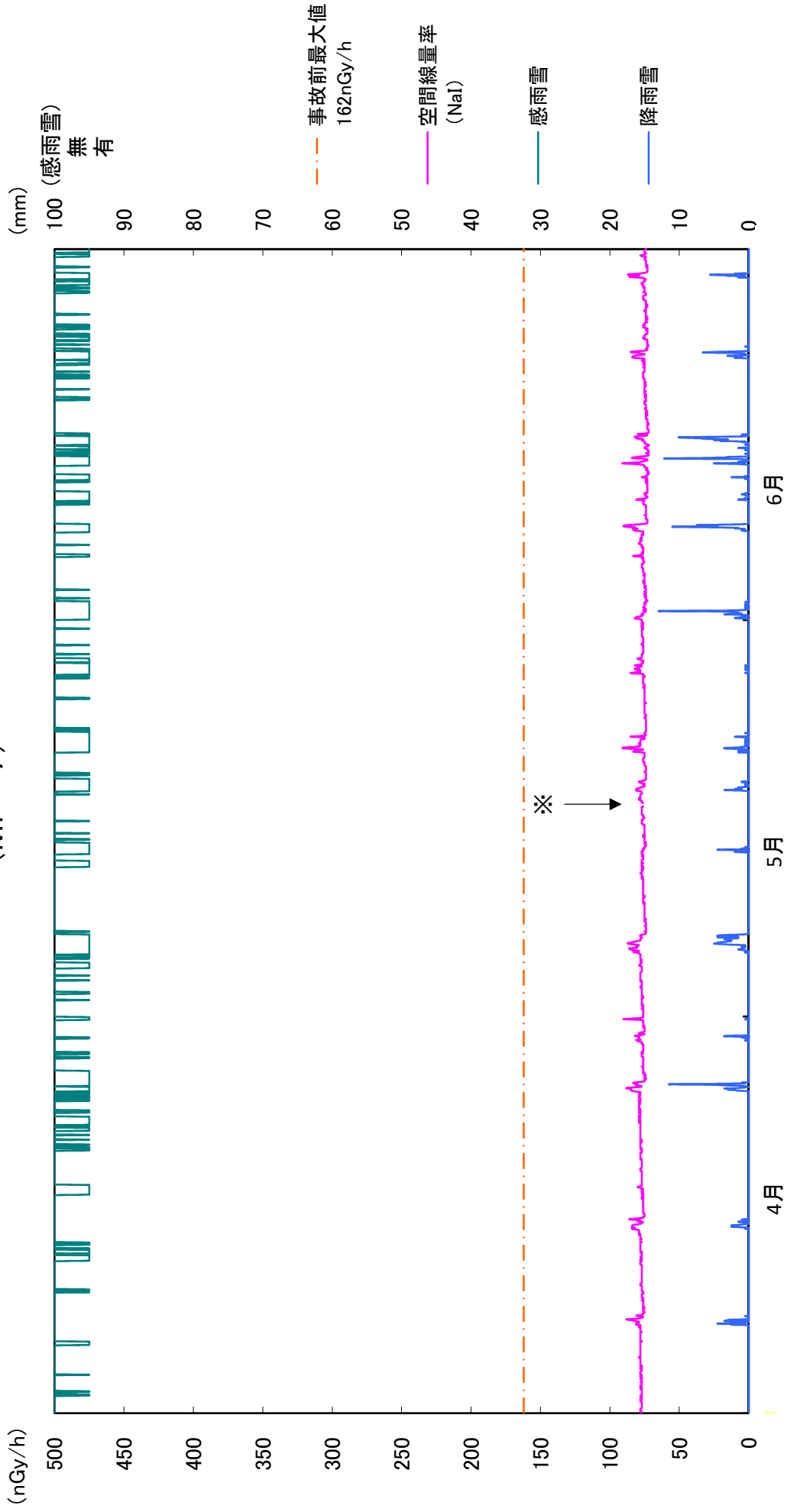


空間線量率の変動グラフ  
(MP-6)



※点検に伴う欠測:5月17日  
欠測時には、可搬型モニタリングポストを設置し、指示値に異常がないことを確認している。

空間線量率の変動グラフ  
(MP-7)

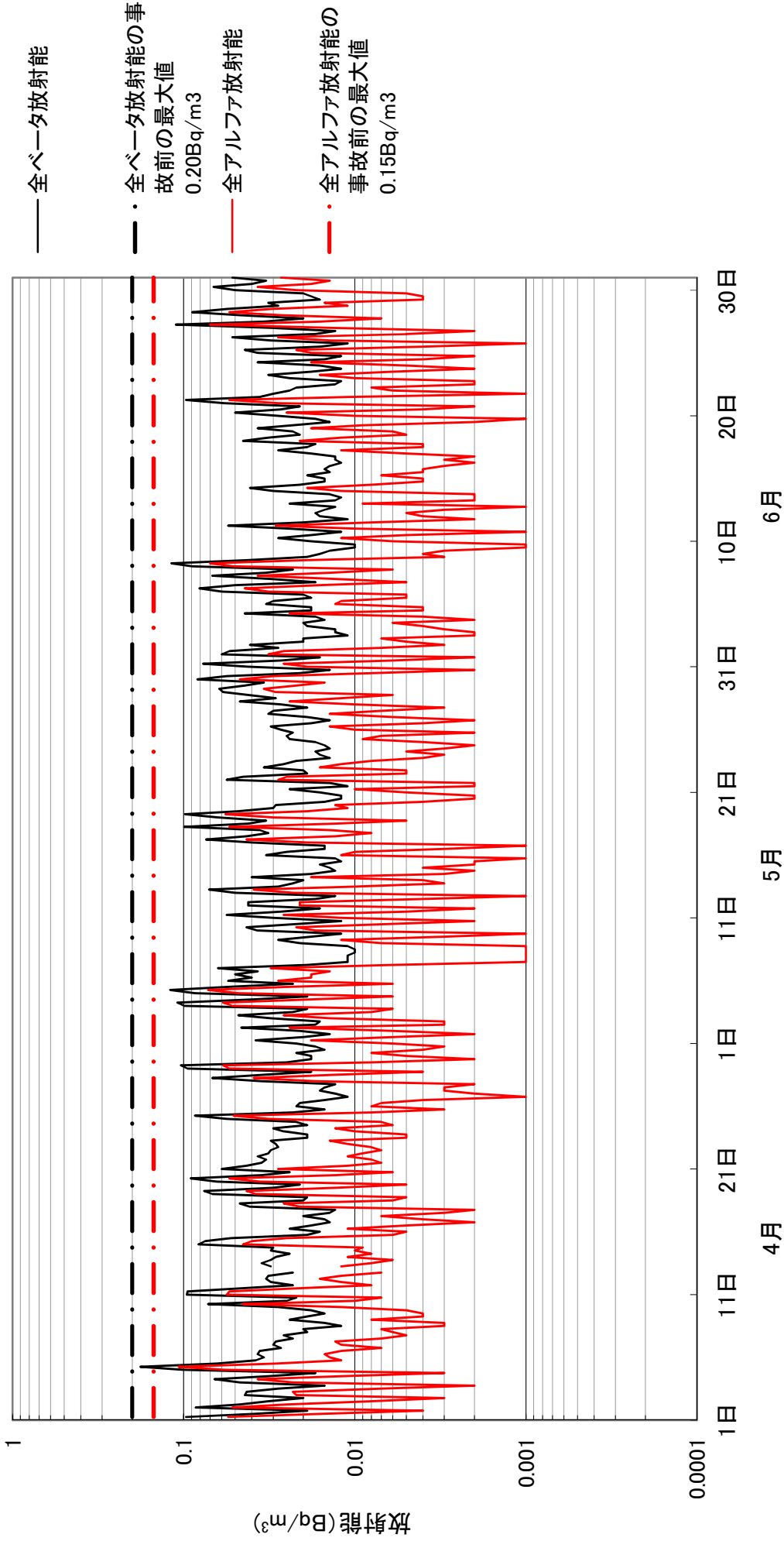


※点検に伴う欠測:5月18日  
欠測時には、可搬型モニタリングポストを設置し、指示値に異常がないことを確認している。

# 大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移

MP-3

(令和5年4月1日～令和5年6月30日)

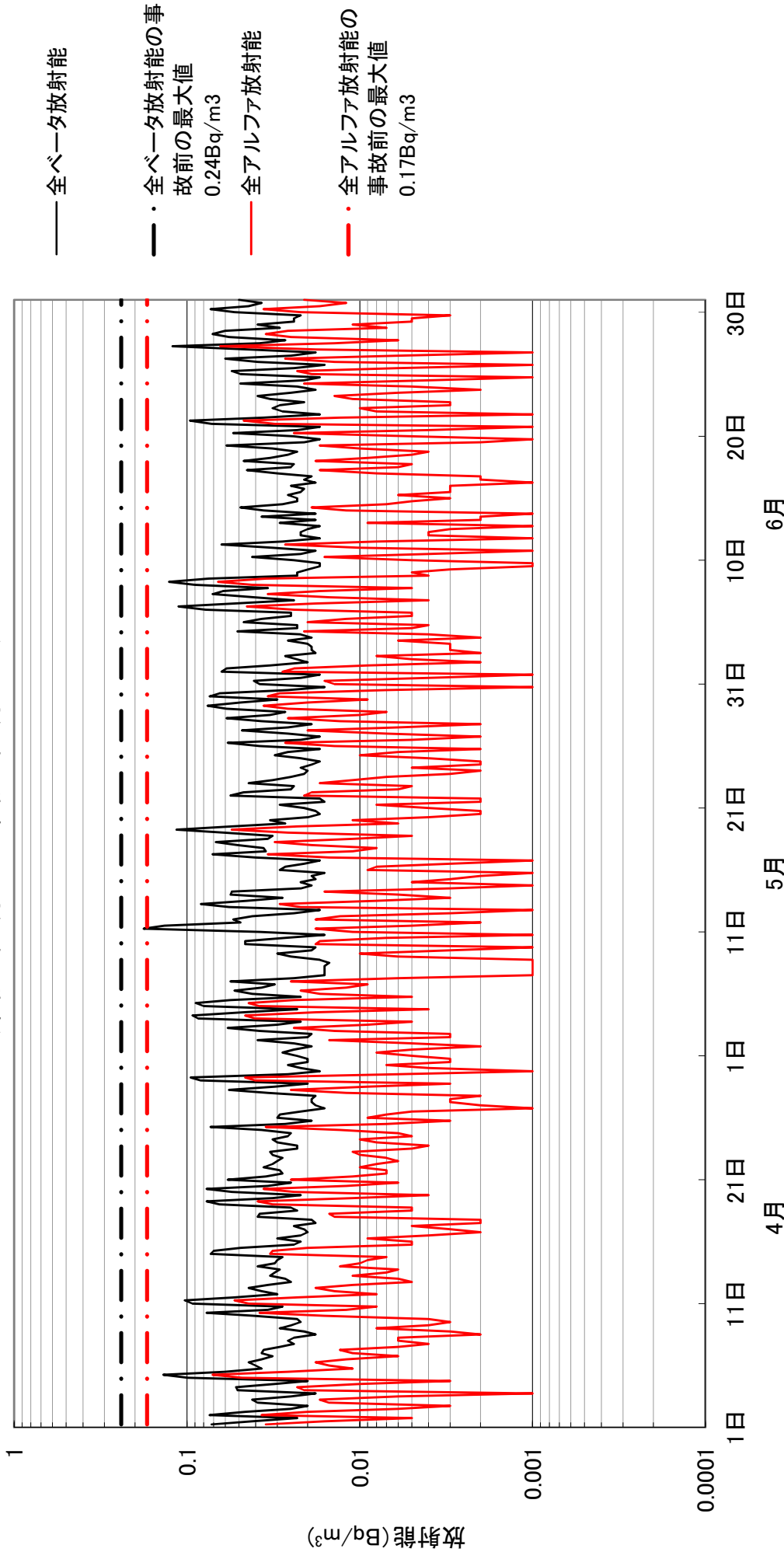


4月12日・13日・27日・28日については、定期点検及び定期保守作業に伴う欠測。  
 欠測時は、敷地境界付近(MP1～MP8)に設置した連続ダストモニタにて指示値に異常がないことを確認している。  
 注) 全アルファ放射能は 0.001Bq/m<sup>3</sup> より小さい場合には 0Bq/m<sup>3</sup> となるため対数グラフに表示されない。

## 大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移

MP-8

(令和5年4月1日～令和5年6月30日)

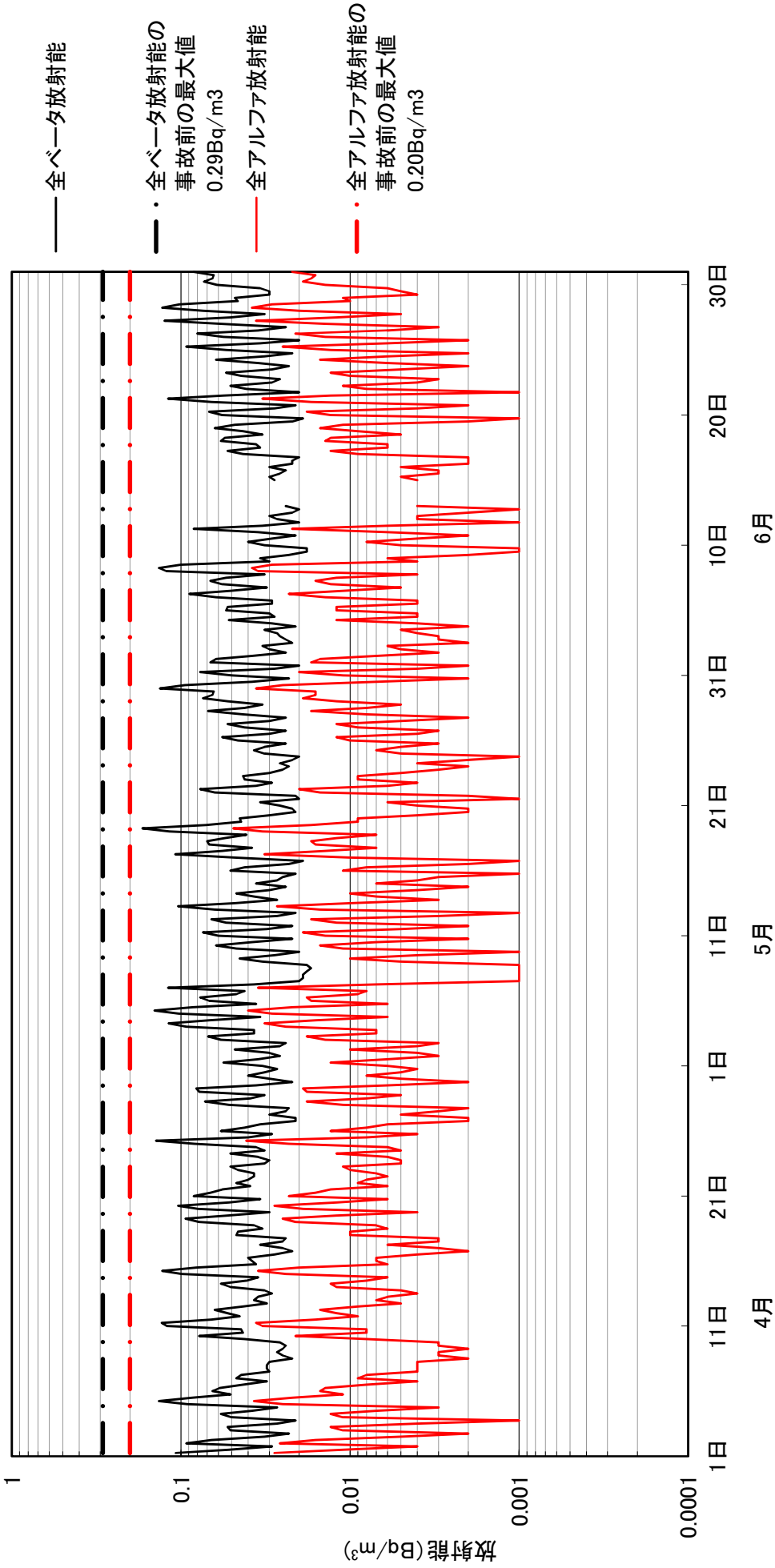


4月23日・24日、6月19日については、定期点検及び定期保守作業に伴う欠測。  
 欠測時は、敷地境界付近(MP1～MP8)に設置した連続ダストモニタにて指示値に異常がないことを確認している。  
 注)全アルファ放射能は0.001Bq/m<sup>3</sup>より小さい場合には0Bq/m<sup>3</sup>となるため対数グラフに表示されない。

# 大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移

MP-1

(令和5年4月1日～令和5年6月30日)



令和5年6月13日,14日については,点検に伴う欠測。

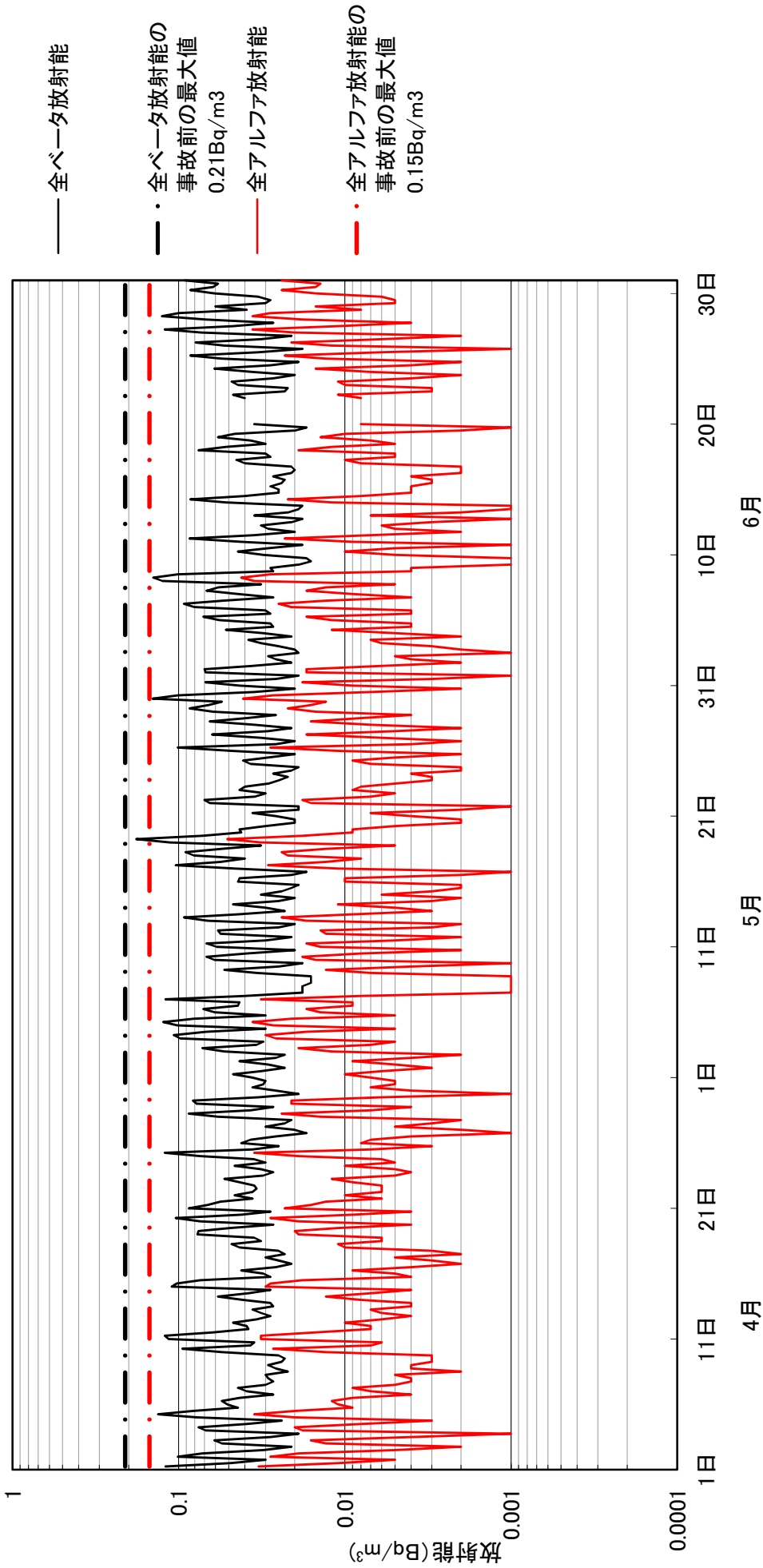
(欠測時には,モニタリングポスト指示値,スタックモニタ指示値に異常がないこと,及びプラントに放射性物質の放出に係る事案が発生していないことを確認している。)

注)全アルファ放射能は0.001Bq/m<sup>3</sup>より小さい場合には0Bq/m<sup>3</sup>となるため対数グラフに表示されない。

# 大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移

MP-7

(令和5年4月1日～令和5年6月30日)

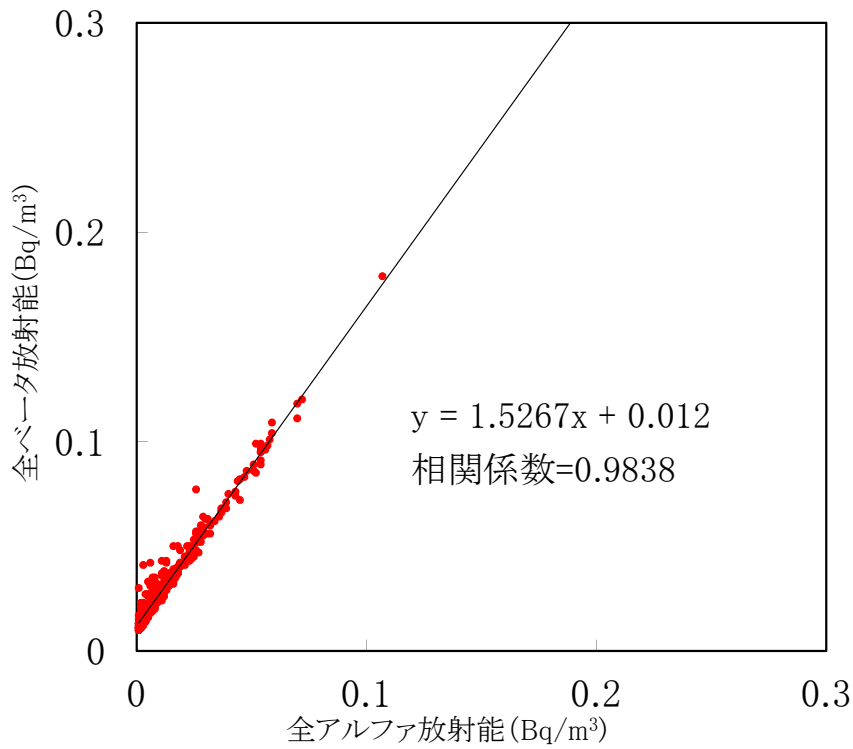


令和5年6月20日,21日については,点検に伴う欠測。

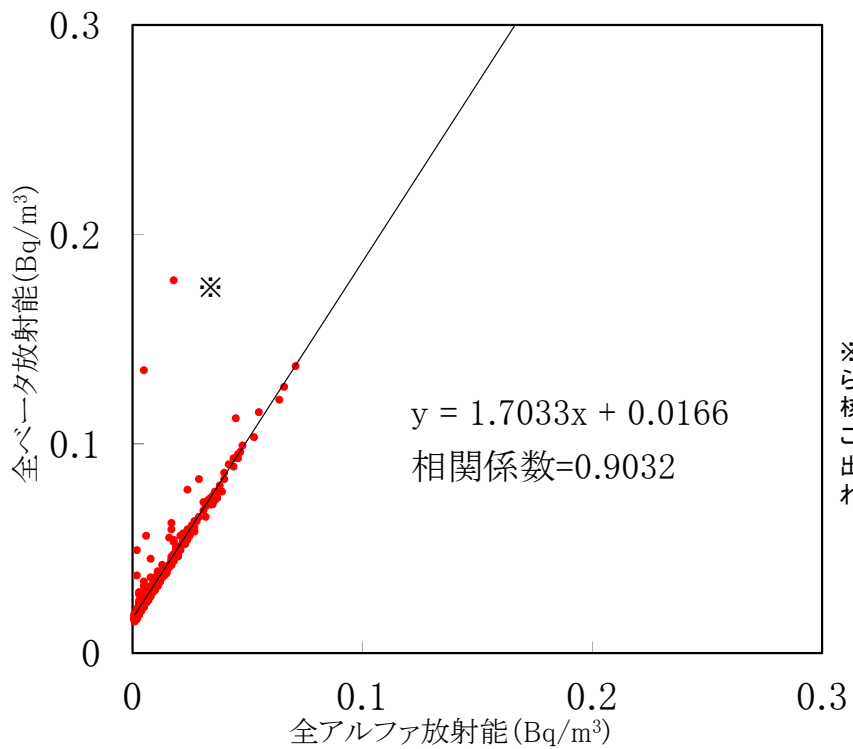
(欠測時には,モニタリングポスト指示値,スタックモニタ指示値に異常がないこと,及びプラントに放射性物質の放出に係る事案が発生していないことを確認している。)

注)全アルファ放射能は0.001Bq/m<sup>3</sup>より小さい場合には0Bq/m<sup>3</sup>となるため対数グラフに表示されない。

大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能の相関図  
(MP-3)  
(令和5年4月～令和5年6月)

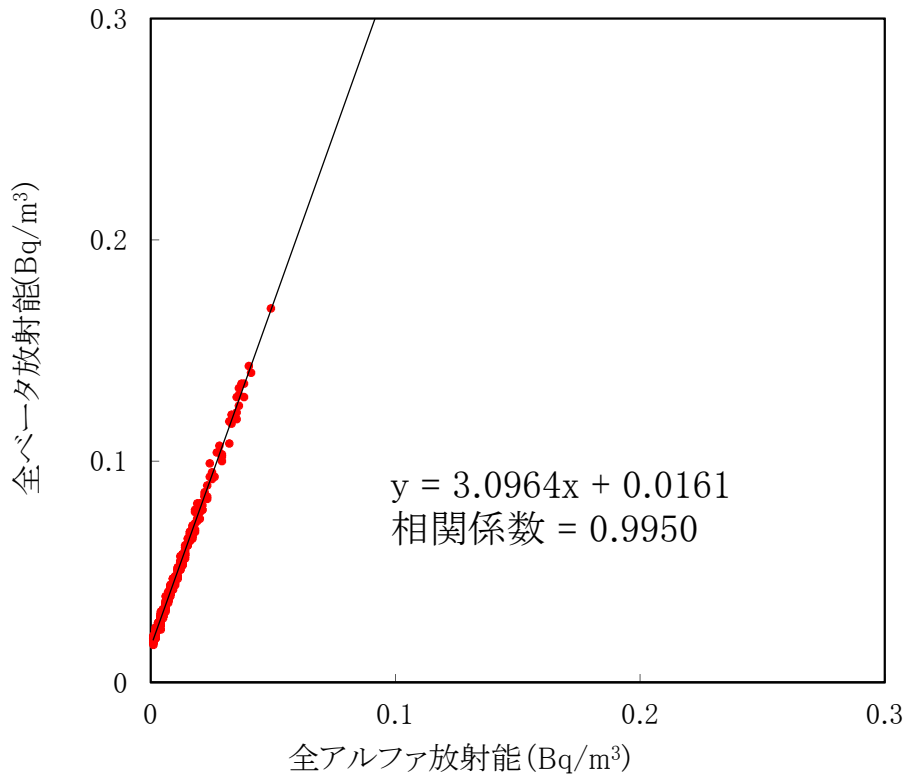


大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能の相関図  
(MP-8)  
(令和5年4月～令和5年6月)

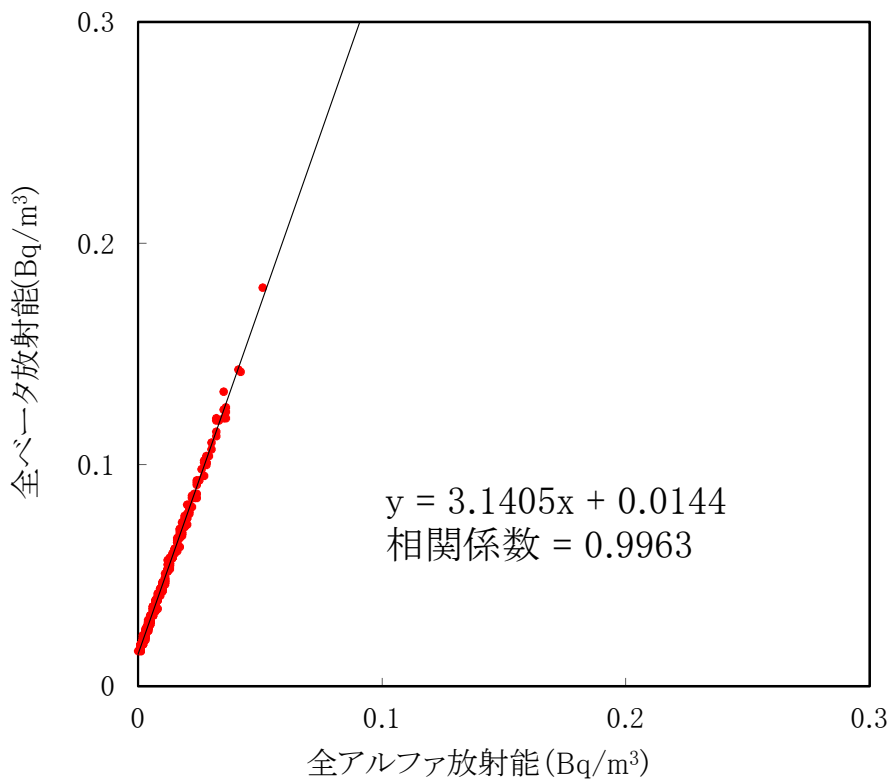


※全アルファ・全ベータの相関から外れた試料については個別に核種濃度を測定している。この結果、Cs-134とCs-137が検出され、その他の核種は検出されていないことを確認している。

大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能の相関図  
 (MP-1)  
 (令和5年4月～令和5年6月)



大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能の相関図  
 (MP-7)  
 (令和5年4月～令和5年6月)





＜参考＞地下水バイパスの評価

(第1四半期:令和5年4月1日～令和5年6月30日)

	核種別			備考
	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>90</sup> Sr	
地下水バイパス	ND	ND	ND	<p>排水放射能(Bq/L)「排水前のタンクの分析結果」に排水量(L)を乗じて求めている。  <sup>90</sup>Srは全βでの評価値である。                      なお、排水中の放射性物質濃度が検出限界未満の場合はNDと表示した。  <sup>134</sup>Cs、<sup>137</sup>Csの検出限界値は1Bq/L未満、全βの検出限界値は5Bq/L未満または1Bq/L未満(10日に1回程度)である。                      排水量は20,357m<sup>3</sup>である。</p>
			<sup>3</sup> H	1.1 × 10 <sup>9</sup>

(単位:Bq)

＜参考＞サブドレン他浄化設備の処理済水の評価

(第1四半期:令和5年4月1日～令和5年6月30日)

	核種別			備考
	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>90</sup> Sr	
サブドレン他 浄化設備の処理済水	ND	ND	ND	<p>排水放射能(Bq/L)「排水前のタンクの分析結果」に排水量(L)を乗じて求めている。  <sup>90</sup>Srは全βでの評価値である。                      なお、排水中の放射性物質濃度が検出限界未満の場合はNDと表示した。  <sup>134</sup>Cs、<sup>137</sup>Csの検出限界値は1Bq/L未満、全βの検出限界値は3Bq/L未満または1Bq/L未満(10日に1回程度)である。                      排水量は44,368m<sup>3</sup>である。</p>
			<sup>3</sup> H	3.6 × 10 <sup>10</sup>

(単位:Bq)

＜参考＞地下水バイパス及びサブドレン他浄化設備の処理済水の排水毎の運用目標値

	核種別			備考
	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>90</sup> Sr	
地下水バイパス	1Bq/L未満	1Bq/L未満	5Bq/L未満 (10日に1回程度の頻度で1Bq/L未満であること)	1500Bq/L未満
サブドレン他 浄化設備の処理済水	1Bq/L未満	1Bq/L未満	3Bq/L未満 (10日に1回程度の頻度で1Bq/L未満であること)	1500Bq/L未満
			<sup>3</sup> H	

<参考>地下水バイパス排水実績

(令和5年4月1日～令和5年6月30日)

排水日	排水量【m <sup>3</sup> 】	セシウム134【Bq/L】	セシウム137【Bq/L】	全ベータ【Bq/L】	トリチウム【Bq/L】
4月5日	1357	<0.86	<0.63	<0.59	62
4月12日	1424	<0.73	<0.69	<0.47	54
4月19日	1361	<0.73	<0.54	<0.67	59
4月26日	1378	<0.66	<0.73	<0.76	57
5月3日	1387	<0.91	<0.88	<0.68	53
5月10日	1710	<0.66	<0.80	<0.65	55
5月17日	1708	<0.61	<0.60	<0.63	59
5月24日	1701	<0.86	<0.74	<0.62	50
5月31日	1721	<0.74	<0.67	<0.71	52
6月7日	1673	<0.74	<0.71	<0.61	53
6月13日	1502	<0.84	<0.66	<0.66	49
6月20日	1713	<0.80	<0.67	<0.66	54
6月27日	1722	<0.83	<0.94	<0.65	51

<参考>サブドレン排水実績

(令和5年4月1日～令和5年6月30日)

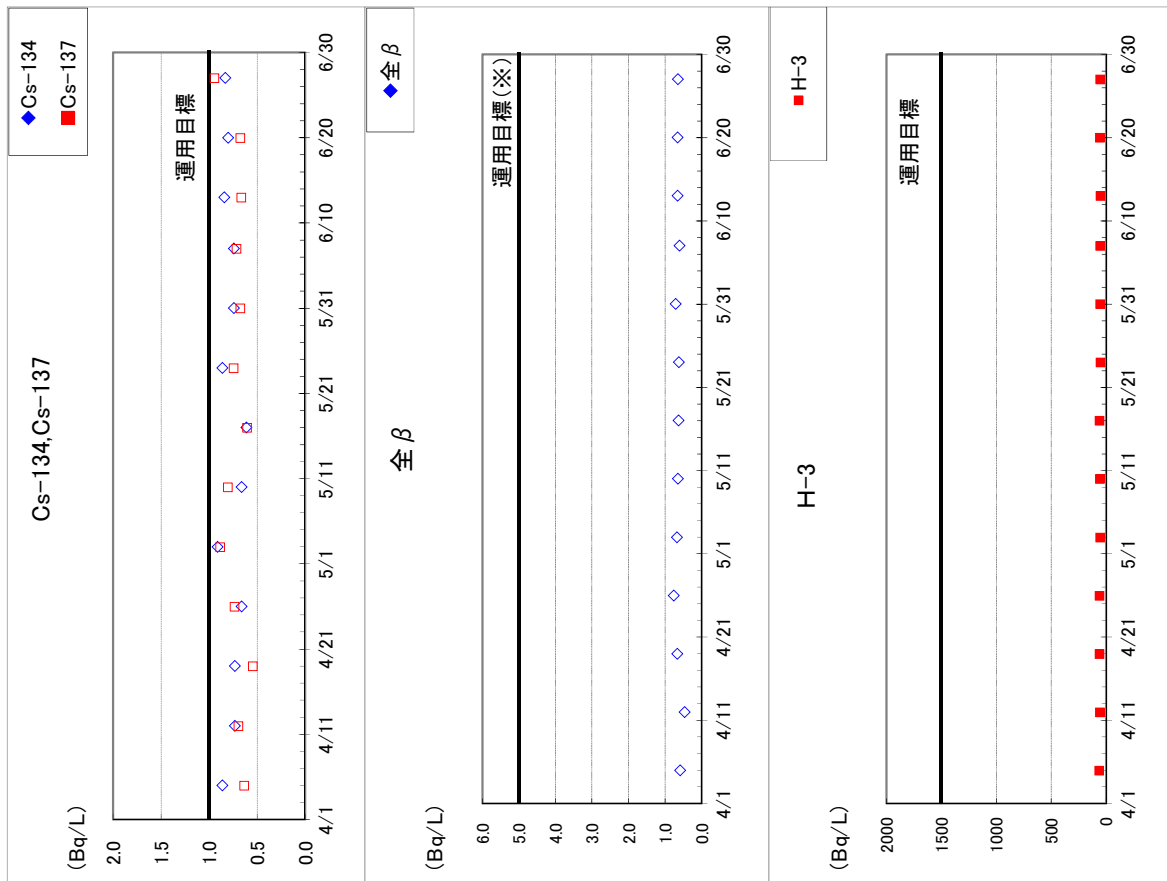
排水日	排水量【m <sup>3</sup> 】	セシウム134【Bq/L】	セシウム137【Bq/L】	全ベータ【Bq/L】	トリチウム【Bq/L】
4月2日	747	<0.73	<0.86	<1.9	800
4月3日	389	<0.66	<0.72	<1.8	850
4月6日	418	<0.73	<0.63	<0.58	790
4月7日	923	<0.86	<0.79	<2.2	770
4月10日	652	<0.86	<0.73	<2.1	780
4月11日	1005	<0.80	<0.60	<1.9	760
4月13日	657	<0.73	<0.77	<1.9	820
4月15日	683	<0.56	<0.75	<0.58	850
4月16日	614	<0.80	<0.65	<2.0	830
4月17日	385	<0.80	<0.73	<1.8	860
4月18日	703	<0.73	<0.54	<1.9	820
4月19日	380	<0.56	<0.65	<2.0	860
4月20日	366	<0.73	<0.73	<1.9	910
4月21日	359	<0.73	<0.60	<1.8	880
4月22日	317	<0.66	<0.65	<1.7	930
4月23日	281	<0.66	<0.77	<1.9	900
4月24日	289	<0.73	<0.65	<0.65	910
4月25日	339	<0.73	<0.80	<1.8	970
4月26日	372	<0.73	<0.80	<1.9	850
4月27日	381	<0.80	<0.69	<1.9	900
4月28日	369	<0.66	<0.73	<1.9	920
4月30日	617	<0.73	<0.54	<2.0	890
5月3日	574	<0.80	<0.67	<0.64	890
5月4日	312	<0.91	<0.76	<1.9	850
5月5日	441	<0.92	<0.82	<1.7	850
5月7日	875	<0.86	<0.86	<0.63	820
5月8日	436	<0.79	<0.82	<2.0	830
5月10日	811	<0.61	<0.82	<1.7	840
5月11日	335	<0.66	<0.62	<1.7	770
5月12日	303	<0.77	<0.59	<1.8	750
5月14日	606	<0.80	<0.67	<1.7	760
5月15日	302	<0.79	<0.77	<0.69	760
5月17日	708	<0.79	<0.51	<1.7	640
5月18日	770	<0.74	<0.84	<1.8	530
5月19日	732	<0.98	<0.77	<2.0	640
5月21日	801	<0.66	<0.67	<1.8	730
5月22日	827	<0.74	<0.74	<0.69	720
5月24日	799	<0.92	<0.79	<1.7	810
5月25日	798	<0.74	<0.84	<1.9	880

<参考>サブドレン排水実績

(令和5年4月1日～令和5年6月30日)

排水日	排水量【m <sup>3</sup> 】	セシウム134【Bq/L】	セシウム137【Bq/L】	全ベータ【Bq/L】	トリチウム【Bq/L】
5月26日	818	<0.87	<0.79	<1.9	870
5月28日	996	<0.86	<0.60	<1.8	810
5月29日	885	<0.86	<0.72	<1.8	910
5月31日	764	<0.86	<0.67	<0.63	890
6月1日	738	<0.57	<0.67	<2.0	880
6月2日	531	<0.86	<0.79	<1.8	830
6月4日	1007	<0.66	<0.62	<1.7	850
6月5日	726	<0.63	<0.59	<1.9	870
6月7日	956	<0.71	<0.60	<0.64	920
6月8日	468	<0.92	<0.66	<1.9	900
6月9日	489	<0.71	<0.60	<1.6	930
6月10日	497	<0.80	<0.65	<2.0	920
6月11日	738	<0.77	<0.65	<1.9	890
6月12日	555	<0.87	<0.75	<2.0	880
6月13日	537	<0.78	<0.79	<1.8	850
6月14日	494	<0.69	<0.60	<0.64	880
6月15日	475	<0.92	<0.82	<2.0	910
6月16日	466	<0.57	<0.55	<2.0	930
6月17日	506	<0.86	<0.62	<1.8	930
6月18日	601	<0.66	<0.67	<1.7	830
6月19日	563	<0.74	<0.67	<1.6	740
6月20日	620	<0.66	<0.67	<1.9	750
6月21日	656	<0.81	<0.75	<0.57	790
6月22日	665	<0.71	<0.59	<1.6	850
6月23日	811	<0.74	<0.83	<1.8	760
6月24日	946	<0.71	<0.77	<1.9	710
6月25日	768	<0.80	<0.72	<1.9	630
6月26日	806	<0.91	<0.72	<1.9	600
6月27日	826	<0.66	<0.67	<1.7	640
6月28日	951	<0.80	<0.62	<0.64	660
6月29日	810	<0.71	<0.72	<2.0	680
6月30日	1023	<0.84	<0.64	<1.9	740

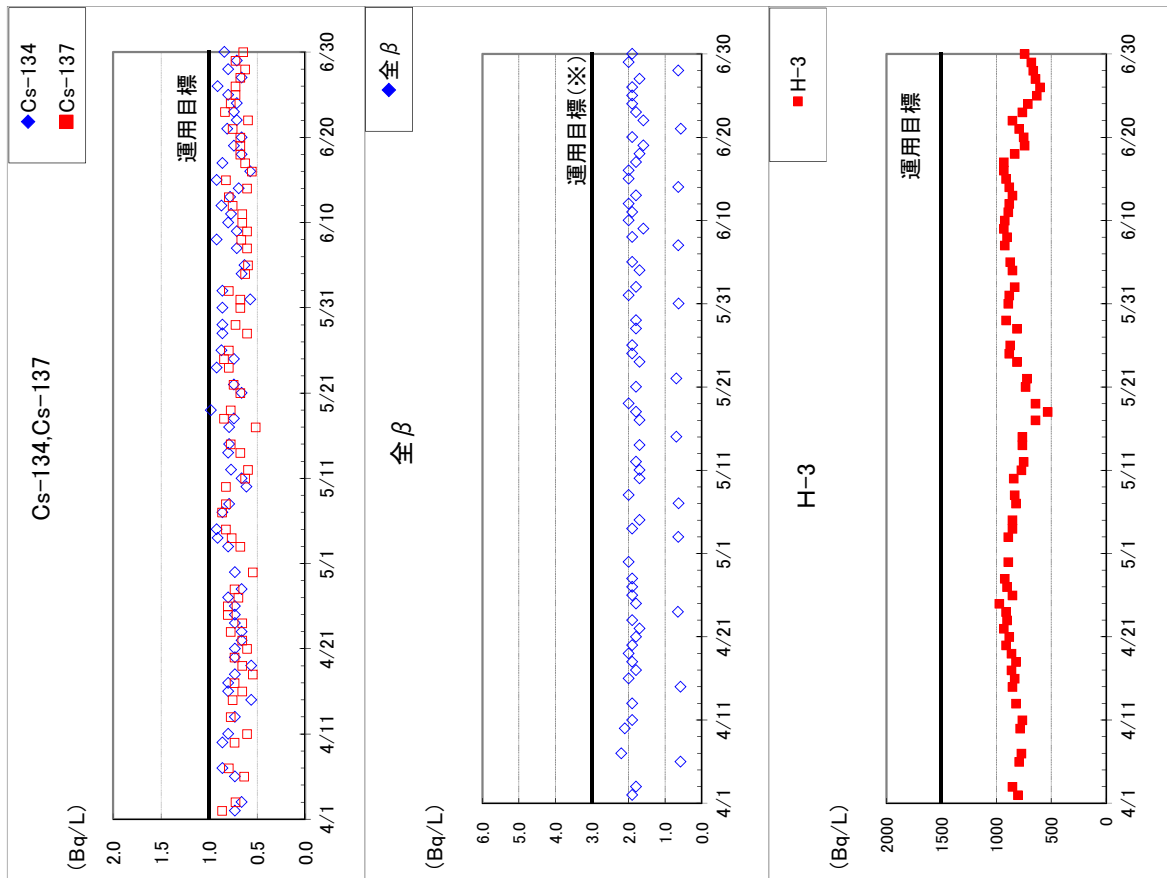
地下水バイパス排水実績(令和5年4月～令和5年6月)



\*: 白抜きのプロットは検出下限値未満であるため、検出下限値をプロットしている。

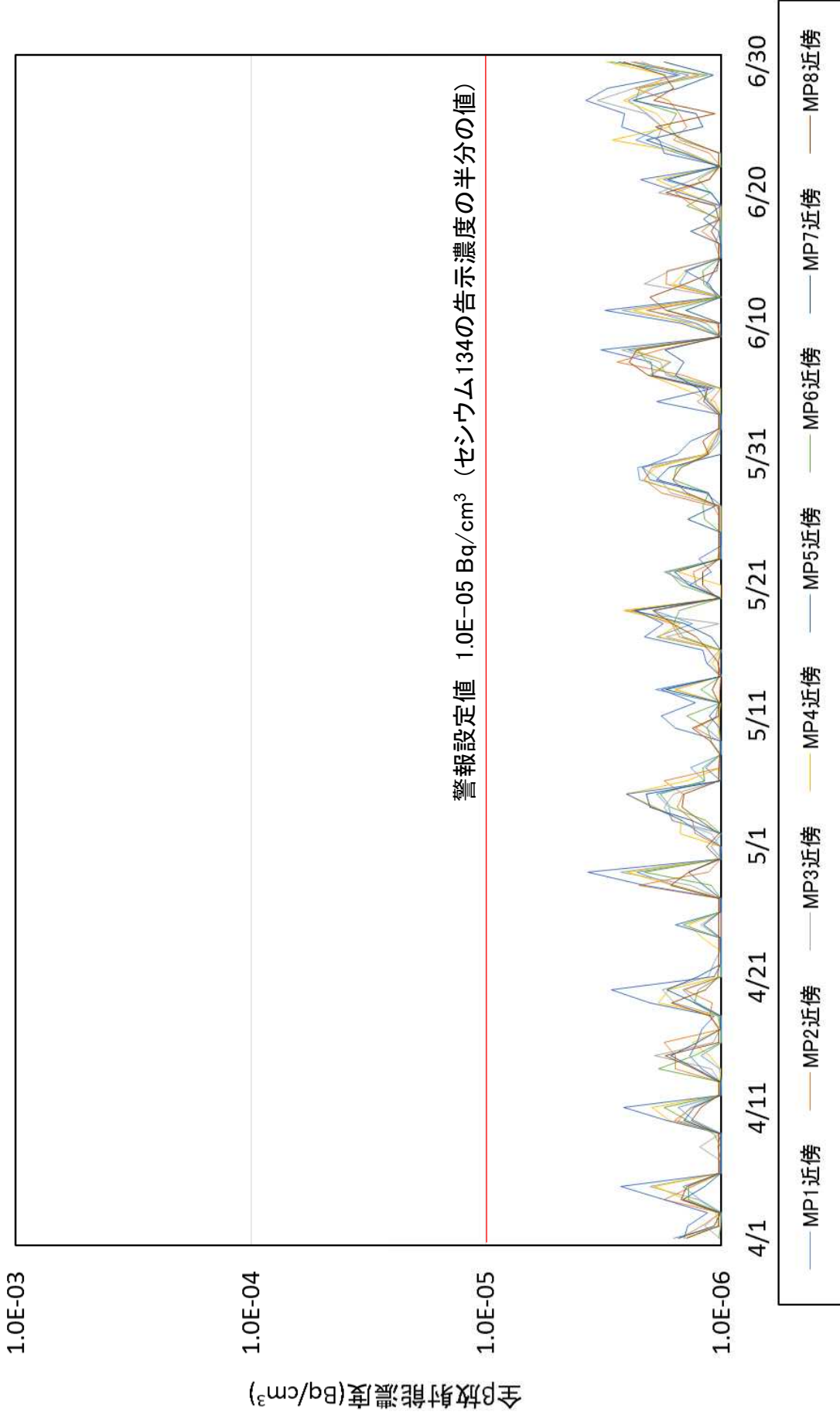
※: 10日に1回程度の分析では、検出限界値を1Bq/Lに下げて実施

サブドレン排水実績(令和5年4月～令和5年6月)



# ＜参考＞福島第一原子力発電所 敷地境界近傍ダストモニタ指示値

(2023/4/1～2023/6/30)



グラフ値は日最大値を記載(5分正時の値)